Ⅴ　鏑木清方に関する資料

1　鏑木清方に関する文献目録

凡例

一、この目録は、柏木智雄編「鏑木清方関連書誌」『鏑木清方画集　資料編』(ビジョン企画出版社、1998 年)ほか、過去の鏑木清方展図録や、国立国会図書館、鎌倉市鏑木清方記念美術館での調査を元に作成した。団体展、図版のみ掲載の各種展覧、グループ展の目録類、美術館所蔵品等の目録、解説などのない口絵・装丁、諸展覧会評のうち直接鏑木清方に言及していないもの、一部元資料の確認ができないもの、海外の文献は割愛した。なお、旧字は原則として現在の新字に統一した。

二、本目録は次の項目で構成される。

Ⅰ　画集
Ⅱ　展覧会図録
(一)鏑木清方展
(二)当館特別展解説小冊子
(三)関連展覧会
Ⅲ　鏑木清方自筆文献、対談ほか
(一)単行書
(二)逐次刊行物
Ⅳ　作品評、鏑木清方論等
(一)評論・エッセイ等
(二)研究論文
(三)研究書等
(四)対談
(五)海外文献(鏑木清方関連)
(六)随筆所載文献
Ⅴ　鏑木清方自筆文献単行書の所収

三、使用した記号は下記のとおり。

(※下記の記号に+「g」で月報を示す。例:b6g　鏑木清方文集　6 月報)

ag:紫陽花舎随筆
as:蘆の芽
az:東なまり
b1:鏑木清方文集　一　制作餘談
b2:鏑木清方文集　二　明治追懐
b3:鏑木清方文集　三　先人後人
b4:鏑木清方文集　四　春夏秋冬
b5:鏑木清方文集　五　名所古跡
b6:鏑木清方文集　六　時粧風俗
b7:鏑木清方文集　七　畫壇時事
b8:鏑木清方文集　八　隨時隨感
eg:繪具箱
ds:道中硯
gb:畫房隨筆
gg:鏑木清方繪入本　御濠端
gk:菊池寛編『現代文章軌範』
gs:銀砂子
gz:群像　日本の作家　5　泉鏡花
k1:こしかたの記
k2:續こしかたの記
kg:鏡花全集　月報
k4:鏡花全集　四巻
k28:鏡花全集　二八巻
(k4g:鏡花全集　4 月報)
kt:巨匠との対話
kz:新装―きもの随筆―
nk:文学に見る日本の川
n32:日本美術院百年史　三巻下(資料編)
rs:連翹
rt:靈華追悼畫集
sk:四季しのぶ草
ss:清方随筆選集
tb:昭和・物故の美術家たち　追悼文集
tf:木村荘八『東京の風俗』
tg:築地川
ts:褪春記
yg: 安田靫彦『画想』
yk:柳小紋
zm:随筆集・明治の東京
zt:鏑木清方随筆集―東京の四季―
za:紫陽花舎随筆(講談社文芸文庫)
叢 1:鏑木清方記念美術館　収蔵品図録　―作品編―
叢 2:鏑木清方記念美術館　収蔵品図録　―卓上芸術編(一)　明治・大正期―
叢 3:鏑木清方記念美術館　収蔵品図録　―卓上芸術編(二)　昭和期―
叢 4:鏑木清方　挿絵図録　―文藝倶樂部編(一)―
叢 5:鏑木清方　挿絵図録　―文藝倶樂部編(二)―
叢 6:鏑木清方　挿絵図録　―東北新聞編・講談雑誌編―
叢 7:鏑木清方　挿絵図録　―泉鏡花編―
叢 8:鏑木清方　展覧会・挿絵図録　―烏合会と『新小説』の時代―
叢 9:鏑木清方 展覧会・挿絵図録　―官展(文展・帝展・日展)への出品作―
叢 10:鏑木清方の系譜　―師水野年方から清方の弟子たちへ―
叢 11:鏑木清方と七絃会　―安田靫彦、小林古径、前田青邨、菊池契月、土田麦僊、平福百穂、速水御舟、西村五雲とともに―
叢 12:鏑木清方の芝居絵
叢 13:鏑木清方の美人画　―樋口一葉著作関係及び『婦人世界』・『婦人公論』関係作品所収―
叢 14:鏑木清方の随筆『こしかたの記』を読む　その一　―『報知新聞』明治・大正初期関連作品所収―
叢 15:鏑木清方と硯友社　―尾崎紅葉・泉鏡花・山岸荷葉著作関連作品所収―
叢 16:鏑木清方記念美術館　収蔵品図録
叢 17:鏑木清方の随筆『こしかたの記』を読む　その二　―『報知新聞』大正期掲載挿絵及び関連口絵所収 ―
叢 18:鏑木清方と珊々会　西山翠嶂、西村五雲、松岡映丘、菊池契月、結城素明、上村松園、小杉放菴とともに ―『報知新聞』大正期掲載挿絵等所収 ―
叢 19:鏑木清方の随筆『續こしかたの記』を読む　その一　―『九州日報』掲載挿絵等所収 ―
叢 20:鏑木清方の随筆『續こしかたの記』を読む　その二　―『讀賣新聞』掲載挿絵等所収―
叢 21:鏑木清方と金鈴社　吉川霊華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに　―『中央美術』・『新浮世絵講義』関係資料所収―
叢 22:鏑木清方と昭和の美人画　―青衿会及び『婦人画報』関係作品所収―

叢 23:清方が描いた子どもの世界 ―『少年世界』『少女世界』『少年界』『少女界』掲載口絵等所収―
叢 24:鏑木清方の卓上芸術 ―『苦楽』『文藝界』関係資料所収―

Ⅰ 画集

鏑木清方画・菊池清(幽芳)編『百合子画集 上・下』金尾文淵堂、1914 年 5 月
鏑木清方『清方美人画譜』日本美術学院、1914 年 5 月、叢 2、叢 21、叢 24
『清方 百穂 団扇絵』榛原直次郎、1918 年 6 月
鏑木清方『美人画選集』日本美術学院、1919 年
鏑木清方(編集委員代表)『現代作家美人画全集 上・中・下』新潮社、1932 年
泉鏡花著・鏑木清方画『註文帳画譜 一集』新小説社、1935 年
泉鏡花著・鏑木清方画『註文帳画譜 二集』新小説社、1935 年
泉鏡花著・鏑木清方画『註文帳画譜 三集』新小説社、1935 年
泉鏡花著・鏑木清方画『註文帳画譜 四集』新小説社、1936 年
座右宝刊行会編『現代日本美術全集 第 5 巻』角川書店、1955 年
鏑木清方『にごりえ』美術出版社、1957 年、叢 3
清方画集編集委員会編『清方画集』清方画集刊行会(発売:美術出版社)、1957 年 11 月
鏑木清方、中村渓男編『現代作家デッサン 第三十集 鏑木清方』芸艸堂、1959 年 10 月
松屋本社企画部『鏑木清方自選展図録』三彩社、1962 年 5 月
鏑木清方・菅楯彦編『東京と大阪』毎日新聞社、1962 年 6 月、叢 3
鈴木進『講談社版 日本近代絵画全集 第 21 巻 鏑木清方 平福百穂』講談社、1962 年 10 月
鏑木清方、制作監修:東山魁夷『画集 鏑木清方』毎日新聞社、1971 年 10 月
竹田道太郎編『日本の名画 19 鏑木清方』講談社、1973 年 7 月
井上靖・河北倫明・高階秀爾編『日本の名画 10 鏑木清方』中央公論社、1975 年 12 月
鈴木進・宮川謙一・谷川徹三・河北倫明監修『現代日本の美術 第 3 巻 鏑木清方/山口蓬春』集英社、1976 年 5 月
福永重樹、座右宝刊行会編『現代日本美人画全集 第 2 巻 鏑木清方』集英社、1977 年 10 月
『鏑木清方の世界 美人画明治風俗』(毎日グラフ デラックス別冊)毎日新聞社、1978 年 4 月
井上靖・河北倫明・高階秀爾編『カンヴァス日本の名画 10 鏑木清方』中央公論社、1978 年 11 月
小林忠編『日本画素描大観 三 鏑木清方』講談社、1981 年 2 月
佐々木直比古、相賀徹夫編『現代日本絵巻全集 第 6 巻 鏑木清方/松岡映丘』小学館、1984 年 2 月
小島茂編『美術特集 鏑木清方』(アサヒグラフ別冊 1986 夏)朝日新聞社、1986 年 8 月
新集社編『鏑木清方 その生涯と作品と創造の源(分冊百科シリーズ 日本絵画の巨匠たち)』(週刊アーティスト・ジャパン ARTISTS JAPAN 26)同朋舎出版、1992 年 8 月
河北倫明・平山郁夫監修、大塚雄三編『巨匠の日本画〔6〕鏑木清方』学習研究社、1994 年 4 月
池内紀、日本アートセンター編『新潮日本美術文庫 31 鏑木清方』新潮社、1997 年 3 月
『鏑木清方画集』ビジョン企画出版社、1998 年 8 月
『芸術新潮 (特集)鏑木清方が描き、語る私の東京ものがたり』50 巻 4 号、新潮社、1999 年 4 月
『おんなえ : 近代美人版画全集』阿部出版、2000 年 10 月
『鏑木清方 逝きし明治のおもかげ』(別冊 太陽 日本のこころ 152)平凡社、2008 年 4 月
内田武夫・島田康寛監修『美人画の系譜 鏑木清方と東西の名作百選 : 福富太郎コレクション』青幻舎、2009 年 1 月
加藤類子監修『美人画の四季 ―松園、清方、恒富から麦僊まで 培広庵コレクション』青幻舎、2012 年 4 月
小川知子・南由紀子編『ジャパン・ビューティー 描かれた日本美人 知られざるプライベートコレクション』アートシステム、2013 年 3 月
加藤類子監修『美人画の雪月花』橋本広告事務所、2018 年 6 月
鶴見香織監修・執筆『鏑木清方原寸美術館 100%KIYOKATA！』小学館、2019 年 10 月
鎌倉市鏑木清方記念美術館・鶴見香織監修『鏑木清方美人画集成』小学館、2022 年 3 月
『鏑木清方: 市井に生きたまなざし (別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022 年 3 月
『芸術新潮 (特集)鏑木清方 語りはじめる美人画』73 巻 4 号、新潮社、2022 年 4 月

Ⅱ 展覧会図録

(一)鏑木清方展

『鏑木清方個人展覧会「月雪花」図録』、1938 年 10 月、〔会場 長堀橋・高島屋(大阪)〕
『鏑木清方新作展』三越美術部、1950 年 11 月、〔会場 三越美術部(東京)〕
『鏑木清方画業五十年展 深水代表作併陳』朝日新聞社、1950 年 11 月
『鏑木清方回顧展目録』神奈川県立近代美術館、1954 年 4 月
『鏑木清方自選展』朝日新聞社、1962 年 5 月、〔会場 銀座松屋(東京)〕
『鏑木清方展』朝日新聞社、1965 年 10 月、〔会場 横浜高島屋(神奈川)〕
『鏑木清方 今様絵詞の会』、1969 年 10 月、〔会場 日本橋・高島屋(東京)、叢 3
『毎日新聞創刊百年記念 鏑木清方展』毎日新聞社、1971 年 10 月、〔会場 銀座松屋(東京)〕
『特別陳列 回想の清方 その一』サントリー美術館、1973 年 2 月、〔会場 サントリー美術館(東京)〕
『特別陳列 回想の清方 その二』サントリー美術館、1974 年 1 月、〔会場 サントリー美術館(東京)〕
『特別陳列 回想の清方 その三』サントリー美術館、1975 年 1 月、〔会場 サントリー美術館(東京)〕
『近代日本画の巨匠 鏑木清方展 生誕百年記念』京都新聞社、1977 年 9 月、〔会場 京都市美術館(京都)〕
鈴木進・瀬木慎一・山田肇監修『鏑木清方展』朝日新聞社、1982 年 1 月、〔会場 新宿・小田急(東京)、阿倍野・近鉄(大阪)、三ノ宮・そごう(兵庫)〕
『美人画の巨匠――鏑木清方展』、1985 年 4 月、〔会場 高岡市立美術館(富山)、尾道市立美術館(広島)、高知県立郷土文化会館(高知)〕
『鏑木清方展』横浜美術館、1990 年 1 月、〔会場 横浜美術館(神奈川)〕
『没後 20 年記念 鏑木清方展』朝日新聞社、1992 年 1 月、〔会場 日本橋・高島屋(東京)、なんば・高島屋(大阪)〕
『鏑木清方展』南日本新聞社／名都美術館、1993 年 2 月、〔会場 鹿児島市立美術館(鹿児島)、名都美術館(愛知)〕
『鏑木清方展』京都新聞社、1993 年 4 月、〔会場 静岡県立美術館(静岡)、岡山県立美術館(岡山)、滋賀県立美術館(滋賀)〕
『受贈記念 鏑木清方展』鎌倉国宝館、1994 年 10 月、〔会場 鎌倉国宝館(神奈川)〕
『一所蔵作品による―開館記念 鏑木清方展』鎌倉市鏑木清方記念美術館、1998 年 4 月、〔会場 鏑木清方記念美術館(神奈川)〕
『清方ゑがく肖像画』鎌倉市鏑木清方記念美術館、1998 年 10 月、〔会場 鏑木清方記念美術館(神奈川)〕
『清方の描いた女性たち―雑誌『苦楽』の表紙にみる―』鎌倉市鏑木清方記念美術館、1999 年 9 月、〔会場 鏑木清方記念美術館(神奈川)〕
『鏑木清方展』東京国立近代美術館／読売新聞社、1999 年 3 月、〔会場 東京国立近代美術館(東京)〕
『四季の女性』鎌倉市鏑木清方記念美術館、2000 年 9 月、〔会場 鏑木清

方記念美術館(神奈川)〕

『鏑木清方名作集 鎌倉市鏑木清方記念美術館開館十周年記念図録』鎌倉市鏑木清方記念美術館、2008 年 3 月、〔1998～2007 年度開催特別展借用作品等収録〕

『春の特別展作品選集』鎌倉市鏑木清方記念美術館、2009 年 4 月、〔会場 鎌倉市鏑木清方記念美術館〕

『清方ノスタルジア 名品でたどる 鏑木清方の美の世界』サントリー美術館、2009 年 11 月、〔会場 サントリー美術館(東京)〕

『鏑木清方名作集 鎌倉市鏑木清方記念美術館開館十五周年記念図録』鎌倉市鏑木清方記念美術館、2013 年 3 月、〔2008～2012 年度開催特別展借用作品等収録〕

『追憶の美人 日本画家 鏑木清方』佐野美術館、2014 年 4 月、〔会場 佐野美術館(静岡)〕

『鏑木清方と江戸の風情』千葉市美術館、2014 年 9 月、〔会場 千葉市美術館(千葉)〕

『鏑木清方名作集 鎌倉市鏑木清方記念美術館開館二十周年記念図録』鎌倉市鏑木清方記念美術館、2018 年 3 月、〔2013～2017 年度開催特別展借用作品等収録〕

『鏑木清方 ―清くあれ、潔くあれ、うるはしくあれ―』名都美術館、2019 年 10 月、〔会場 名都美術館(愛知)〕

『没後 50 年 鏑木清方展』東京国立近代美術館、2022 年 3 月～7 月、〔会場 東京国立近代美術館(東京)・京都国立近代美術館(京都)〕

(二)当館特別展解説小冊子

「渡辺省亭生誕170年記念 鏑木清方と渡辺省亭 ―江戸画人の水脈―」解説小冊子、2022 年 9 月

特別展「あふれる詩情と浪漫―鏑木清方と中澤弘光―」解説小冊子、2024 年 10 月

特別展「もの想う美人 ―明橋コレクションでたどる女性美―」解説小冊子、2025 年4月

鎌倉初公開 特別展「あの人に会える！清方の代表作《築地明石町》三部作」解説小冊子、2025 年 10 月

(三)関連展覧会

『清方深水名作美人画展』大阪読売新聞社、1957 年 5 月、〔会場 阿倍野・近鉄百貨店(大阪)〕

『金鈴社の画家たち 鏑木清方 吉川霊華 平福百穂 松岡映丘 結城素明』京都国立近代美術館、1977 年 5 月

『今村紫紅・速水御舟・松岡映丘・鏑木清方……日本画の前衛たち』東京都美術館、1986 年 10 月、〔会場 東京都美術館(東京)〕

『近代日本画 東西の巨匠たち』京都新聞社、1987 年 5 月

『名都美術館本館開館記念特別展 麗しの風姿―三代巨匠美人画展―』財団法人林美術財団、1992 年 5 月、〔会場 名都美術館(愛知)〕

『大正期の日本画 金鈴社の五人展』練馬区美術館/新潟県立近代美術館、1995 年 11 月、〔会場 練馬区立美術館(東京)、新潟県立近代美術館(新潟)〕

『本郷座の時代―記憶のなかの劇場・映画館―』文京ふるさと歴史館、1996 年 10 月、〔会場 文京ふるさと歴史館(東京)〕

『明治日本画の新情景 ひと・まち・しぜん』山口県立美術館、1996 年 12 月、〔会場 山口県立美術館(山口)〕

『名都美術館名品展 松園、清方、深水を中心に』朝日新聞社文化企画局大阪企画部、1999 年 5 月、〔会場 名都美術館(愛知)〕

『美人画の系譜展 上村松園・鏑木清方・伊東深水』南日本新聞社、1999 年 1 月〔会場 鹿児島市立美術館(鹿児島)〕

『清方と深水・紫明展』神戸新聞社、1999 年 4 月、〔会場 明石市立文化博物館(兵庫)/奈良そごう美術館(奈良)〕

『歌川國芳一門の全貌展:國芳から暁斎、芳年、清方へ』総合美術研究所/北海道立旭川美術館、2000 年 9 月、〔会場 北海道立旭川美術館(北海道)〕

『20世紀を生きた日本画の巨匠展 ～生きることは描くこと～』日本経済新聞社、2000 年 3 月、〔ジェイアール名古屋タカシマヤ(愛知)/日本橋高島屋(東京)/大阪・なんば高島屋(大阪)/横浜高島屋(神奈川)〕

『ファミリー美術館 子供の世界 ―遊びと暮し―』茨城県近代美術館、2000 年 8 月、〔会場 茨城県近代美術館(茨城)〕

『没後百年 三遊亭円朝とその時代展』早稲田大学演劇博物館、2000 年 6 月、〔会場 早稲田大学演劇博物館(東京)〕

『女性美の 500 年―描かれたイメージ 西洋と日本』東京富士美術館、2001 年 11 月、〔会場 東京富士美術館(東京)〕

『特別展 お夏清十郎ものがたり』姫路文学館、2002 年 12 月、〔会場 姫路文学館(兵庫)〕

『上村松園 鏑木清方展』北日本新聞社/北日本放送/富山県水墨美術館、2002 年 10 月〔会場富山県水墨美術館〕

『Seasons : the beauty of transience in Japanese art』オーストラリア ニューサウスウェールズ州立美術館(Art Gallery of New South Wales)、2003 年 8 月、〔会場 オーストラリア ニューサウスウェールズ州立美術館(オーストラリア)〕

『特別展 樋口一葉その生涯 明治の文京を舞台に』文京ふるさと歴史館/文京区教育委員会、2003 年 10 月、〔会場 文京ふるさと歴史館(東京)〕

『横浜メディア・ビジネスセンターオープン記念県内美術館所蔵品によるかながわの絵 展図録』そごう美術館/神奈川新聞社、2004 年 5 月、〔会場 そごう美術館(神奈川)〕

『近代日本画にみる女性たち』札幌テレビ放送、2004 年 4 月、〔会場 北海道立近代美術館(北海道)〕

『日本絵画・二〇世紀の草創 日清-日露戦争の時代 下関市立美術館企画展図録』下関市立美術館、2004 年 11 月、〔会場 下関市立美術館(山口)〕

『私たちの装身具 1850－1950 日本のジュエリー100 年 展覧会カタログ』美術出版社、2005 年 2 月、〔会場 東京都庭園美術館(東京)〕

『福島県立博物館 平成十七年度第一回企画展図録 老い―老いをめぐる美とカタチ』福島県立博物館、2005 年 4 月、〔会場 福島県立博物館(福島)〕

『波瀾万丈!明治・大正の家庭小説展』弥生美術館、2005 年 1 月、〔会場 弥生美術館(東京)〕

『物語のある絵画 ― 日本画と古典文学の出会い―』静岡県立美術館、2005 年 6 月、〔会場 静岡県立美術館(静岡)〕

『台湾の女性日本画家 生誕一〇〇年記念 陳進展』渋谷区立松濤美術館/兵庫県立美術館/福岡アジア美術館、2006 年 4 月、〔会場 渋谷区立松濤美術館(東京)、兵庫県立美術館(兵庫)、福岡アジア美術館(福岡)〕

『余白の美 象徴空間の魅力』松伯美術館、2006 年 10 月、〔会場 松伯美術館(奈良)〕

『名品と映像でたどる、とっておきの美術案内 NHK日曜美術館30年展』NHK、2006 年 9 月、〔会場 東京藝術大学大学美術館(東京)/京都文化博物館(京都)/広島県立美術館(広島)/岩手県立美術館(岩手)/長崎県美術館(長崎)/静岡県立美術館(静岡)〕

『鏡花本装丁美の世界 4人の画人 鰭崎英朋・鏑木清方・橋口五葉・小村雪岱』泉鏡花記念館、2006 年 3 月、〔会場 泉鏡花記念館(石川)〕

『明治神宮外苑創建 80 年記念特別展 小堀鞆音と近代日本画の系譜―勤皇の画家と「歴史画」の継承者たち―』明治神宮、2006 年 10 月、〔会場 明治神宮文化館 宝物展示室(東京)〕

『ようこそかながわへ ―20 世紀前半の観光文化』神奈川県立歴史博物館、2007 年 4 月、〔会場 神奈川県立歴史博物館(神奈川)〕

『日展一〇〇年』国立新美術館/宮城県美術館/広島県立美術館/富山県立近代美術館・日本経済新聞社、2007 年 7 月、〔会場 国立新美術館(東京)、宮城県美術館(宮城)、広島県立美術館(広島)、富山県立近代美術館(富山)〕

『三都の女―東京・京都・大坂における近代女性表現の諸相―』笠岡市立

竹喬美術館／稲沢市荻須記念美術館／高崎市タワー美術館、2007 年 9 月、〔会場 笠岡市立竹喬美術館(岡山)／稲沢市荻須記念美術館(愛知)／高崎市タワー美術館(群馬)〕

『美人画の三巨匠 清方・深水・紫明展』日本経済新聞社、テレビ愛知、松坂屋美術館、2007 年 9 月、〔会場 松坂屋美術館(愛知)〕

『八犬伝の世界』千葉市美術館、2008 年 7 月、〔会場 愛媛県美術館(愛媛)／千葉市美術館(千葉)〕

『美の大饗宴 上村松園、鏑木清方、伊東深水』名都美術館、2008 年 10 月、〔会場 名都美術館(愛知)〕

『南蛮の夢、紅毛のまぼろし』府中市美術館、2008 年 3 月、〔会場 府中市美術館(東京)〕

『大正ロマン昭和モダン展―竹久夢二・高畠華宵とその時代―』徳島県立近代美術館・徳島新聞社・四国放送／駿府博物館／栃木市・栃木市教育委員会・とちぎ蔵の街美術館、2008 年 4 月、〔会場 徳島県立美術館(徳島)、駿府博物館(静岡)、とちぎ蔵の街美術館(栃木)〕

『大正ロマン・昭和モダン 大衆芸術の時代展～竹久夢二から中原淳一まで』茨城県天心記念五浦美術館、2009 年 7 月、〔会場 茨城県天心記念五浦美術館(茨城)〕

『美人画―描かれた女たち・魅惑の女性美』華鴒大塚美術館、2009 年 10 月〔会場 華鴒大塚美術館(岡山)〕

『和装美人から洋装美人へ : 大正・昭和の女性像』京都府立堂本印象美術館、2009 年 10 月、〔会場 京都府立堂本印象美術館(京都)〕

『生誕 130 年 長谷川時雨展』神奈川近代文学館、2009 年 11 月、〔会場 神奈川近代文学館(神奈川)〕

『小村雪岱とその時代 粋でモダンで繊細で』埼玉県立近代美術館、2009 年 12 月、〔会場 埼玉県立近代美術館(埼玉)〕

『香り かぐわしき名宝展』東京藝術大学大学美術館、2011 年 4 月、〔会場 東京藝術大学大学美術館〕

『第 17 回秘蔵の名品アートコレクション展 文化勲章受章作家の競演 ―日本絵画の巨匠たち―』ホテルオークラ東京、2011 年 8 月、〔会場 ホテルオークラ東京(東京)〕

『市制80周年記念展 上村松園と鏑木清方』平塚市美術館、2012 年7 月、〔会場 平塚市美術館(神奈川)〕

『名都美術館 開館25周年記念 麗しき女性の美 上村松園 鏑木清方 伊東深水展』名都美術館、2012 年 10 月、〔会場 名都美術館(愛知)〕

『生誕 140 年記念 島崎藤村展』県立神奈川近代文学館、2012 年 10 月、〔会場 県立神奈川近代文学館(神奈川)〕

『はじまりは国芳 ―江戸スピリットのゆくえ』横浜美術館、2012 年 11 月、〔会場 横浜美術館(神奈川)〕

『「もののあはれ」と日本の美』サントリー美術館、2013 年 4 月、〔会場 サントリー美術館(東京)〕

『夏目漱石の美術世界』広島県立美術館、東京藝術大学大学美術館2013 年 5 月、〔会場 広島県立美術館(広島)、東京藝術大学大学美術館(東京)〕

『皇室の名品 近代日本美術の粋』京都国立近代美術館、2013 年 11 月、〔会場 京都国立近代美術館(京都)〕

『艶美の競演 ―東西の美しき女性 木原文庫より』笠岡市立竹喬美術館、2014 年 10 月、〔会場 笠岡市立竹喬美術館(岡山)〕

『夜の画家たち ―蝋燭の光とテネブリスム―』ふくやま美術館、山梨県立美術館、2015 年 1 月、〔会場 ふくやま美術館(広島)、山梨県立美術館(山梨)〕

『徳川慶喜』茨城県立歴史館、2015 年 2 月、〔会場 茨城県立歴史館(茨城)〕

『上村松園 生誕 140 年記念 松園と華麗なる女性画家たち』山種美術館、2015 年 4 月、〔会場 山種美術館(東京)〕

『うらめしや～、冥途のみやげ展』東京藝術大学大学美術館、2015 年 7 月、〔会場 東京藝術大学大学美術館(東京)〕

『鏑木清方・伊東深水 美の系譜』ウッドワン美術館、2015 年 9 月、〔会場 ウッドワン美術館(広島)〕

『金沢百景 角田武夫が描いた失われた風景』神奈川県立金沢文庫、2016 年 3 月、〔会場 神奈川県立金沢文庫(神奈川)〕

『髙島屋史料館所蔵 日本美術と髙島屋 ～交流が育てた秘蔵コレクション』名都美術館、髙島屋史料館、2016 年 4 月、〔会場 名都美術館(愛知)、日本橋髙島屋(東京)、京都髙島屋(京都)〕

『鏡花の書斎 ―「幻想」の生まれる場所―』慶應義塾大学図書館、2016 年 10 月、〔会場 丸善丸の内本店(東京)〕

『ファッションとアート 麗しき東西交流』横浜美術館・京都服飾文化研究財団、2017 年 4 月、〔会場 横浜美術館(神奈川)〕

『秘蔵の名品 アートコレクション展 佳人礼讃 ―うるわしの姿を描く』ホテルオークラ東京、2017 年 7 月、〔会場 ホテルオークラ東京(東京)〕

『デカダンスの気配 新視点培広庵コレクション』笠岡市立竹喬美術館、2017 年 9 月、〔会場 笠岡市立竹喬美術館(岡山)〕

『語 ―歌会始御題によせて―』神宮美術館、2018 年 2 月、〔会場 神宮美術館(三重)〕

『東西美人画の名作《序の舞》への系譜』東京藝術大学大学美術館、2018 年 3 月、〔会場 東京藝術大学大学美術館〕

『怪談皿屋敷のナゾ 姫路名物お菊さん』姫路文学館、2018 年 4 月、〔会場 姫路文学館(兵庫)〕

『ゆかた 浴衣 YUKATA』長崎巌／島根県立石見美術館／泉屋博古館分館／川越市立美術館／長崎県美術館、2018 年 7 月、〔会場 島根県立石見美術館(島根)／泉屋博古館分館(東京)／川越市立美術館(埼玉)〕

『明治 150 年記念 真明解・明治美術／増殖する新メディア ―神奈川県立博物館 50 年の精華』神奈川県立歴史博物館、2018 年 8 月、〔会場 神奈川県立歴史博物館(神奈川)〕

『幽玄なる世界 ―吉野石膏コレクション―』笠岡市立竹喬美術館、2018 年 11 月、〔会場 笠岡市立竹喬美術館(岡山)〕

『櫛とかんざしの物語』市川市文学ミュージアム、2018 年 11 月、〔会場 市川市文学ミュージアム(千葉)〕

『モダン美人誕生 岡田三郎助と近代のよそおい』ポーラ美術館、2018 年 12 月、〔会場 ポーラ美術館(神奈川)〕

『美人画の時代 ―春信から歌麿、そして清方へ』町田市立国際版画美術館、2019 年 10 月、〔会場 町田市立版画美術館(東京)〕

『鏑木清方と鰭崎英朋 近代文学を彩る口絵 ―朝日智雄コレクション』太田記念美術館、2020 年 2 月、〔会場 太田記念美術館(東京)〕

『明治錦絵×大正新版画 世界が愛した近代の木版画』神奈川県立歴史博物館、2020 年 4 月、〔会場 神奈川県立歴史博物館〕

『あやしい絵展』毎日新聞社、2021 年 3 月、〔会場 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館〕

『コレクター福富太郎の眼 : 昭和のキャバレー王が愛した絵画』アートワン、2021 年 4 月、〔会場 東京ステーションギャラリーほか〕

『東京国立近代美術館 70 周年記念展 重要文化財の秘密』東京国立近代美術館、2023 年 3 月、〔会場:東京国立近代美術館(東京)〕

『大吉原展』東京藝術大学、2024 年 3 月、〔会場 東京藝術大学大学美術館(東京)〕

Ⅲ 鏑木清方自筆文献、対談ほか

(一)単行書

鏑木清方「小説の挿絵」(談話)、『現代画集 卯月之巻』春陽堂、1911 年 4 月、b2g

尾崎紅葉原著・鏑木清方編画『金色夜叉絵巻』春陽堂、1912 年 1 月

鏑木清方「絵巻の後に」『金色夜叉絵巻』春陽堂、1912 年 1 月、叢 15

鏑木清方「新浮世絵講義」、『日本画講義』、日本美術学院、1915 年頃

鏑木清方「美人画講話」、『日本画講義』日本美術学院、1924 年頃

鏑木清方「画房雑稿」、『画生活随筆』アトリエ社、1925 年 3 月、b1・tg

鏑木清方編『日本風俗画大成　六　徳川時代中期』中央美術社、1929 年
鏑木清方編『日本風俗画大成　八　明治時代』中央美術社、1929 年
鏑木清方「明治の挿絵」、新潮社編『日本文学講座　6』新潮社、1929 年
鏑木清方「追憶断片」、関如来編集『霊華追悼画集』(芸術雑誌『関』創刊記念)、会心居、1929 年 5 月、b3
鏑木清方「序文」、吉川観方『浮世絵の顔』中央美術社、1929 年 6 月
鏑木清方「『霽れゆく村雨』制作当時のこと」、『画学生の頃』アトリエ社、1930 年
アトリエ社編『日本画の研究』アトリエ社、1931 年 9 月
鏑木清方編纂『世界風俗画全集　第 3 巻　十七八世紀西洋編』忠誠堂、1931 年 3 月
鏑木清方編纂『世界風俗画全集　第十二巻　日本篇下』忠誠堂、1931 年 3 月
鏑木清方「美人の変遷」(美容科学篇)、『婦人公論大学』中央公論社、1931 年 8 月、叢 13
鏑木清方「現代美人画総説」、鏑木清方(編集委員代表)・松岡映丘・菊池契月・太田三郎編『現代作家美人画全集　日本画篇(中巻)』新潮社、1931 年 10 月
鏑木清方(編集委員代表)・松岡映丘・菊池契月・太田三郎編『現代作家美人画全集　日本画篇(下巻)』新潮社、1932 年 2 月
鏑木清方「明治より大正初期の美人画雑感」、鏑木清方(編集委員代表)・松岡映丘・菊池契月・太田三郎編『現代作家美人画全集　日本画篇(上巻)』新潮社、1932 年 4 月
鏑木清方「人物画総論」、『日本画新技法講座　4　人物画法』アトリエ社、1933 年
鏑木清方「人物画総論」、『アトリエ美術大講座　第四部日本画科　第 5 巻』アトリエ社、1934 年
鏑木清方『銀砂子』岡倉書房、1934 年 5 月
鏑木清方「明治の挿絵」、新潮社編『日本文学講座　第十一巻　明治時代上編』新潮社、1934 年 5 月
鏑木清方『築地川』書物展望社、1934 年 10 月
鏑木清方「明治婦人」(描法解説)、『日本画実習帖　第十一巻　人物(上)』アトリエ社、1934～5 年
鏑木清方「墨水十趣」、『墨水懐古十趣展挨拶状』、1936 年 6 月、b1
鏑木清方『褪春記』双雅房、1937 年 2 月
鏑木清方「木綿」、『新装―きもの随筆』双雅房、1938 年
鏑木清方「ゆかた」、『新装―きもの随筆』双雅房、1938 年
鏑木清方『蘆の芽』相模書房、1938 年 6 月
鏑木清方『鏑木清方絵入本　御濠端』双雅房、1938 年 7 月、叢 3、叢 20、叢 24
鏑木清方「燈火」、菊池寛編『現代文章軌範』非凡閣、1939 年 9 月、tg
鏑木清方『風俗画技法』崇文堂、1941 年 7 月
鏑木清方『こしかたの記』『四季しのぶ草』(鏑木清方随筆選集　第 1 巻)双雅房、1941 年 11 月
花柳章太郎『きもの』(序)、二見書房、1941 年 11 月
山中古洞『挿絵節用』芸艸堂、1941 年 12 月、b3
鏑木清方「初旅」、広瀬操吉編『画房随筆』錦城出版社、1942 年、b5・ds・gs・ss・zm
小村雪岱『雪岱画集』(序)高見沢木版社、1942 年 12 月、b3、叢 20
木村荘八『近代挿絵考』双雅房、1943 年、b3
鏑木清方『東なまり』『道中硯』(鏑木清方随筆選集　第 2 巻)双雅房、1943 年 2 月
鏑木清方『連翹』大雅堂、1943 年 7 月
鏑木清方『柳小紋』畝傍書房、1943 年 9 月
鏑木清方『絵具箱』(鏑木清方随筆選集　第 3 巻)双雅房、1944 年 4 月
鏑木清方『清方随筆選集』双雅房、1944 年 9 月
鏑木清方「老友往時を語る」、高橋良和編『久留島武彦童話五十年記念童話集　熊のしりもち』推古書院、1949 年 4 月、叢 23
鏑木清方「靴の音」、文芸春秋編『天皇陛下』文芸春秋新社、1949 年 11 月、b8
鏑木清方「雑誌の絵について」、『新小説』第 5 巻第 4 号、春陽堂、1950 年 4 月、ag.b2
鏑木清方「解説」『泉鏡花作品集　第一巻』創元社、1951 年 10 月、叢 7
岩波書店編集部編・鏑木清方監修『岩波写真文庫 98　美人画』岩波書店、1953 年 7 月
鏑木清方「自作自解」『清方画集』美術出版社、1957 年 11 月、叢 7
鏑木清方「自作自解」『清方画集』美術出版社、1958 年 3 月
鏑木清方「自作自解」『画集　鏑木清方』毎日新聞社、1971 年 10 月
谷崎潤一郎『幼少時代』(装幀について)中央公論社、1959 年 11 月
鏑木清方「隅田川西岸」(浅茅ヶ原・化地蔵・妙亀塚・蘆の芽・新江東図説)、高見順編『文学に見る日本の川―隅田川―』日本週報社、1960 年 8 月、b5・ts
鏑木清方「松園さんの芸術」、高島屋美術部五十年史編纂委員会編『高島屋美術部五十年史』高島屋、1960 年 10 月
鏑木清方「美術部と私事」、高島屋美術部五十年史編纂委員会編『高島屋美術部五十年史』高島屋、1960 年 10 月
鏑木清方「鏑木清方第一回作品展〈雪十趣〉」(紫陽花舎主人詞)、高島屋美術部五十年史編纂委員会編『高島屋美術部五十年史』高島屋、1960 年 10 月
鏑木清方「清方先生に聴く」、高島屋美術部五十年史編纂委員会編『高島屋美術部五十年史』高島屋、1960 年 10 月
「鏑木清方画　中村吉右衛門句〈小品二十題の展覧会〉」、高島屋美術部五十年史編纂委員会編『高島屋美術部五十年史』高島屋、1960 年 10 月
鏑木清方「偶感」、菊地芳一郎編『現代美術家シリーズ③　山本丘人』時の美術社、1960 年 12 月、b3
鏑木清方『こしかたの記』中央公論美術出版、1961 年 4 月
鏑木清方「『明石町』をかいたころ」『日本近代絵画全集 21　鏑木清方　平福百穂　月報』講談社、1962 年、b1
鏑木清方(無題)、『画壇五十年記念伊東深水展図録』、1962 年 4 月、b3、叢 10
鏑木清方「明治の生活美術寸言」、『明治の生活美術展』サントリー美術館、1962 年 9 月、b2・zm
鏑木清方「築地川」(旅と風物)、川端康成編『世界教養全集　別巻一　日本随筆・随想集』平凡社、1962 年 11 月、ag・b2・k1・tg・ss・zm
鏑木清方「松園展に想う」、『日本近代絵画全集 17　竹内栖鳳　上村松園　月報』講談社、1963 年
鏑木清方「明治の東京」、『秋の特別展　明治の東京』サントリー美術館、1965 年 9 月
鏑木清方『續こしかたの記』中央公論美術出版、1967 年 9 月
鏑木清方「ともしび」、臼井吉見・河盛好蔵編『生活の本　一〇』文芸春秋、1968 年 8 月、zt
鏑木清方「絵に見る明治大正の女」『おんな百年』山種美術館、1968 年、叢 10
鏑木清方「弔辞」、『追想　北側桃雄』三彩社、1969 年 11 月、ag・b8
鏑木清方「弔辞」、北川桃雄追悼文集編纂委員会(代表:藤本韶三)編『追想北川桃雄』文芸春秋、1969 年 11 月
鏑木清方「(鏑木清方個展　清方えがく心のふるさと―江戸十五題―)」、『三越の美術展ご案内』、1970 年 11 月
鏑木清方「やまと新聞と芳年」、『血の晩餐　大蘇芳年の芸術別冊』番町書房、1971 年 3 月
鏑木清方「画心録」『画集　鏑木清方』毎日新聞社、1971 年 10 月
鏑木清方「円朝と野州に旅をした話」、江藤淳・曽野綾子編『新編　人生の本　一一』文芸春秋、1972 年 8 月、ag・b2・k1・zm
鏑木清方「思ひ出今昔」、『鏡花全集　巻四　月報　四』岩波書店、1974 年 2 月、kg・gz
鏑木清方著・山田肇編『紫陽花舎随筆』六興出版、1978 年 1 月
鏑木清方「川瀬の版画を世に薦む」『川瀬巴水木版画集』1979 年 12 月

再録、叢 10
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集 五 名所古跡』白鳳社、1979 年 2 月
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集 四 春夏秋冬』白鳳社、1979 年 3 月
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集 三 先人後人』白鳳社、1979 年 5 月
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集 一 制作雑談』白鳳社、1979 年 8 月
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集 二 明治追懐』白鳳社、1979 年 11 月
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集 六 時雑風俗』白鳳社、1980 年 2 月
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集 七 畫壇時事』白鳳社、1980 年 6 月
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集 八 隨時雜感』白鳳社、1980 年 9 月
鏑木清方編『風俗画大成6 目でみる徳川時代中期』図書刊行会、1986 年
鏑木清方編『風俗画大成8 目でみる文明開化の時代』図書刊行会、1986 年
鏑木清方「思ひ出今昔」、『鏡花全集 月報』(非売品)岩波書店、1986 年 12 月、gz・k4g
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方随筆集―東京の四季―』(岩波文庫)岩波書店、1987 年 8 月
鏑木清方「こおろぎ」、安野光雅・森毅・井上ひさし・池内紀編『ちくま文学の森 12 動物たちの物語』筑摩書房、1989 年 1 月、b4・yk・zt
鏑木清方著・山田肇編『随筆集・明治の東京』(岩波文庫)岩波書店、1989 年
鏑木清方「嘆き」(西村五雲)、中島理寿編『昭和・物故の美術家たち 追悼文集』大日本絵画、1990 年 9 月
鏑木清方「小村さん追想」(小村雪岱)、中島理寿編『昭和・物故の美術家たち 追悼文集』大日本絵画、1990 年 9 月
鏑木清方「菊池さんのこと」(菊池契月)、中島理寿編『昭和・物故の美術家たち 追悼文集』大日本絵画、1990 年 9 月
鏑木清方「金鈴社以前」(結城素明)、中島理寿編『昭和・物故の美術家たち 追悼文集』大日本絵画、1990 年 9 月
鏑木清方「思ひ出今昔」、『群像 日本の作家 5 泉鏡花』小学館、1992 年 1 月、k4g・kg
上村松園著、(財)松伯美術館監修、村田真知編『青帛の仙女』同朋舎 出版、1996 年 4 月、ag・b3
鏑木清方「浜町にゐたころ」、沢村貞子編『日本の名随筆 別巻 68』作品社、1996 年 10 月、b2・k1・ss・ts・zm
鏑木清方著・山田肇選『紫陽花舎随筆』(講談社文芸文庫)講談社、2018 年 7 月、za

(二)逐次刊行物
鏑木清方「湘南絵葉書」、『読売新聞』(8 月 31 日)、1902 年 8 月、b4、叢 20
鏑木清方「碓氷と妙義 (上) 」、『読売新聞』(10 月 30 日)、1902 年 10 月、b5g、叢 20
鏑木清方「碓氷と妙義 (中)」、『読売新聞』(10 月 31 日)、1902 年 10 月、b5g、叢 20
鏑木清方「碓氷と妙義 (下)」、『読売新聞』(11 月 2 日)、1902 年 11 月、b5g、叢 20
鏑木清方「附録 東京博覧会出品名画『嫁ぐ人』に就て」、『趣味』第 2 巻第 4 号、1907 年 4 月
鏑木清方「清風筆」(現代諸名家八十有余氏選定の避暑地及感想、詩歌俳句、夏季嗜好の飲食物等)、『新小説』第 12 年第 8 巻、1907 年 8 月
鏑木清方「おもかげ帖(其一)『酒井の太鼓』」、『歌舞伎』第 96 号、1908 年 7 月、叢 12
鏑木清方「おもかげ帖(其二)『伊勢音頭』」、『歌舞伎』第 97 号、1908 年 8 月、叢 12
鏑木清方「おもかげ帖(其三)『毛剃』」、『歌舞伎』第 98 号、1908 年 9 月、叢 12
鏑木清方「一顆涼」、『新小説』第 13 年第 9 巻、1908 年 9 月
鏑木清方「おもかげ帖(其四)『お祭佐七』」、『歌舞伎』第 99 号、1908 年 10 月、叢 12
鏑木清方「おもかげ帖(其五)『寺子屋』」、『歌舞伎』第 100 号、1908 年 11 月、叢 12
鏑木清方「おもかげ帖(其六)『先代萩』」、『歌舞伎』第 102 号、1909 年 1 月、叢 12
鏑木清方「招涼珠」、『新小説』第 14 年第 8 巻、1909 年 1 月
鏑木清方「美人畫を描く時の苦心」『婦人世界』第四巻第三号、1909 年 3 月、叢 13
鏑木清方「おもかげ帖(其八)『鈴ヶ森』」、『歌舞伎』第 106 号、1909 年 5 月、叢 12
鏑木清方「おもかげ帖(其九)『仲國』/(其十)『馬盥』」、『歌舞伎』第 108 号、1909 年 7 月、叢 12
鏑木清方「おもかげ帖(其十一)『魚屋の茶碗』」、『歌舞伎』第 109 号、1909 年 8 月、叢 12
鏑木清方「「十二月十四日」の衣裳と調度」、『歌舞伎』第 113 号、1909 年 12 月、叢 12
鏑木清方「「廿四孝」を見て」、『歌舞伎』第 113 号、1909 年 12 月、叢 12
鏑木清方「木版画の趣味」、『日本美術』第 133 号、1910 年 3 月、叢 5
鏑木清方「東京の印象十四・芝居かへり」、『読売新聞』(5 月 14 日)、1910 年 5 月、叢 20
鏑木清方「亡き父の友」、『歌舞伎』第 120 号、1910 年 6 月、叢 12
鏑木清方「公設展覧会出品製作談 『女歌舞伎』に就て」、『美術新報』第 9 巻第 12 号、1910 年 10 月、叢 9
鏑木清方「浮世絵雑感」、『絵画叢誌』284 号、1910 年 12 月
鏑木清方「美人の印象」(東西美人観)(談)、『新小説』第 16 年第 3 巻、1911 年 3 月
鏑木清方「小説の挿画」(談)、『現代画集 卯月の巻』、1911 年 4 月
鏑木清方「半折画は江戸趣味」(談)、『三越』第 1 巻第 4 号、1911 年 6 月
鏑木清方「ある友へ、龍岡町から」、『書画骨董雑誌』第 49 号、1912 年 6 月、n32
鏑木清方「夏すがた」、『読売新聞』(7 月 1 日)、1912 年 7 月、叢 20
鏑木清方「好きな美人画」、『書画骨董雑誌』第 53 号、1912 年 10 月
鏑木清方「昔の通りにせよ」(劇場に対する注文)、『演劇画報』、1913 年 1 月
鏑木清方「女の姿と表情」、『淑女画報』第 2 巻第 3 号、1913 年 3 月
鏑木清方「文展入選諸家の感想」、『美術新報』第 13 巻第 1 号、1913 年 11 月、叢 9
鏑木清方「芝居と絵模様」、『美術新報』第 13 巻第 3 号、1914 年 1 月
鏑木清方「現代婦人の風俗を觀て」、『婦人画報』第 94 号、1914 年 4 月、叢 22
鏑木清方「若い女形の誇り」、『演芸画報』、1914 年 5 月、叢 12
鏑木清方「松園女史の『深雪』」(大正博覧会の美術及美術工芸)、『日本美術』第 16 巻第 2 号、1914 年 7 月
鏑木清方「芸術家の夏」、『美術週報』第 1 巻第 38 号、1914 年 7 月(質問に対する回答として)
鏑木清方「涼しさうな人暑さうな人」、『美術週報』第 1 巻第 39 号、1914 年 8 月
鏑木清方「作家と批評家」、『絵画叢誌』第 328 号、1914 年 11 月、b7
鏑木清方「初春の画題」、『絵画叢誌』第 329 号、1915 年 1 月、b4
鏑木清方「昔の見物と今の見物」、『演芸画報』、1915 年 1 月、叢 12
鏑木清方「翁の本讀を聞いた通客」(清方母堂)『歌舞伎』第 175 号、1915 年 1 月、叢 12
鏑木清方「昨年の芸術界」、『美術週報』、1915 年 1 月
鏑木清方「小説の挿絵」、『絵画叢誌』第 331 号、1915 年 3 月、叢 4
鏑木清方「名家の誕生日の祝ひ方」『婦人世界』第 10 巻第 5 号、叢 13
鏑木清方「幽霊の絵」(談)、『日本美術』第 188 号、1915 年 5 月
鏑木清方「文展作品と美術院作品と」、『審美』第 4 巻第 11 号、1915 年 11 月、b8
鏑木清方「文展の人物画」(文部省展覧会評)、『中央美術』第 1 巻第 2 号、1915 年 11 月、b7
鏑木清方「私の出品」、『中央美術』第 1 巻第 2 号、1915 年 11 月、叢 9
鏑木清方「木版刷師の現状」、『中央美術』第 1 巻第 2 号、1915 年 11 月、叢 6、叢 21
鏑木清方「私の経歴」、『美術画報』第 39 編巻 1、1915 年 12 月、b1、叢 8
鏑木清方「俤草」、『浮世絵』第 8 号、1916 年 1 月、b2

鏑木清方「芝居の色彩と豊国」(美術講話)、『中央美術』第2巻第1号、1916年1月、b6
鏑木清方「春着の話」(談)、『美術週報』第3巻第16号、1916年1月
鏑木清方「世渡り」(談)、『美術週報』第3巻第18号、1916年1月
鏑木清方「年賀の端書に就て」、『多都美』第10巻第2号、1916年2月、b1
鏑木清方「世渡りの話」、『絵画叢誌』第341号、1916年2月
鏑木清方「名画解題4　遊女道中之図　鳥文斎栄之筆」、『中央美術』第2巻第2号、1916年2月、叢21
鏑木清方「三人吉三の舞台面」、『中央美術』第2巻第3号、1916年3月、叢12、叢21
鏑木清方「日本画家にも生活難がある」、『絵画清談』第4巻第4号、1916年4月、b8
鏑木清方「己が嗜の女性美と男性美」(男性美と女性美)、『絵画清談』第4巻第4号、1916年4月
鏑木清方「人物画家英明」、『日本美術』第194号、1916年4月
鏑木清方「日本画の将来」、『美術週報』第3巻第31号、1916年5月
鏑木清方「私の好きな夏の女」『文芸倶楽部』第3巻第10号、1916年7月、叢5
鏑木清方「名画解題10　遊女之圖　歌川豊春筆」、『中央美術』第2巻第8号、1916年8月、叢21
鏑木清方「紺屋町時代の回顧」、『中央美術』第2巻第9号、1916年9月、叢21
鏑木清方「年頃の令嬢に着せて見たい服装　今に試みたらと思った昔の服装」『婦人画報』第128号、1916年11月、叢22
鏑木清方「雑感」、『審美』第5巻第11号、1916年11月、b8
鏑木清方「人物画(日本画部)」(文部省展覧会(第十回))、『中央美術』第2巻第11号、1916年11月、b7
鏑木清方「上村松園氏」(文展推薦の四氏)、『中央美術』第2巻第12号、1916年12月、b3
鏑木清方「此の頃の私の絵」、『美術』第1巻第3号、1917年1月、b8
鏑木清方「百人一首の絵」、『中央美術』第3巻第1号、1917年1月、叢21
鏑木清方「コランの画」(談)、『美術週報』第4巻第21号、1917年2月
鏑木清方「最も深い興味を以て画いた作品」、『美術画報』第40編巻4、1917年3月、b1
鏑木清方「美術院習作品展覧会を観る」、『絵画清談』第5巻第4号、1917年4月
鏑木清方「余の好きな是真物」(談)、『書画骨董雑誌』第106号、1917年4月
鏑木清方「梶田先生」(噫、梶田半古氏逝く)、『中央美術』第3巻第5号、1917年5月、叢21
鏑木清方「『しばらく』の絵」(美術品となった団十郎)、『中央美術』第3巻第6号、1917年6月、tg、叢12、叢21
鏑木清方「文展の出品者として」(談)、『美術旬報』第5巻第2号(141)、1917年10月
鏑木清方「形としての団十郎」、『新演芸』第2巻第11号(団十郎記念号)、1917年11月、b6
鏑木清方「人物画(日本画部)」、『中央美術』第3巻第11号、1917年11月、b7
鏑木清方「失恋と芸術と」(談)、『報知新聞』(12月2日)、1917年12月
鏑木清方「文展の後に」、『審美』第6巻第12号、1917年12月、b8
鏑木清方「麦僊氏の芸術」(土田麦僊論)、『中央美術』第3巻第12号、1917年12月、b3、叢11
鏑木清方「蕉園女史の芸術」(池田蕉園女史逝く)、『中央美術』第4巻第1号、1918年1月、叢21
鏑木清方「新年を迎へて」(談)、『美術旬報』第6巻第1号、1918年1月
鏑木清方「製作以外に趣味の人としての鏑木清方氏」(談)、『美術旬報』第6巻第9号、1918年4月
鏑木清方「諸家の秘蔵品より 歌川豊春筆遊女 鏑木清方氏蔵」(談)、『美術旬報』第6巻10号、1918年4月
鏑木清方「契月氏の二つの道」、『中外美術』第3巻第5号、1918年5月、b3、叢11
鏑木清方「郷土会展覧会の前に」、『審美』第7巻第5号、1918年5月、b8、叢10
鏑木清方「渡辺省亭先生の画」、『中央美術』第4巻第5号、1918年5月、b3
鏑木清方「夏の浮世絵」、『中央美術』第4巻第5号、1918年5月
鏑木清方「予が最近の試み」、『美術画報』第41編巻8、1918年6月、b1
鏑木清方「士太夫の書画」(吉川霊華論)、『中央美術』第4巻第9号、1918年9月、b3、叢21
鏑木清方「二科、院展感想」、『美術旬報』第6巻第23号、1918年9月
鏑木清方「文展雑感」、『審美』第7巻第11号、1918年11月、b8
鏑木清方「人物画(日本画部)」、『中央美術』第4巻第11号、1918年11月、b7、叢21
鏑木清方「第三回 日本画部」(文展十年の回顧)、『中央美術』第4巻第11号、1918年11月、叢21
鏑木清方「抱一の画風」、『書画骨董雑誌』第129号、1919年3月
鏑木清方「最も純な人春信」、『読売新聞』(6月15日)、1919年6月
鏑木清方「自然から受けた印象」、『美術画報』第42編巻9、1919年7月、b8
鏑木清方「日記帳より」、『中央美術』第5巻7号(金鈴社号)、1919年7月、b8
鏑木清方「写実と装飾の二方面」(結城素明論)『中央美術』第5巻第9号、1919年9月、b8、叢21
鏑木清方「院展大観」、『現代之美術』第2巻第6号、1919年10月、b7
鏑木清方「異常か平明か」、『芸苑』第1編第5号、1919年10月、b7
鏑木清方「根本的誤謬一つ」(帝国美術院に関する所見)、『中央美術』第5巻第10号、1919年10月、b8
鏑木清方「審査員の任命を受けて」、『中央美術』第5巻第10号、1919年10月、b8
鏑木清方「力強い表現を望む」(鑑査の所感)、『中央美術』第5巻第11号、1919年11月、b7
鏑木清方「鑑査の意義とその主張」(談話)、『現代之美術』第2巻第8号、1919年12月、b7
鏑木清方「私の印象せる作品」、『審美』第8巻第12号、1919年12月、b8
鏑木清方「浮世絵漫語」、『美術写真画報』第1巻第1号、1920年1月
鏑木清方「美人画の修業法」、『美術公論』第1巻第1号、1920年5月、b8、叢13
鏑木清方「印象」(新人馳駆の檀場)、『中央美術』第6巻第8号、1920年8月、叢21
鏑木清方「私の生活」、『中央美術』第6巻第12号、1920年12月、b1
鏑木清方「半古門下の二秀才」(前田青邨論)、『中央美術』第7巻第4号、1921年4月、b3、叢11
鏑木清方「帝展鑑査に就て」、『絵画清談』第9巻第12号、1921年12月、b7
鏑木清方「流行らせたい団扇の絵」、『時事新報』(6月11日　附録三面)、1922年6月、b8
鏑木清方「所謂美人よりも女の匂ひ濃やかな婦人を」『婦人画報』第193号、1922年1月、叢22
鏑木清方「芝居と繪が暗示した現代婦人の髪型」『婦人画報』第204号、1922年10月、叢22
鏑木清方「石崎光瑤氏」(新任の帝国美術院長及び審査員評)、『中央美術』第8巻第11号、1922年11月、b3
鏑木清方「古い写生帳から(一)」、『芸術』第1巻第2号(2月5日)、

1923年2月
鏑木清方「古い写生帳から(二)」、『芸術』第1巻第3号(2月15日)、1923年2月
鏑木清方「郷土会の今日まで」、『芸術』第1巻第6号附録(3月15日)、1923年3月、b7、叢10
鏑木清方「素人が始めての試み―女と影の気持と色―」『羽衣会番組』(帝国劇場)、1923年3月
鏑木清方「古い写生帳から(四)」『芸術』第1巻第5号、1923年3月
鏑木清方「古い写生帳から(五)」『芸術』第1巻第6号、1923年3月
鏑木清方「女と影の舞台装置」『芸術』第1巻第7号、1923年3月
鏑木清方「『女と影』の舞台装置について」、『東京朝日新聞』(3月28日)、1923年3月
鏑木清方「写生帳より(六)」『芸術』第1巻第8号、1923年4月
鏑木清方「写生帳より(七)」、『芸術』第1巻第9号(4月15日)、1923年4月
鏑木清方「「女と影」の舞台装置」、『日本詩人』、1923年5月
鏑木清方「有縁省亭」『曲水17』5月号、1923年5月
鏑木清方「私はどんな婦人に勝れた美を感ずるか」、『婦人世界』第18巻第5号、1923年5月、叢13
鏑木清方「写生帳より(九)」『芸術』第1巻第11号、1923年5月
鏑木清方「年方先生紀念献鐙のこと」、『芸術』第1巻第12号(5月15日)、1923年
鏑木清方「小倉庵の煙草盆」『芸術』第1巻第16号、1923年6月
鏑木清方「髙島屋呉服店に陳列したる浮世絵板刷を観て」『芸術』第1巻第14号、1923年6月
鏑木清方「手帳の端(三)榮三郎のおおきみ」『芸術』第1巻第17号、1923年7月
鏑木清方「鑑査の所感(日本画部)」、『中央美術』第9巻第7号、1923年7月、叢9、叢21
鏑木清方「松方氏将来浮世絵展を観る」(美術時評)、『中央美術』第9巻第7号、1923年7月、叢21
鏑木清方「年方先生に学んだ頃」、『中央美術』第9巻第9号、1923年9月、b2・eg・tg
鏑木清方「力と情」『芸術』第1巻第23号、1923年10月
鏑木清方「九月一日を被服廠跡に記念せよ」(1923年9月朔)、『中央美術』第9巻第10号、1923年11月、叢21
鏑木清方「風致保安林」『芸術』第2巻第1号(1月25日)、1924年1月、b8
鏑木清方「濃艶な後ろ姿」『婦人倶楽部』第5巻第1号、1924年1月
鏑木清方「千種さんを誉む」、『芸術』第2巻第2号(2月25日)、1924年2月、b7
鏑木清方「絵画劇といふもの」、『中央美術』第10巻第3号、1924年3月、b8
鏑木清方「(三)明治大正の女性美の推移」(近代女性に対する五つの観察)、『女性改造』第3巻第3号、1924年3月
鏑木清方「山川君が美人画の会を催すに就て」、『芸術』第2巻第3号(4月5日)、1924年4月、b7、叢10
鏑木清方「行潦社のあつまり」、『芸術』第2巻第7号(5月15日)、1924年5月、b8
鏑木清方「絵画劇に就て」、『芸術』第2巻第8号(5月25日)、1924年5月、b8
鏑木清方「画家のユートピア」、『尚美』第1巻第2号、1924年6月、b1
鏑木清方「邦画に志す青年に」、『アトリエ』第1巻第4号、1924年6月、b7
鏑木清方「市村座の今戸心中」、『芸術』第2巻第9号(6月15日)、1924年6月
鏑木清方「筆捨松」、『随筆』第2巻第7号、1924年8月、b5・ds・gs、叢2
鏑木清方「元禄女絵姿」(史上の女性美)、『女性改造』第3巻第9号、1924年9月
鏑木清方「今の心持」、『尚美』第1巻第4号、1924年10月、b7
鏑木清方「風俗と品のこと」、『芸術』第2巻第17号(11月15日)、1924年11月、b7
鏑木清方「帝展といふもの」「日本畫合評」、『尚美』第1巻第5号、1924年12月
鏑木清方「初芝居の役者」『新演芸』第10巻第1号、1925年1月
鏑木清方「有意義な存在」、『尚美』第2巻第1号、1925年1月、b7
鏑木清方「初芝居の役者」『新演藝』第10巻1号、1925年1月、叢12
鏑木清方「朝日影」、『芸術』第3巻第1号(1月15日)、1925年1月、b8
鏑木清方「女でなければ描けぬ繪とは？」『婦人画報』第232号、1925年2月、叢22
鏑木清方「冬枯の庭に山茶花の年増美」『婦人画報』第233号、1925年3月、叢22
鏑木清方「大橋の白魚」(路上随筆)、『中央美術』第11巻第3号、1925年3月、b4
鏑木清方「画家は特殊な天分が必要」(特殊な職業へ志す婦人へ)、『婦人世界』第20巻第3号、1925年3月、叢13
鏑木清方「二つの芝居」、『芸術』第3巻第4号(3月5日)、1925年3月
鏑木清方「ATELIER 画房雑稿」、『アトリエ』第2巻第4号、1925年4月
鏑木清方「うめぐさ」、『芸術』第3巻第10号(5月15日)、1925年5月
鏑木清方「美と風紀の両立」『婦人公論』第10巻第9号、1925年8月、叢13
鏑木清方「鑑査難」、『芸術』(11月25日)、1925年11月、b7
鏑木清方「流るゝ水(口繪について)」『婦人画報』第244号、1926年1月、叢22
鏑木清方「名人を憶ふ(一)」、『美之国』第2巻第1号、1926年1月、b8
鏑木清方「年頭偶感」、『芸術』第4巻第1号(1月5日)、1926年1月、b8
鏑木清方「2月の雑感」、『芸術』第4巻第7号(3月5日)、1926年3月
鏑木清方「宵庚申寸感」、『芸術』第4巻第8号(3月15日)、1926年3月
鏑木清方「たけくらべ絵巻」、『アトリエ』第3巻第4号、1926年4月、b3、叢13
鏑木清方「京の夢」、『美之国』第2巻第4号、1926年4月、b8
鏑木清方「国展の第一部」(春の美術(2))、『中央美術』第12巻第4号、1926年4月、叢21
鏑木清方「現代女性美新論 美人美装」、『婦人公論』第11巻第4号、1926年4月、叢13
鏑木清方「栄三郎を悼む」、『芸術』第4巻第14号(5月15日)、1926年5月、b6
鏑木清方「江戸の名残り」『美之国』第2巻第7号、1926年7月
鏑木清方「燈火」(二十作家の随筆)、『中央美術』第12巻第8号、1926年8月、tg・gk・b4
鏑木清方「故郷のスケッチ」、『美之国』第2巻第10号、1926年10月、b8
鏑木清方「人物風俗画」、『美之国』第2巻第11号、1926年11月、b7、叢13
鏑木清方・石井柏亭・松岡映丘・木村荘八・川路柳虹・太田三郎・長谷川栄作・日名子実三・脇本楽之軒、田口掬汀(司会)「帝展総合合評会」、『中央美術』第12巻第11号、1926年11月
鏑木清方「帝展はやりやまひ」、『芸術』第4巻第26号(11月15日)、1926年11月、b7
鏑木清方「二部を巡りての感想」、『報知』、1926年11月
鏑木清方「日本画の進路」、『美術新論』第4号、1927年2月、b7
鏑木清方「大正から昭和へ 美術の社会に対へる一面」、『改造』第9巻第2号、1927年2月、b7
鏑木清方「ATELIER 日本画の見方」、『アトリエ』第4巻第2号、1927年2月、叢3
鏑木清方「午後十時」、『婦人画報』、1927年2月
鏑木清方「捕物」、『文芸春秋』第5巻第4号、1927年4月、b8
鏑木清方「ロシア絵の初印象」、『芸術』第5巻第15号(5月15日)、1927年5月、b7
鏑木清方・石井柏亭・関如来・木村武山・坂井犀水・藤井浩祐・和田英作・田口掬汀「明治大正美術昔話」、『中央美術』第13巻第7号、1927年7月
鏑木清方「舞台美術」(談)、『中央美術』第13巻第8号、1927年8月、叢21
鏑木清方「院展の人物画」、『中央美術』第13巻第10号、1927年10月、

b7、叢 11
鏑木清方「EXPOSITION　漫談」、『アトリエ』第 4 巻第 9 号、1927 年 10 月
鏑木清方「美人画と映画女優について」、『サンデー毎日』(10 月 16 日)、1927 年 10 月
鏑木清方「帝展の日本画(一)～(五)」、『報知新聞』(10 月 22 日～26 日)、1927 年 10 月
鏑木清方「近世風俗の回顧」『婦人画報』第 267 号、1927 年 11 月、叢 22
鏑木清方「築地明石町」、『美之国』第 3 巻第 9 号、1927 年 11 月、b2・zm
鏑木清方「濱町春秋」『濱町誌』第十二地區土地區劃整理完成記念會、1927 年 11 月
鏑木清方「帝展の日本画」、『芸術』第 5 巻第 28 号(11 月 15 日)、1927 年 11 月、b7
鏑木清方「選と壁面のこと」、『塔影』 、1927 年 11 月
鏑木清方「今年の美術界回顧」、『美之国』第 3 巻第 10 号、1927 年 12 月、b7
鏑木清方「日本画特選短評」(帝展批評鈔)、『中央美術』第 13 巻第 12 号、1927 年 12 月、叢 9
鏑木清方「美人画雑論」、『改造』第 10 巻第 1 号、1928 年 1 月
鏑木清方「年頭偶感」、『芸術』第 6 巻第 1 号(1 月 5 日)、1928 年 1 月
鏑木清方「鏑木清方氏座談録」『アトリエ』第 5 巻第 3 号、1928 年 3 月、叢 7
鏑木清方「濠端風景(一)半蔵門」、『東京朝日新聞』(8 月 11 日)、1928 年 8 月
鏑木清方「濠端風景(二)柳の井」、『東京朝日新聞』(8 月 13 日)、1928 年 8 月
鏑木清方「濠端風景(三)大手町付近」、『東京朝日新聞』(8 月 14 日)、1928 年 8 月
鏑木清方「濠端風景(四)千鳥ヶ淵近傍」、『東京朝日新聞』(8 月 15 日)、1928 年 8 月
鏑木清方「濠端風景(五)紀尾井町」、『東京朝日新聞』(8 月 16 日)、1928 年 8 月
鏑木清方「濠端風景(六)四谷」、『東京朝日新聞』(8 月 17 日)、1928 年 8 月
鏑木清方「濠端風景(七)弁慶橋」、『東京朝日新聞』(8 月 18 日)、1928 年 8 月
鏑木清方「出世作の頃 〈霽れゆく村雨〉制作当時のこと」、『アトリエ』第 5 巻第 8 号、1928 年 8 月
鏑木清方「真の浮世絵―社会画に就いて」、『文芸時報』第 79 号、1928 年 8 月
鏑木清方「院展の絵」、『時事新報』(9 月 13～16 日、四回連載)、1928 年 9 月、b7
鏑木清方「居寤泉その他」、『美之国』第 4 巻第 10 号、1928 年 10 月、b7
鏑木清方「先生よ長へに老ゆる勿れ」(横山大観氏に贈る)、『中央美術』第 14 巻第 10 号、1928 年 10 月、叢 21
鏑木清方「秋窓冗語」、『美之国』第 4 巻第 11 号、1928 年 11 月、gs・b1
鏑木清方「帝展現代風俗図」、『中央美術』第 14 巻第 11 号、1928 年 11 月、叢 9、叢 21
鏑木清方「帝展の日本画に就て」、『文芸時報』第 87 号、1928 年 11 月、叢 9
鏑木清方「帝展余談」、『芸術』第 6 巻第 28 号(11 月 15 日)、1928 年 11 月、叢 9
鏑木清方「帝展の新人及び好きな作家」(談話)、『美之国』第 4 巻第 12 号、1928 年 12 月、b7
鏑木清方「時代的の美しさ◇柄、色、付属品、其他の考察◇」『婦人画報』第 282 号、1929 年 1 月、叢 22
鏑木清方「展覧会の会場」、『アルト』第 9 号、1929 年 1 月、b8
鏑木清方「製作の節約を励行すべし」、『芸術』第 7 巻第 1 号(1 月 5 日)、1929 年 1 月、b8
鏑木清方「二月の言葉」、『美之国』第 5 巻第 2 号、1929 年 2 月、b4
鏑木清方「川崎君の『オフイリヤ』」、『芸術』第 7 巻第 7 号(3 月 5 日)、1929 年 3 月、b7
鏑木清方「小感」、『美之国』第 5 巻第 4 号、1929 年 4 月、b3
鏑木清方「畜犬三日の記」、『美之国』第 5 巻第 4 号、1929 年 4 月、tg・b8
鏑木清方「近き思ひ出」(三月廿五日午前九時逝去せられた吉川霊華画伯に就て　諸大家の感想〈本誌のため執筆されたるもの〉)、『芸術』第 7 巻第 10 号(4 月 5 日)、1929 年 4 月、b8
鏑木清方「吉川君を憶ふ」、『中央美術』第 15 巻第 5 号、1929 年 5 月、tg、叢 21
鏑木清方、松岡映丘、平福百穂、結城素明、三成重敬、植松包美、田口掬汀「吉川霊華追懐座談会」、『中央美術』第 15 巻第 5 号、1929 年 5 月
鏑木清方「遺憾なこと」、『芸術』第 7 巻第 13 号(5 月 5 日)、1929 年 5 月
鏑木清方「むぎ湯」、『芸術』第 7 巻第 19 号(7 月 15 日)、1929 年 7 月、zt・b8
鏑木清方「送夏迎秋」、『美之国』第 5 巻第 10 号、1929 年 10 月、b7
鏑木清方「偶感」、『芸術』第 7 巻第 28 号(10 月 25 日)、1929 年 10 月、b7
鏑木清方「童心を失はぬ人々」(百穂号　青邨号)、『巽』第 2 巻第 10 号、1929 年 11 月
鏑木清方「罌粟」、『美之国』第 5 巻第 11 号、1929 年 11 月、b7
鏑木清方「日本画壇の動き」、『美之国』第 6 巻第 1 号、1930 年 1 月、b7
鏑木清方「沼津より」、『芸術』第 8 巻第 1 号(1 月 5 日)、1930 年 1 月
鏑木清方「七日の旅」(前号沼津よりの続)、『芸術』第 8 巻第 2 号(1 月 15 日)、1930 年 1 月
鏑木清方「東海道を下る」、『東京日日新聞』(2 月 25 日～28 日、3 月 4 日、五回連載)、1930 年 2 月、gs・ds・b5、叢 20
鏑木清方「絵にまがふ姿　清方画伯の上方美人評」(談)、『東京日日新聞』(3 月 1 日)、1930 年 3 月
鏑木清方「影を捉ふ」、『アトリエ』第 7 巻第 3 号、1930 年 3 月、b3
鏑木清方「作家言」、『美術新論』第 5 巻第 3 号、1930 年 3 月、b8
鏑木清方「上方見物」、『改造』第 12 巻第 5 号、1930 年 5 月、tg・ds・b5
鏑木清方「旅と自動車」、『美之国』第 6 巻第 5 号、1930 年 5 月、b5
鏑木清方「時事小感」、『芸術』第 8 巻第 8 号(5 月 15 日)、1930 年 5 月、b7
鏑木清方「春陽会を見て」、『アトリエ』第 7 巻第 6 号、1930 年 6 月、b7
鏑木清方「下村さんと其作品」、『美之国』第 6 巻第 6 号、1930 年 6 月、b3
鏑木清方「京都より帰りて」、『文芸時報』第 137 号、1930 年 6 月
鏑木清方「帝展問題　帝展問題に就て鏑木清方氏と語る」、『アトリエ』第 7 巻第 9 号、1930 年 9 月、叢 9
鏑木清方「『道成寺』画題の逸品」、『週間朝日』(9 月 14 日)、1930 年 9 月、b7、叢 11
鏑木清方「任務を了へて」、『美之国』第 6 巻第 11 号、1930 年 11 月、b7、叢 10
鏑木清方「帝展邦画評」、『芸術』第 8 巻第 8 号(11 月 5 日)、1930 年 11 月、b7
鏑木清方「不平不満の解放:美術青年への不満　帝展中心の雑話」、『アトリエ』第 7 巻第 12 号、1930 年 12 月、b7、叢 9
鏑木清方「画室」、『文芸春秋』第 9 巻第 1 号、1931 年 1 月、b8
鏑木清方「自誡」、『芸術』第 9 巻第 1 号(1 月 5 日)、1931 年 1 月、b8
鏑木清方「過ぎ来し方」、『巽』第 4 巻第 1 号、1931 年1月
鏑木清方「畫伯と泥棒珍問答　深夜の闖入者」『婦人公論』第 16 巻第 2 号、1931 年 2 月、叢 13
鏑木清方「美術時評」、『アトリエ』第 8 巻第 2 号、1931 年 2 月
鏑木清方「二つの話題」、『美之国』第 7 巻第 2 号、1931 年 2 月、b8
鏑木清方「美術時評(3)」、『アトリエ』第 8 巻第 4 号、1931 年 4 月
鏑木清方「下村氏の業績」、『美之国』第 7 巻第 4 号、1931 年 4 月、b3
鏑木清方「さしあたつての望み」、『美術新論』第 55 号、1931 年 5 月、b7
鏑木清方「初めの志望」、『美之国』第 7 巻第 5 号、1931 年 5 月、b2・zm
鏑木清方「美術時評」、『アトリエ』第 8 巻第 6 号、1931 年 6 月
鏑木清方「近世美人画の諸作家―女性美展の日本画に就いて―」、『塔影』第 7 巻第 6 号、1931 年 7 月
鏑木清方「涼」、『美術新論』第 6 巻第 8 号、1931 年 8 月、b8・zt
鏑木清方「美術時評」、『アトリエ』第 8 巻第 8 号、1931 年 8 月、叢 9
鏑木清方「美人の變遷」『婦人公論大學』1931 年 8 月、叢 13
鏑木清方「美術時評」、『アトリエ』第 8 巻第 10 号、1931 年 10 月、叢 9
鏑木清方「帝展の日本画」、『芸術』第 9 巻第 19 号(10 月 25 日)、1931 年 10 月、b7
鏑木清方「私の雅号の由来」『日本電報』11 月号、1931 年 11 月
鏑木清方「人事素描」、『文芸春秋』第 9 巻第 4 号、1931 年 11 月、b1・gs
鏑木清方「帝展日本画評総論」、『塔影』第 7 巻第 9 号、1931 年 11 月、叢 9
鏑木清方「美術時評」、『アトリエ』第 8 巻第 12 号、1931 年 12 月、叢 9
鏑木清方「甘いものゝ話」、『芸術』第 10 巻第 1 号(1 月 5 日)、1932 年 1 月、b8

鏑木清方「甘いものゝ話(続)」、『芸術』第10巻第2号(1月15日)、1932年1月、b8
鏑木清方「三、初雁の御歌(同前初稿、小下絵)」、『塔影』第8巻第5号、1932年5月
鏑木清方「挿絵の興起」、『美術新論』第7巻第6号、1932年6月、b2、叢4、叢13
鏑木清方「あさがほ」、『週刊朝日』(第一増大号)、1932年7月、ag・b4・ts・zt
鏑木清方「無題」、『芸術』第10巻第9号(7月15日)、1932年7月
鏑木清方「随筆夏の画趣　夏は水こそ」、『アトリエ』第9巻第8号、1932年8月、b4
鏑木清方「美女物語」、『日の出』第1巻第1号、1932年8月、b6・gs
鏑木清方「初旅」、『塔影』第8巻第8号(旅　絵と随筆号)、1932年8月、b5・ds・gs・gb・ss・zm
鏑木清方「青龍社展評」、『時事新報』(9月5、6日、二回連載)、1932年9月、b7
鏑木清方「挿絵今昔」、『中央公論』第47年第9号、1932年9月
鏑木清方「院展評」、『時事新報』(9月6～8日、三回連載)、1932年9月、b7
鏑木清方「院展評」、『芸術』第10巻第11号(9月15日)、1932年9月
鏑木清方「青龍社展評」、『芸術』第10巻第11号(9月15日)、1932年9月
鏑木清方「団十郎と影法師」、『週間朝日』第二増大号、1932年10月、b6・gs
鏑木清方「会場芸術小観　青龍展を観て」、『アトリエ』第9巻第10号、1932年10月、b7
鏑木清方「婦女図」、『美之国』第8巻第10号、1932年10月、b7
鏑木清方「五郎から」、『東京朝日新聞』(11月6日)、1932年11月、gs、叢12
鏑木清方「佐倉義民傳　東劇の昼狂言」、『東京朝日新聞』(11月7日)、1932年11月、gs、叢12
鏑木清方「国定忠治　東劇の左團次」、『東京朝日新聞』(11月8日)、1932年11月、gs、叢12
鏑木清方「美男ぞろひ　明治座の大衆興行」、『東京朝日新聞』(11月9日)、1932年11月、gs、叢12
鏑木清方「古典の金看板　歌舞伎座追遠興行」、『東京朝日新聞』(11月11日)、1932年11月、gs、叢12
鏑木清方「勧進帳と助六　歌舞伎座の追遠興行」」、『東京朝日新聞』(11月12日)、1932年11月
鏑木清方「今のこゝろもち」、『アトリエ』第9巻第11号、1932年11月、b7
鏑木清方「桜もみぢ」、『塔影』第8巻第11号、1932年11月
鏑木清方「帝展雑感」、『美之国』第8巻第11号、1932年11月、b7、叢9
鏑木清方「寸言」、『芸術』第10巻第13号(11月15日)、1932年11月、b7
鏑木清方「新花町の家」、『中央公論』第47年第13号、1932年12月
鏑木清方「材料の話断片」、『塔影』第9巻第1号、1933年1月、b1
鏑木清方「常設美術館の問題　近代美術館について美術人でない読者へ」、『アトリエ』第10巻第1号、1933年1月、b7
鏑木清方「淀の月かげ」、『美之国』第9巻第1号、1933年1月、b8・tg、叢13
鏑木清方「年頭感」、『芸術』第11巻第1号(1月5日)、1933年1月、b8
鏑木清方「映画、制作、芝居―記者X氏との対話―」、『美之国』第9巻第3号、1933年3月、b6
鏑木清方「『平野雑筆』の著者」、『アトリエ』第10巻第5号、1933年5月、b3
鏑木清方「団扇と浴衣」、『改造』第15巻第7号、1933年7月、b4・gs・sk・zt
鏑木清方「水野年方先生」(旧師を語る)、『文芸春秋』第11巻第7号、1933年7月、b2・eg・gs
鏑木清方「日本画壇に大きな足跡」(談)、『読売新聞』(10月31日)、1933年10月
鏑木清方「杉橋検校の作者」、『美之国』第9巻第10号、1933年10月、b7
鏑木清方「遊心庵漫筆」、『美之国』第9巻第10号、1933年10月、b8・gs
鏑木清方「絵と映画」、『光画』第2巻第10号、1933年10月
鏑木清方「平福君を悼む」、『読売新聞』(11月1日)、1933年11月、b3、叢11
鏑木清方「東京と京都」、『美術評論』帝展号、1933年11月、b3
鏑木清方「感覚に乏しき日本画」、『アトリエ』第10巻第11号、1933年11月、b7、叢10
鏑木清方「帝展の若き作家達」、『美之国』第9巻第11号、1933年11月、b7、叢9
鏑木清方「人物画を語る」、『塔影』第9巻第9号、1933年11月、b7
鏑木清方「平福君を憶ふ」、『文芸春秋』第11巻第12号、1933年12月、b3・eg・gs
鏑木清方「芝居の背景を描いた話」、『中央美術』復興第5号、1933年12月、b3、叢21
鏑木清方「平福君を悼む」、『塔影』第9巻第10号、1933年12月
鏑木清方「美人畫解説　紫衣婦女」『婦人公論』第19巻第1号、1934年1月、叢13
鏑木清方「目黒の栢莚」、『中央美術』復興第6号、1934年1月、tg、b6
鏑木清方「塔の沢浴泉記」、『美之国』第10巻第1号、1934年1月、b5・ds・gs
鏑木清方「かをり」、『芸術』第12巻第1号(1月5日)、1934年1月、b8
鏑木清方「結婚式から銀婚式まで――鏑木清方畫伯の二十五年」『婦人画報』第343号、1934年1月、叢22
鏑木清方「我が好む画人」、『アトリエ』第11巻第2号、1934年2月、b1
鏑木清方「美人畫解説　喜多川歌麿作　當世踊子揃(鷲娘)」『婦人公論』第19巻第2号、1934年2月、叢13
鏑木清方「『にごりえ』解題」、『塔影』第10巻第3号、1934年3月、叢13
鏑木清方「如月日記」、『美之国』第10巻第3号、1934年3月、b4・tg、叢7、叢13
鏑木清方「美人畫解説　晝餐圖(ルノアル作)」『婦人公論』第19巻第3号、1934年3月、叢13
鏑木清方「美人畫解説　勝川春章作　ほととぎす」『婦人公論』第19巻第4号、1934年4月、叢13
鏑木清方「菖蒲湯」、『若草』、1934年5月、b4・zt・sk・tg
鏑木清方「ジヨリイ」、『文体』第2巻第5号、1934年5月、az・b8・tg
鏑木清方「作者五郎こ望む」、『東京朝日新聞』(5月6日)、1934年5月、叢12
鏑木清方「吉右衛門の清正」、『東京朝日新聞』(5月7日)、1934年5月、叢12
鏑木清方「『親』を讃ふ」、『東京朝日新聞』(5月8日)、1934年5月、叢12
鏑木清方「美人畫解説　小林古径作　婦女圖」『婦人公論』第19巻第5号、1934年5月、叢13
鏑木清方「水谷見物」、『東京朝日新聞』(5月9日)、1934年5月、叢12
鏑木清方「斬られの仙太」、『東京朝日新聞』(5月17日)、1934年5月、叢12
鏑木清方「青年競伎」、『東京朝日新聞』(5月18日)、1934年5月、叢12
鏑木清方「芝居と絵画」、『美之国』第10巻第5号、1934年5月、b1、叢7
鏑木清方「作者のことば」(鏑木清方氏作品第一回展観)、『芸術』第12巻第14号(5月15日)、1934年5月
鏑木清方「歌舞伎座の5月」、『演芸画報』第28巻第6号、1934年6月
鏑木清方「美人畫解説　黒田清輝作『湖畔』」『婦人公論』第19巻第6号、1934年6月、叢13
鏑木清方「邦画壇の三元老を語る」、『文芸』、1934年7月、b3・eg・tg、叢11
鏑木清方「身辺雑事」、『美之国』第10巻第7号、1934年7月、b8
鏑木清方「美人畫解説　土田麥僊作『林泉舞妓』」『婦人公論』第19巻第7号、1934年7月、叢13
鏑木清方「土用前後」(涼風閑話)、『文芸春秋』第12巻第8号、1934年8月、b4・zt・sk・tg、叢13
鏑木清方「歌妓三態」、『改造』第16巻第8号、1934年8月、b6・gg
鏑木清方「見物席から」、『演芸画報』第28巻第8号、1934年8月
鏑木清方「美人畫解説　鳥居清長作　隅田川」『婦人公論』第19巻第8号、1934年8月、叢13
鏑木清方「見物席から」、『演芸画報』第28巻第9号、1934年9月
鏑木清方「美人畫解説　岡田三郎助作　ゆるしの紫しらべ」『婦人公論』

第19巻第9号、1934年9月、叢13
鏑木清方「見物席から」、『演芸画報』第28巻第10号、1934年10月
鏑木清方「二尾の金魚 帝展名作選集 土田麦僊作「燕子花」」『読売新聞』(10月22日)、1934年10月
鏑木清方「剛柔の調和 帝展名作選集 川合玉堂作「宿雪」」『読売新聞』(10月27日)、1934年10月
鏑木清方「美人畫解説 菊池契月作 友禪の少女」『婦人公論』第19巻第10号、1934年10月、叢13
鏑木清方「秋」、『随筆趣味』第1号、1934年11月、b4・zt・sk・ts
鏑木清方「第三室をめぐりて」、『美術』第9巻第11号、1934年11月、b7
鏑木清方「見物席から」、『演芸画報』第28巻第11号、1934年11月
鏑木清方「帝展鑑賞記」、『美之国』第10巻第11号、1934年11月、b7
鏑木清方「美人畫解説 中澤弘光作 舞妓」『婦人公論』第19巻第11号、1934年11月、叢13
鏑木清方「帝展日本画を観る」、『芸術』第12巻第22号(11月15日)、1934年11月、b7、叢9
鏑木清方「回想」、『中央美術』復興第17号、1934年12月、b3、叢21
鏑木清方「トオキイになつてから」、『現代美術』第1巻第9号、1934年12月、b6
鏑木清方「雨の箱根」、『現代美術』第1巻第9号、1934年12月、b8
鏑木清方(一部)「帝展評評話 概評」、『阿々土』第3号、1934年12月
鏑木清方(一部)「帝展評評話 『燕子花』土田麦僊」、『阿々土』第3号、1934年12月
鏑木清方「見物席から」、『演芸画報』第28巻第12号、1934年12月
鏑木清方「美人畫解説 鏑木清方作 妓女像」『婦人公論』第19巻第12号、1934年12月、叢13
鏑木清方「鏑木清方画伯の随想」、『浮世絵芸術』、1935年
鏑木清方「僕のお正月 吉例」、『美術評論』第4巻第1号、1935年1月、b4
鏑木清方「会場のはなし」、『美之国』第11巻第1号、1935年1月、b7・b8
鏑木清方「ことしから不義理をする」、『芸術』第13巻第1号(1月5日)、1935年1月、b8
鏑木清方「現代人物画の傾向」、『芸術日本』第8号、1935年2月、b7
鏑木清方「観劇余談」、『演芸画報』第29巻第2号、1935年2月
鏑木清方「技法の話」、『美之国』第11巻第2号、1935年2月、b1
鏑木清方「精神生活の欠乏」、『美術評論』第4巻第3号、1935年3月、b1
鏑木清方「六潮会に就て思ふ」、『アトリエ』第12巻第3号、1935年3月、b7
鏑木清方「梶田先生」、『美之国』第11巻第3号、1935年3月、b3
鏑木清方「五世菊五郎を偲ぶ」、『東京日日新聞』(3月4日)、1935年3月、b6・ts
鏑木清方「あるはずの瀧」、『芸術』第13巻第7号(3月25日)、1935年3月、as・b5
鏑木清方「そぞろごと」、『阿々土』第4号(鏑木清方特集号)、1935年6月、b1・eg・ts、叢2、叢13
鏑木清方「研究の一生」(噫 速水御舟!)、『美術評論』第4巻第3号、1935年4月、b3、叢11
鏑木清方「菊五郎片影」、『演芸画報』第29巻第4号、1935年4月、b6
鏑木清方「歴史画の更正」、『現代美術』第2巻第1号、1935年4月、b7
鏑木清方「諸家推讃の言葉」、『阿々土』別巻第2号、1935年4月
鏑木清方「鴨澤宮の像」『婦人倶楽部』4月号附録、1935年4月、叢15
鏑木清方「形と心」、『美術評論』第4巻第5号、1935年5月、b1
鏑木清方「浜町にゐたころ」、泉鏡花・長谷川如是閑・鏑木清方・永井荷風・谷崎潤一郎・佐藤春夫監修、『季刊 日本橋』創刊号、1935年5月、b2・k1・ss・ts・zm『日本の名随筆 別巻68』
鏑木清方「かけがへのない人」(速水御舟氏を語る)、『美之国』第11巻第5号、1935年5月、b3
鏑木清方「端午」、『サンデー毎日』(5月5日)、1935年5月、b8・zt
鏑木清方「新帝院よ、展覧会に重点を置くな」、『中外商業新報』(6月6日)、1935年6月、b7、叢9
鏑木清方「帝国美術院は民間団体の強化を計れ 上、下」、『読売新聞』(6月6、7日)、1935年6月、叢9
鏑木清方「個展明治風俗のこと」、『現代美術』第2巻第4号、1935年7月、as・b1
鏑木清方「千恵蔵映画を褒む」、『阿々土』別巻第3号、1935年7月、b6、叢12
鏑木清方「野風呂」、『国民新聞』(7月31日)、1935年7月、b8・zt
鏑木清方「吉川君を憶ふ」、『中央美術』復興第24号、1935年7月、叢21
鏑木清方「夏の女」、『都新聞』(7月29日)、1935年7月、b8・zt
鏑木清方「涼床語」(涼風読本)、『文芸春秋』第13巻第8号、1935年8月、b4・sk・ts・zt
鏑木清方「芝居は無学の学問なりといふこと」、『現代美術』第2巻第5号、1935年8月、b6
鏑木清方「女人夏景」、『大法輪』、1935年8月、b8・zt
鏑木清方「明治風俗十二ヶ月解題」、『塔影』第11巻第8号、1935年8月
鏑木清方「『黒髪』」、『美之国』第11巻第8号、1935年8月、b1
鏑木清方「個展論」、『塔影』第11巻第8号、1935年8月、b1
鏑木清方「夜会結び再興」、『美術評論』第4巻第7号、1935年9月、b6
鏑木清方「映画追憶」、『映画と演芸』第12巻第9号、1935年9月、b6
鏑木清方「名樹散椿(1)速水御舟遺作を見る」、『東京日日新聞』(9月2日)、1935年9月
鏑木清方「雪」、『朝日新聞』(1月11日〜13日)、1935年10月、b4・sk・ts・zt
鏑木清方「批評家の立場、作家の立場」、『アトリエ』第12巻第10号、1935年10月、b7
鏑木清方「明治風俗十二ヶ月について」、『阿々土』別巻第4号、1935年10月
鏑木清方「作者解説」、『阿々土』別巻第4号、1935年10月
鏑木清方「名樹散椿(2)速水御舟遺作を見る」、『東京日日新聞』(10月1日)、1935年10月
鏑木清方「名樹散椿(3)速水御舟遺作を見る」、『東京日日新聞』(10月2日)、1935年10月
鏑木清方「明治の東京語」、『セルパン』第57号、1935年11月、az・b2・ss・ts・zm
鏑木清方「速水御舟のえらさ」、『美術評論』第4巻第8号、1935年11月、b3
鏑木清方「えりもと」、『ホーム・ライフ』第1巻第11号、1935年11月、b6・ts
鏑木清方「帝展問題その他—時局問題一問一答—」、『美術評論』第4巻第8号、1935年11月、b7、叢7
鏑木清方「穂庵小感」、『中央美術』復興第28号、1935年11月、叢21
鏑木清方「思ひよること」、『美之国』第11巻第11号、1935年11月、b7
鏑木清方「話題二つ」、『美術街』第2巻第11号、1935年12月、b7
鏑木清方「一陽来復」、『芸術』第14巻第1号(1月5日)、1936年1月、b8・zt
鏑木清方「續こしかたの記」、『読書感興』第2巻第1号、1936年1月、b2
鏑木清方「嘗て見た慶喜を」(出品するかしないか?)、『美術評論』第5巻第1号、1936年2月、b1、叢1
鏑木清方「民族性といふもの」(絵画の民族性)、『阿々土』第11号、1936年3月
鏑木清方「新国劇と藝術座」、『東京朝日新聞』(3月13日)、1936年3月、叢12
鏑木清方「通し狂言忠臣蔵—歌舞伎座—」、『東京朝日新聞』(3月14日)、1936年3月、叢12
鏑木清方「吉右衛門の清正—明治座—」、『東京朝日新聞』(3月15日)、1936年3月、叢12
鏑木清方「河合・喜多村・花柳—東京劇場—」、『東京朝日新聞』(3月16日)、1936年3月、叢12
鏑木清方「青年歌舞伎—新宿第一劇場—」、『東京朝日新聞』(3月17日)、1936年3月、叢12
鏑木清方「帝展一夕話」『時の美術』第2巻第3号、1936年3月、叢9

鏑木清方「鑑審査を終りて」、『芸術』第14巻第7号(3月5日)、1936年3月、b7
鏑木清方「春への連想」、『絵画教習』第4巻第4号、1936年4月、b4
鏑木清方「褪春記」、『文芸春秋』第14巻第4号、1936年4月、b4･sk･ts･zt
鏑木清方「審査員の一人として」、『美術評論』第5巻第2号、1936年4月、b7
鏑木清方「帝展第一部評」、『美術』第11巻第11号、1936年4月、b7
鏑木清方「技術を観る」、『東陽』第1巻第1号、1936年4月、b7
鏑木清方「二三の覚書」、『阿々土』第12号、1936年4月、b7
鏑木清方「鑑査後記」、『アトリエ』第13巻第4号、1936年4月、b7
鏑木清方･山口蓬春･奥村土牛･太田聴雨･藤森順三「鏑木清方を囲んで一座談会一」、『美術評論』通巻第34号、1936年4月、b3g
鏑木清方「卓上語」、『美之国』第12巻第4号、1936年4月、b7
鏑木清方「羽左衛門にきく」(インタビュー)、『東京朝日新聞』(4月18日～27日、十回連載)、1936年4月
鏑木清方「河岸」、『読書感興』第2号、1936年4月、b8
鏑木清方「春庭」、『ホーム･ライフ』第2巻第5号、1936年5月、b8
鏑木清方「素材素描」、『改造』第18巻第5号、1936年5月、b1･ts
鏑木清方「草双紙」、『東陽』第1巻第3号、1936年6月、b2･ts･zm
鏑木清方「紫陽花舎閑話 1」、『阿々土』第13号、1936年7月、b1･zt、叢1、叢16
鏑木清方「麦僊君回想」、『美術評論』第5巻第4号、1936年7月、b3、叢11
鏑木清方「しのぶぐさ」、『塔影』第12巻第7号、1936年7月、b3、叢11
鏑木清方「『曲亭馬琴』の思ひ出」、『塔影』第12巻第8号、1936年8月、b1、叢8
鏑木清方「映画と挿絵の関係」、『東陽』第1巻第5号、1936年9月、b6･ts
鏑木清方「装置今昔」、『アトリエ』第13巻第9号(舞台美術号)、1936年9月、b6･ts
鏑木清方「麦僊君の芸術」、『阿々土』第14号、1936年10月、b3、叢11
鏑木清方「秋まだ浅き日の記」(灯火随筆)、『文芸春秋』第14巻第10号、1936年10月、b4･sk･ts･zt
鏑木清方「月の絵」、『ホーム･ライフ』第2巻第10号、1936年10月、b4･ts･zt
鏑木清方「前田、島崎」、『美之国』第12巻第10号、1936年10月、b7
鏑木清方「浅茅ヶ原」、『朝日新聞』(10月9日)、1936年10月、b5･ds･ts･nk
鏑木清方「化地蔵」、『朝日新聞』(10月10日)、1936年10月、b5･ds･ts･nk
鏑木清方「妙亀塚」、『朝日新聞』(10月11日)、1936年10月、b5･ds･ts･nk
鏑木清方「院展 福岡日日評」(各新聞の院展･青龍展･明朗展評)、『塔影』第12巻第10号、1936年10月
鏑木清方「中年の夫人」、『ホーム･ライフ』第2巻第12号、1936年11月、b6
鏑木清方「町の鑑賞」、『アトリエ』第13巻第11号、1936年11月、b8･ts･zt
鏑木清方「井上と八重子 明治座の『熊の唄』その他」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月6日)、1936年11月、叢12
鏑木清方「三代目歌右衛門 歌舞伎座の記念興行(上)」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月7日)、1936年11月、叢12
鏑木清方「一の谷と十段目 歌舞伎座の記念興行(中)」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月8日)、1936年11月
鏑木清方「権八と双面の美 歌舞伎座の記念興行(下)」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月10日)、1936年11月
鏑木清方「新国劇の現代物 “剣”よりも唆られる興味」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月11日)、1936年11月、叢12
鏑木清方「河内屋と沢瀉屋 追ひ出しまで面白い東劇」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月12日)、1936年11月、叢12
鏑木清方「“試験室有楽座” まだ見透しのつかぬ劇団」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月13日)、1936年11月、叢12
鏑木清方「意義ある競演(上) 原作と翻案を提げて 興味を呼ぶ新協と前進座」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月18日)、1936年11月、叢12
鏑木清方「意義ある競演(下) 先づ吉野の盗賊 興味を呼ぶ新協と前進座」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月19日)、1936年11月、叢12
鏑木清方「紫陽花舎閑話 2」(談話)、『阿々土』第15号(11月12月合併号)、1936年12月、b4
鏑木清方「美術と官権」、『美之国』第13巻第1号、1937年1月、b7
鏑木清方「挿絵閑話」、『美術評論』第6巻第1号、1937年2月、b1、叢7
鏑木清方「美人説」、『東陽』第2巻第2号、1937年2月、as･b6
鏑木清方･山口蓬春、司会:藤本韶三「芸談を聴く(2)鏑木清方氏」、藤本韶三『アトリエ』第14巻第2号、1937年2月、b7g
鏑木清方『薄紅梅』に絵を作りて」、『ホーム･ライフ』第3巻第2号、1937年2月、b8
鏑木清方「挿画家生活」、『美之国』第13巻第2号、1937年2月、b1･b2、叢7
鏑木清方「しばゐ随筆」、『芸術』第15巻第5号(3月5日)、1937年3月、as･b6、叢12
川合玉堂･鏑木清方･村雲大樸子･藤森順三「玉堂･清方閑談会」、『美術評論』第6巻第2号、1937年4月、n32
鏑木清方「ともだちの話」、『美之国』第13巻第5号、1937年5月、b2、叢7、叢11
鏑木清方「堀切」、『阿々土』第20巻、1937年7月、as･b5
鏑木清方「渓仙詩情」、『アトリエ』第14巻第7号、1937年7月、as･b3
鏑木清方「芸苑佳会」、『美之国』第13巻第8号、1937年8月、as･b8
鏑木清方「花鳥私語」、『美術時代』第1巻第1号、1937年9月、as･b1･b8
鏑木清方「身辺近事」、『文芸春秋』第15巻第10号、1937年10月、as･az･b8･zt
鏑木清方「戦争と画家」、『美術評論』第6巻第5号、1937年10月、叢9
鏑木清方「戦時に開かれる新文展」、『美之国』第13巻第10号、1937年10月、b7
鏑木清方「審査所感一思ひよるまゝ一」、『美術時代』第1巻第3号、1937年11月、b7
鏑木清方「私の報告」、『美之国』第13巻第11号、1937年11月、b7
鏑木清方「鰯」、『阿々土』第21巻、1938年1月、b8
鏑木清方「岡崎と夢の市蔵」(劇評)、『東京朝日新聞』(1月12日)、1938年1月、as
鏑木清方「快作『鶴八鶴次郎』」(劇評)、『東京朝日新聞』(1月13日)、1938年1月、as
鏑木清方「『吉野山』と『鎧櫃』」(劇評)、『東京朝日新聞』(1月14日)、1938年1月、as
鏑木清方「七草すぎ」、『芸術』第16巻第2号(1月15日)、1938年1月、as･b4･sk･zt
鏑木清方「今と昔の芝居」、『演芸画報』第32巻第2号、1938年2月
鏑木清方「日本髪」、『美之国』第14巻第2号、1938年2月、as
鏑木清方「はやりかぜ」、『塔影』第14巻第2号、1938年2月、as･b8
鏑木清方「『現代美術展』へ寄せる言」、『美術眼』第2巻第4号、1938年4月
鏑木清方「松岡君とのつきあい」(松岡映丘氏追悼)、『アトリエ』第15巻第5号、1938年4月
鏑木清方「明治以来東京の名物」、『美之国』第14巻第4号、1938年4月、b2･zm
鏑木清方「春寒」(松岡映丘氏弔辞)、『美之国』第14巻第4号、1938年4月、b3
鏑木清方「室君」、『塔影』第14巻第4号、1938年4月、b3
鏑木清方「芝居見物今昔 (一)、(二)、(三)」、『朝日新聞』(4月24、25、26日)、 1938年4月、as･b6
鏑木清方「花形から馬の脚へ」、『サンデー毎日』第17巻第28号(6月10日、夏季特別号)、1938年6月、b8
鏑木清方「画家と画工」『キング』第14巻第7号、1938年6月
鏑木清方「研究室」、『美術』第13巻第7号、1938年7月、b3

鏑木清方・花柳章太郎「よもやま藝談」『婦人画報』第414号、1938年8月、叢22
鏑木清方「花菖蒲と銀杏返し」、『文芸春秋』第16巻第8号、1938年8月、b6
鏑木清方「パール・ホワイトの死」、『美之国』第14巻第9号、1938年9月、b6
鏑木清方「先師遺蹟解説」、『阿々土』第23号、1938年10月、b3・tb
鏑木清方「嘆き」、『阿々土』第23号、1938年10月、b3・tb、叢11
鏑木清方「川越道　上、中、下」、『朝日新聞』(10月7、8、9日)、1938年10月、b5・yk
鏑木清方「情緒と写生」、『美術と趣味』第3巻第11号、1938年11月、b3
鏑木清方「新鮮味」、『美術評論』通巻第53号、1938年12月、b3
鏑木清方「思ひ出の一端」、『塔影』第14巻第12号、1938年12月、b3
鏑木清方「芝居だんぎ」、『芸術』第17巻第1号(1月5日)、1939年1月、b6
鏑木清方「山茶花」、『芸術』第17巻第6号(2月25日)、1939年2月、b4・yk
鏑木清方「季節の感触とえり足の美」『読売新聞』(3月22日夕)、1939年3月
鏑木清方「兎と万年青」、『阿々土』第25号、1939年4月、b2・rs・zm
鏑木清方「浮き出さぬ　新生新派の『一葉舟』」(四月の芝居　明治座評)、『東京朝日新聞』(4月8日)、1939年4月
鏑木清方「花も実もある"元禄忠臣蔵"大石廓通ひ」、『東京朝日新聞』(4月11日)、1939年4月
鏑木清方「身勝手ならぬ身勝手」、『美術殿』第7巻第5号、1939年5月、b7
鏑木清方「菊・近頃の力演　品格持たせた吃又」、『東京朝日新聞』(5月6日)、1939年5月
鏑木清方「新古、多彩の新派　喜多村、花柳のいゝ味」、『東京朝日新聞』(5月7日)、1939年5月
鏑木清方「左団次の『銭主』　羽左衛門の初役『掃部頭』」、『東京朝日新聞』(5月10日)、1939年5月
鏑木清方「平凡他奇なし、無人芝居だが手堅い」、『東京朝日新聞』(6月11日)、1939年6月
鏑木清方「映画仕立てで、興味本位の「合羽屋おらく」」、『東京朝日新聞』(6月13日)、1939年6月
鏑木清方「内濠外濠」、『芸術』第17巻第18号(6月25日)、1939年6月、b8・zt
鏑木清方「夏衣」、『ホーム・ライフ』第15巻第7号、1939年7月、b6
鏑木清方「新派と鏡花もの」、『東京朝日新聞』(9月9日)、1939年9月
鏑木清方「新春二題」、『改造』第22巻第1号、1940年1月、b8
鏑木清方「不二見西行」、『芸術』第18巻第1号(1月5日)、1940年1月、b8・zm
鏑木清方「そぞろごと」、『美之国』第16巻第2号、1940年2月、b1・ts
鏑木清方「思ひ出今昔」、『図書』第50号、1940年3月、b2・gz・k4g・kg、叢7
鏑木清方「左團次の業蹟」『婦人之友』第34巻第4号、1940年4月
鏑木清方「奉祝展と文展の性格」、『美之国』第16巻第4号、1940年4月、b7
鏑木清方「安田靱彦」、『文芸春秋』第18巻第5号、1940年5月、b7、叢11
鏑木清方「遺業追懐」、『塔影』第16巻第8号、1940年8月、b3
鏑木清方「思ひ出一つ」、『美術日本』第6巻第9号、1940年9月、b8
鏑木清方「金鈴社と松岡君」、『美之国』第16巻第9号、1940年9月、b3
鏑木清方「玉堂の人と芸術」、『報知新聞』、1940年11月、b8
鏑木清方「今日この時の川合先生」、『美之国』第16巻第11号、1940年11月、b3
鏑木清方「玉堂の人と芸術」、『美術と趣味』第5巻第11号、1940年11月、b8
鏑木清方「組皿　雪岱さんのこと」、『阿々土』第31号、1940年12月、b3・yk
鏑木清方「夜蕾亭随筆　1」、『阿々土』第31号、1940年12月、b8・rs・zt
鏑木清方「小村さん追想」、『翠彩』第2巻第6号、1940年12月、b8・tb
鏑木清方「歌舞伎座長期興行」、『演芸画報』第35巻第2号、1941年2月
鏑木清方「早春譜」『婦人公論』第26巻第2号、1941年2月、叢13
鏑木清方「藤懸博士寿像の製作」、『造形芸術』第3巻第4号、1941年4月、b8、叢13
鏑木清方「肖像画」、『塔影』第17巻第5号、1941年5月、b1
鏑木清方「用意の周到さ―樋口慶千代『傑作浄瑠璃集』に寄せて」、『評釈江戸文学叢書』月報、講談社、1941年6月、b8
鏑木清方「芸術院と松園さん」、『美術と趣味』第6巻第6号、1941年6月、b7
鏑木清方「清忠さんのこと」、『演芸画報』第35巻第9号、1941年9月、b6・rs
鏑木清方「隅田川に古跡を探る」、『新女苑』、1941年10月、b5・rs
鏑木清方「女子書簡文」、『一葉ふね』第3号(樋口一葉全集第五巻附録)、新世社、1941年10月
出席者:鏑木清方・坂崎坦・安田靱彦・結城素明・松林桂月・溝口禎次郎「明治時代の日本画界を語る(座談会)」、『国民美術』第1巻第1号、1941年10月、n32
鏑木清方「文展評を望まれて」、『美術と趣味』第6巻第11号、1941年11月、b7
鏑木清方「今年の文展日本画　新国画への出発」、『旬刊美術新報』第42号、1942年、叢9
鏑木清方「絵の働き」、『旬刊美術新報』第12号、1942年1月、b7
鏑木清方「官展と審査」、『季刊美術』第1巻第1号、1942年1月、b7
鏑木清方「夜蕾亭昔話」、『画論』第6号、1942年2月、b2・yk、叢7、叢13
鏑木清方「鏑木氏の文章」、『画論』第6号、1942年2月
鏑木清方「松園さんの研究」、『国画』第2巻第4号、1942年4月、b8
鏑木清方「雪」(上薄雪　中深雪　下雪晴)、『国画』第2巻第6号、1942年6月、b8・rs
鏑木清方「母子」『婦人公論』第27巻第7号、1942年7月、叢13
鏑木清方「左様なら『都』上、下」、『都新聞』(9月29、30日)、1942年　9月b8・yk
鏑木清方「今年の文展日本畫　新國畫への出發」『旬刊美術新報』第42号、1942年11月、叢9
鏑木清方「寺島紫明君」(特選作家を語る　審査員諸家)、『旬刊美術新報』第43号、1942年11月、b7、叢10
鏑木清方「美人畫解説　廣重と安治」『婦人公論』第28巻第1号、1943年1月、叢13
鏑木清方「武内桂舟先生」、『日本美術』第2巻第2号、1943年2月、b3・rs
鏑木清方「明治の作品展示を顧て」、『日本美術』第2巻第4号、1943年4月、b2
鏑木清方「伝統」(随筆)、『文芸春秋』第22巻第10号、1944年10月、b6・zm
鏑木清方「原色版口絵について 秋草」、『美術』第3巻第4号、1946年4月
鏑木清方「花見」、『時事新報』(4月10、12、13日、三回連載)、1946年4月、b2・zt
鏑木清方「老鶯」(随筆)、『文芸春秋』第24巻第7号、1946年7月、ag・b8・k2、叢13、叢20
鏑木清方「涼味　上、下」、『時事新報』(7月21、22日)、1946年7月、ag・b4・zt
鏑木清方「上村松園論」、『三彩』第2号、1946年8月、ag・b3
鏑木清方「茨木の腕」〔遥かなる頃　遠き頃(6)〕、『アサヒグラフ』第46巻第9号(9月25日)、1946年9月
鏑木清方「年始歳暮」、『時事新報』(1月3日)、1947年1月、ag・b4・zt
鏑木清方「我が画帖より(17)」、『アサヒグラフ』第47巻第3号(1月25日)、1947年1月
鏑木清方「烏合会のこと」、『花』第一集春季号、1947年2月、叢8
鏑木清方「一石二鳥」、『苦楽』第2巻第6号、1947年6月、叢24
鏑木清方「鎌倉の夏」、『時事新報』(7月27日)、1947年7月、ag・b8
鏑木清方「美貌の役者」、『劇場』第2年9月号、演劇文化社、1947年9月
鏑木清方「白魚舟」、『苦楽』第2巻第11号、1947年11月、叢24
鏑木清方「内職」(とっておきの話)、『週間朝日』、1948年、ag・b2・zm
鏑木清方「日本髪」、『毎日新聞』(1月1日)、1948年1月、az・b6
鏑木清方「梅薫る」、『幕間』、1948年4月、b6
鏑木清方「胡瓜」(夏を描く4)、『東京新聞』(7月21日)、1948年7月、ag・b4

鏑木清方「御会食の記」、『夕刊とうほく』(11 月 3 日)、1948 年 11 月、ag・b8
鏑木清方「日記抄」、『三彩』第 26 号、1949 年 1 月、b1
鏑木清方「島崎さんの挿絵をかいた頃のこと」「藤村研究」第 3 号、『島崎藤村全集　第 9 巻』附録、新潮社、1949 年 1 月
鏑木清方「表紙について」、『苦楽』第 4 巻第 2 号、1949 年 2 月、叢 24
鏑木清方「松園絵姿」、『苦楽』第 4 巻第 2 号(海外版)、1949 年 2 月、叢 24
鏑木清方「梨園の長者」、『幕間』第 38 号(別冊　松本幸四郎追悼号)、1949 年 3 月、b6
鏑木清方「幸四郎のおもひで」、『演劇界』第 7 巻第 3 号、1949 年 3 月、b6g、叢 12
鏑木清方「表紙について」、『苦楽』第 4 巻第 3 号、1949 年 3 月、叢 24
鏑木清方「表紙について」、『苦楽』第 4 巻第 4 号、1949 年 4 月、叢 24
鏑木清方「白足袋」、『文芸春秋』第 26 巻第 5 号、1949 年 5 月、ag・b8・zm
鏑木清方「表紙について」、『苦楽』第 4 巻第 5 号、1949 年 5 月、叢 24
鏑木清方「表紙について」、『苦楽』第 4 巻第 6 号、1949 年 6 月、叢 24
鏑木清方「夢の設計」、『苦楽』第 4 巻第 6 号、1949 年 6 月、叢 24
鏑木清方「表紙について」、『苦楽』第 4 巻第 7 号、1949 年 7 月、叢 24
鏑木清方「表紙について」、『苦楽』第 4 巻第 8 号、1949 年 8 月、叢 24
鏑木清方「私の先生」、『報知新聞』(11 月 20 日)、1949 年 11 月、ag・b2
鏑木清方「日本の女性松園」、『婦人画報』第 542 号、1949 年 11 月、叢 22
鏑木清方「張子の虎」、『東京新聞』(12 月 31 日夕刊)、1949 年 12 月、ag・b8
鏑木清方「五十年前」、1950 年 1 月、ag・b2・zm
鏑木清方「ラジオの功徳」、『NHK放送文化』第5巻第2号、1950年2月、ag・b8
鏑木清方「心のふるさと」、『文芸春秋』第 27 巻第 3 号、1950 年 3 月、ag・b2・zm、叢 7
鏑木清方「雑誌の絵について」『新小説』第5巻第4号、1950年4月、ag・b2
鏑木清方「美人画家夫人告知板」、『アサヒグラフ』第 53 巻第 13 号(3 月 29 日)、1950 年
鏑木清方「節分の絶筆」、『演劇界』第 8 巻第 4 号、1950 年 4 月
鏑木清方「梅雨」、『美術手帖』第 32 号、1950 年 7 月、b4・zt
鏑木清方「ゆかた」、『東海夕刊』(7 月 27 日)、1950 年 7 月、ag・b4・zt
鏑木清方「ゆかた」、『佐賀新聞』(7 月 23 日)、1950 年 7 月、ag・b4・zt
鏑木清方「ゆかた」、『新潟日報』(7 月 19 日夕刊)、1950 年 7 月、ag・b4・ts・zt
鏑木清方「庶民・夏・常住座臥」、『北海道新聞』(7 月 20 日)、1950 年 7 月、ag・b4
鏑木清方「ゆかた」、『熊本日日新聞』(7 月 20 日)、1950 年 7 月、ag・b4・zt
鏑木清方「ゆかたの魅力」、『京都新聞』(7 月 22 日)、1950 年 7 月、ag・b4・zt
鏑木清方「ゆかた」、『大分合同新聞』(7 月 23 日)、1950 年 7 月、ag・b4・zt
鏑木清方「ゆかた」、『上毛新聞』(7 月 23 日)、1950 年 7 月、ag・b4・zt
鏑木清方「庶民の夏」、『中部日本新聞』(7 月 26 日)、1950 年 7 月、ag・b4・zt
鏑木清方「二日月」、『大阪新聞』(9 月 21 日)、1950 年 9 月、ag・b4
鏑木清方「美のありか」、『婦人画報』第 552 号、1950 年 9 月、叢 22
鏑木清方「作品のゆくへ」、『文芸春秋』第 28 巻第 1 号、1951 年 1 月、ag・b1
鏑木清方「散歩」、『西日本新聞』(7 月 22 日)、1951 年 7 月、ag・b8
鏑木清方「あさがお」、『朝日新聞』(8 月 4 日夕刊)、1951 年 8 月、az・b4
鏑木清方「郷愁の色」、『東京新聞』(8 月 10 日)、1951 年 8 月、ag・b4・zt
鏑木清方「ひとりごと」、『名古屋タイムス』(9 月 17 日)、1951 年 9 月、ag・b8
鏑木清方「自薦未発表画五十一人集(38)『端午』」、『アサヒグラフ』第 55 巻第 39 号(9 月 19 日)、1951 年 9 月
鏑木清方「雁」、『産業経済新聞』(11 月 25 日)、1951 年 11 月、ag・b4・zt
鏑木清方「鴈」、『大阪新聞』(11 月 25 日)、1951 年 11 月、ag・b4・zt
鏑木清方「鎌倉の美術館」、『産業経済新聞』(12 月 23 日)、1951 年 12 月、ag・b8
鏑木清方「探梅」、『産業経済新聞』(1 月 22 日)、1952 年 1 月、ag・b5・zt
鏑木清方「正月の思い出」、『東京新聞』(1 月 3 日)、1952 年 1 月、ag・b4・zt
鏑木清方「菓子の会」、『産業経済新聞』(2 月 27 日)、1952 年 2 月、ag・b8
鏑木清方「わが家の歴史」、『朝日新聞』(2 月 3 日)、1952 年 2 月、ag・b2・zm
鏑木清方「金沢八景」、『小説新潮』第 6 巻第 4 号、1952 年 3 月、ag・b5
鏑木清方「尊氏と正成」、『中部日本新聞』(7 月 1 日夕刊)、1952 年 7 月、ag・b8
鏑木清方「人相」、『中部日本新聞』(7 月 2 日夕刊)、1952 年 7 月、ag・b8
鏑木清方「行儀」、『中部日本新聞』(7 月 3 日夕刊)、1952 年 7 月、ag・b8
鏑木清方「芸術院の授賞式」、『中部日本新聞』(7 月 4 日夕刊)、1952 年 7 月、ag・b8
鏑木清方「朝夕安居」、『中部日本新聞』(7 月 5 日夕刊)、1952 年 7 月、ag・b1・zt、叢 3、叢 9、叢 16
鏑木清方「交番の焼打」、『中部日本新聞』(7 月 6 日夕刊)、1952 年 7 月、ag・b8・zm
鏑木清方「つゆあけ」、『中部日本新聞』(7 月 7 日夕刊)、1952 年 7 月、ag・b4・zt
鏑木清方「汐風」、『歌舞伎の友』第 2 号、1952 年 9 月、b6
鏑木清方「木犀」、『Romance』、1952 年 10 月、ag・b4・zt
鏑木清方「道しるべ」、『中部日本新聞』(2 月夕刊)、1953 年 2 月、ag・b5
鏑木清方「女芝居」、『中部日本新聞』(2 月夕刊)、1953 年 2 月、ag・b6、叢 7
鏑木清方「ある構図」、『中部日本新聞』(2 月夕刊)、1953 年 2 月、ag・b8
鏑木清方「三国同盟」、『中部日本新聞』(2 月 15 日夕刊)、1953 年 2 月、ag・b8
鏑木清方「桜ヶ池」、『中部日本新聞』(2 月 17 日夕刊)、1953 年 2 月、ag・b5
鏑木清方「平和追求」、『中部日本新聞』(2 月 21 日夕刊)、1953 年 2 月、ag・b8
鏑木清方「逆説忠臣蔵」、『中部日本新聞』(2 月 26 日夕刊)、1953 年 2 月、ag・b8
鏑木清方「私のモデル　M夫人」、『朝日新聞』(3 月 5 日)、1953 年 3 月、ag・b1、叢 7
鏑木清方「季節と生活」、『婦人の友』47 巻 10 号、1953 年 10 月
鏑木清方「菊　文化の日に」、『東京新聞』(11 月 3 日)、1953 年 11 月、ag・b4・zt
鏑木清方「引越ばなし」、『朝日新聞』(11 月 3 日)、1954 年 11 月、ag・b2・zm
鏑木清方「画室の反抗―あの頃のこと―」、『改造』第37巻第1号、　1955 年 1 月、b1・k2、叢 1、叢 13、叢 20
鏑木清方「圓朝と野州の旅をした話」、『寄席風流』第 5 号、1955 年 8 月、ag・b2・zm『新編人生の本』
鏑木清方「こしかたの記」、『中央公論』第 70 年第 10 号、1955 年 10 月、k1
鏑木清方「こしかたの記」、『中央公論』第 70 年第 12 号、1955 年 12 月、k1
鏑木清方「菊池さんのこと」、『三彩』第 70 号、1955 年 12 月、b3・tb、叢 11
鏑木清方「『明石町』対面　(上、下)」、『毎日新聞』(12 月 10、11 日)、1955 年 12 月、ag・b1、叢 1
鏑木清方「こしかたの記」、『中央公論』第 71 年第 1 号、1956 年 1 月、k1
鏑木清方「こしかたの記」、『中央公論』第 71 年第 2 号、1956 年 2 月、k1
鏑木清方・北川桃雄(対談)「清方閑談」、『世界』第 123 号、1956 年 3 月
鏑木清方・北川桃雄(対談)「清方閑談」、『世界』第 124 号、1956 年 4 月
鏑木清方「こしかたの記」、『中央公論』第 71 年第 5 号、1956 年 5 月、k1
鏑木清方「深水の一面」(特集　伊東深水)、『造形』第 2 巻第 7 号・8 号、1956 年 7 月、b3、叢 10
鏑木清方「こしかたの記」、『中央公論』第 71 年第 12 号、1956 年 11 月、k1、叢 7
鏑木清方「金鈴社以前」、『萌春』第43号(結城素明追悼号)、1957年4月、n32・tb、叢 19
鏑木清方「結城素明君を偲ぶ」、『美術街』第 152 号、1957 年 6 月、b3、叢 11
鏑木清方「花火」、『絵と随筆　真珠』第 1 号、1957 年 9 月
鏑木清方・木村荘八・円地文子「"きもの"の移りかわり(伝統の新しさ 3)」、『婦人の友』52 巻 3 号、1958 年 3 月
鏑木清方「徳川夢声連載対談問答無用(第三百八十一回)」『週刊朝日』第 63 巻第 32 号、1958 年 8 月、叢 7
鏑木清方「半古先生のこと」、『現代の眼』第 45 号、1958 年 8 月、b3、叢 11
鏑木清方「古跡」、『声』第 2 号、1959 年 1 月、ag・b3
鏑木清方「思ひ出の佃小橋」、『表象』第 2 号、1959 年 6 月、ag・b3
鏑木清方「横寺町の先生」、『声』第 5 号、1959 年 10 月、b2、叢 15
鏑木清方・高橋邦太郎「清方画伯と語る」、『萌春』第 87 号、1961 年 1 月
鏑木清方・高橋邦太郎「清方画伯と語るⅡ」、『萌春』第 88 号、1961 年 2 月

鏑木清方「回想の江東」、『産業経済新聞』(4 月 19 日江東版)、1961 年 4 月、ag・b5
鏑木清方「雪の下こぼれ話(1)　江東の梅を思ふ」、『毎日新聞』(3 月 25 日夕刊)、1962 年 1 月、ag・b5・zm
鏑木清方「立姿」(姿)〔生活随筆〕、『婦人の友』56 巻 2 号、1962 年 2 月、ag・b6
鏑木清方「散歩」(ずいひつ)、『婦人公論』第 47 巻第 2 号、1962 年 2 月、ag・b8
鏑木清方「雪の下こぼれ話(2)　青帛の仙女」、『毎日新聞』(3 月 26 日夕)、1962 年、ag・b3
鏑木清方「雪の下こぼれ話(3)　失われた築地川」、『毎日新聞』(3 月 30 日夕)、1962 年、ag・b5・zm
鏑木清方「雪の下こぼれ話(4)、(5)　御殿場高原　上、下」、『毎日新聞』(4 月 3、5 日夕)、1962 年、ag・b5
鏑木清方「明治の生活美術寸言」、『明治の生活美術展』、サントリー美術館、1962 年 9 月
鏑木清方「『明石町』をかいたころ」、『講談社版　日本近代絵画全集　第 21 巻　鏑木清方　平福百穂　月報』講談社、1962 年 10 月
鏑木清方・安田靫彦、司会:河北倫明「明治・大正の美術界」、東京国立近代美術館『現代の眼』(国立近代美術館ニュース)第 107 号、1963 年 10 月、b7・n32・kt
鏑木清方「こしかたの記　大正の歩み　一」、『三彩』第 172 号、1964 年 4 月、k2
鏑木清方「こしかたの記　大正の歩み　二」、『三彩』第 173 号、1964 年 5 月、k2
鏑木清方「こしかたの記　大正の歩み　三」、『三彩』第 174 号、1964 年 6 月、k2
鏑木清方「こしかたの記　四　金鈴社一」、『三彩』第 175 号、1964 年 7 月、k2、叢 19
鏑木清方「こしかたの記　五　金鈴社二」、『三彩』第 176 号、1964 年 8 月、k2、叢 19
鏑木清方「こしかたの記　六　文展終期」、『三彩』第 177 号、1964 年 9 月、k2
鏑木清方「こしかたの記　六(ママ)　八景の金沢」、『三彩』第 180 号、1964 年 12 月、k2、叢 19
鏑木清方「明治の東京」、『明治の東京展』、サントリー美術館、1965 年 9 月
鏑木清方、北川桃雄・藤本韶三(ききて)「むかしがたり　―　鏑木清方氏」、『三彩』第 192 号、1965 年 10 月、b5g・b4g・n32
鏑木清方「追憶断片」、『三彩』第 211 号、1967 年 2 月、b3
鏑木清方・北川桃雄・藤本韶三「座談会　美人画を語る」(6 月号増刊「美人画の百年」)、『三彩』第 216 号、1967 年 6 月
鏑木清方「三彩の創刊」(三彩創刊 20 周年に寄せて)、『三彩』第 221 号、1967 年 11 月、b7
鏑木清方「画帖朝顔日記について」、『三彩』第 233 号、1968 年 8 月、b1、叢 3、叢 13
鏑木清方「かきぞめ」(随筆)、『婦人の友』63 巻 1 号、1969 年 1 月、ag・b4・zt
鏑木清方「忘られぬ俤」、『小泉信三全集 23』月報 23、文芸春秋、1969 年 2 月、ag・b8
鏑木清方「弔辞」(追悼／北川桃雄)、『三彩』第 246 号、1969 年 7 月
鏑木清方「今様絵詞の会」(特集Ⅰ　鏑木清方の今様絵詞)、『三彩』第 249 号、1969 年 10 月、b1、叢 3、叢 24
鏑木清方「上村松園論」、『三彩』第 256 号(臨時増刊)、1970 年 3 月
鏑木清方「市人の暮らし」、『季刊銀花』第 1 号(春の号)、1970 年 4 月、ag・b1、叢 3、叢 13、叢 16
鏑木清方「作品に寄せて」、『美術グラフ』第 20 巻第 12 号、1971 年 12 月
鏑木清方「碓氷と妙義」／鏑木清方、北川桃雄・藤本韶三(ききて)「清方むかしがたり(上)」、白鳳社編『鏑木清方文集　第五巻　名所古跡』月報 1 号、白鳳社、1979 年 2 月
鏑木清方「小説家と挿絵画家」／鏑木清方「湘南絵葉書」／鏑木清方、北川桃雄・藤本韶三(ききて)「清方むかしがたり(下)」、白鳳社編『鏑木清方文集　第四巻　春夏秋冬』月報 2 号、白鳳社、1979 年 3 月
鏑木清方「清方の書簡」／鏑木清方「弔辞」／鏑木清方・奥村土牛・山口蓬春・太田聴雨・藤森順三「鏑木清方を囲んで」、白鳳社編『鏑木清方文集　第三巻　先人後人』月報 3 号、白鳳社、1979 年 5 月
鏑木清方「自作自解」／鏑木清方「小説の挿絵」、白鳳社編『鏑木清方文集　第二巻　明治追懐』月報 5 号、白鳳社、1979 年 11 月
鏑木清方「遠望した岡倉先生」、『岡倉天心全集　月報 3』平凡社、1980 年 2 月、b8
鏑木清方「幸四郎の思ひ出」、白鳳社編『鏑木清方文集　第六巻　時粧風俗』月報 6 号、白鳳社、1980 年 2 月
鏑木清方・安田靫彦、河北倫明(司会)「対談　明治・大正の美術界」／鏑木清方・山口蓬春、藤本韶三(司会)「対談清方に聴く」、白鳳社編『鏑木清方文集　第七巻　画壇時事』月報七号、白鳳社、1980 年 6 月
鏑木清方「清方の随筆から」(巻頭特集　鏑木清方)、『三彩』第 508 号、1990 年 1 月
鏑木清方「影を追う―水上瀧太郎追悼(三田文学創刊九十年　三田文学名作選)」、『三田文学』臨増、2000 年 5 月

Ⅳ 作品評、鏑木清方論等

(一)評論、エッセイ等

「浮世絵の青年画家が結婚」、『都新聞』(9 月 5 日)、1903 年 9 月
「談叢」、『美術新報』第 7 巻第 2 号、1908 年 4 月
「附録　鏑木清方筆　松の内(原色版)」、『美術画報』第 29 編巻 3、1911 年 1 月
坂井犀水「新時代の作家(8)　鏑木清方氏」、『美術新報』第 11 巻第 12 号、1912 年 12 月、n32
鏑木照子「この頃の夫」(細君の見たる良人)(談)、『新小説』第 18 年第 6 巻、1913 年 6 月
碧雲居士「名家訪問記(4)　鏑木清方氏」、『美術新報』第 13 巻第 3 号、1914 年 1 月
秋生「清方氏との半時間」、『日本美術』第 17 巻第 2 号、1914 年 12 月
林田春潮「一種のアイデアリスト」(現代作家評論(2)　鏑木清方論)、『多都美』第 10 巻第 2 号、1916 年 2 月
古川修「夢の世界の美人画家」(現代作家評論(2)　鏑木清方論)、『多都美』第 10 巻第 2 号、1916 年 2 月
下村観山「新しいトラデツシヨンを辿る人」(現代作家評論(2)　鏑木清方論)、『多都美』第 10 巻第 2 号、1916 年 2 月
川合玉堂「真面目な姿」(現代作家評論(2)　鏑木清方論)、『多都美』第 10 巻第 2 号、1916 年 2 月
鴨下晃湖「清方君と山村君と」(現代作家評論(2)　鏑木清方論)、『多都美』第 10 巻第 2 号、1916 年 2 月
井沢蘇水「品位ある江戸前の作家」(現代作家評論(2)　鏑木清方論)、『多都美』第 10 巻第 2 号、1916 年 2 月
「志筑漫筆　清方氏夫妻と輝方氏と蕉園女史」、『美術画報』第 40 編巻 2、1917 年 1 月
「鏑木清方君の芸術」、『美術』第 1 巻第 3 号、1917 年 1 月
白木生「清方画塾の新年会」、『中央美術』第 3 巻第 2 号、1917 年 2 月
古川修「日本画家五氏の作品」、『美術新報』第 17 巻第 1 号、1917 年 11 月
石井直三郎「契月と清方と百穂」、『美術画報』第 41 編巻 1、1917 年 11 月
坂井犀水「金鈴社第 3 回展覧会を観る」、『中央美術』第 4 巻第 6 号、1918 年 6 月
川合玉堂「鏑木清方氏」(文展推薦の七作家)、『中央美術』第 4 巻第 11 号、1918 年 11 月、叢 21
門井掬水「紫陽花の思ひ出(浜町以前)」(清方先生と塾〈大家と門生〉〔2〕)、『中央美術』第 5 巻第 8 号、1919 年 8 月
伊東深水「恩師と塾に対する感想(浜町以後)」(清方先生と塾〈大家と門生〉〔2〕)、『中央美術』第 5 巻第 8 号、1919 年 8 月
林田春湖「鏑木清方君」(帝展新審査員是非)、『中央美術』第 5 巻第 11 号、1919 年 11 月

「忙語閑話」、『美術写真画報』第1巻第1号、1920年1月
岡本一平「漫画の帝展　見せもの『妖魚』鏑木清方氏筆」、『中央美術』第6巻第11号、1920年11月
「清方の『雪十種』」、『中央美術』第7巻第4号、1921年4月
吉川霊華「完成された浮世絵」(鏑木清方論)、『中央美術』第7巻第9号、1921年9月、叢21
山中古洞「清方君の半面」(鏑木清方論)、『中央美術』第7巻第9号、1921年9月、叢21
正宗得三郎「寸感」(鏑木清方論)、『中央美術』第7巻第9号、1921年9月、叢21
鯖崎英明「努力の人」(鏑木清方論)、『中央美術』第7巻第9号、1921年9月、叢21
笹川臨風「自動車と洋服」(鏑木清方論)、『中央美術』第7巻第9号、1921年9月、叢21
「清方門下の人々」、『美術画報』第46編巻6、1923年4月
「夫を画星たらしめた鏑木夫人」、『現代』、1923年8月
小早川秋声・清矢青壁「鏑木清方論」、『アトリエ』第2巻第12号、1925年12月
竹内生「鏑木清方」(現代の画家)、『書画骨董雑誌』第233号、1927年1月
泉鏡花「玉川の草」『文藝春秋』第5年第6号、1927年6月、叢7
「清方氏の注文帳　郷土会を観る」(展覧会記)、『中央美術』第13巻第7号、1927年7月
鏑木照「母と娘　今の心もち」『婦人公論』第12巻第7号、1927年7月、叢13
泉鏡花「健ちゃん大出来！」、『美之国』第3巻第9号、1927年11月、b4g・k28、叢7
川合玉堂「鏑木氏の作と人と」、『美之国』第3巻第9号、1927年11月
竹内栖鳳「独特の芸術境―清方氏の事―」、『美之国』第3巻第9号、1927年11月
前田青邨「都会人の絵」、『美之国』第3巻第9号、1927年11月
「昭和人物月旦」、『文芸春秋』第7巻第5号、1929年5月
外狩素心庵「鏑木さんの『春駒』に乗る」、『芸術』第8巻第1号(1月5日)、1930年1月
「麦水雑記　清方画伯と延寿氏」、『芸術』第8巻第11号(8月15日)、1930年8月
安田靫彦「感じたまま」(鏑木清方氏を語る)、『アトリエ』第7巻第11号、1930年11月、b3g・yg・n32
土田麦僊「名人と清方さん」(鏑木清方氏を語る)、『アトリエ』第7巻第11号、1930年11月
木村荘八「有縁清方」(鏑木清方氏を語る)、『アトリエ』第7巻第11号、1930年11月
宇野浩二「清方先生管見」(鏑木清方氏を語る)、『アトリエ』第7巻第11号、1930年11月、b5g
山口蓬春「吾等の鏑木先生」(鏑木清方氏を語る)、『アトリエ』第7巻第11号、1930年11月
中村岳陵「独自の境地」、『巽』第4巻第1号、1931年1月
木村荘八「見染めたら最後」、『巽』第4巻第1号、1931年1月
河合武雄「畏敬する芸術家」、『巽』第4巻第1号、1931年1月
「西山翠嶂先生を訪ふ」、『巽』第4巻第1号、1931年1月
都筑真琴「紫陽花の舎主人を語る」、『巽』第4巻第1号、1931年1月
門井掬水・石井摘水・伊東深水・山川秀峰・榎本千花俊・桜井霞洞・西田青坡・川瀬巴水・小早川清(談)「清方先生を語る」、『巽』第4巻第1号、1931年1月
「堅気な名匠・鏑木清方」、『文芸春秋』第9巻第3号、1931年3月
「菊　鏑木清方氏筆」、『塔影』第7巻第10号、1931年10月
泉鏡花『美人畫全集』に題す」、『現代作家　美人畫全集月報』、1931年10月、叢7
浜崎三夏「清方と恒富」、『塔影』第8巻第1号、1932年1月
「清方氏『初雁の御歌』　神宮壁画を完成」、『塔影』第8巻第3号、1932年3月
「一、初雁の御歌(明治神宮聖徳記念絵画館壁画)　鏑木清方氏筆」、『塔影』第8巻第5号、1932年5月
「二、初雁の御歌(同前、下絵)」、『塔影』第8巻第5号、1932年5月
「潮みつ浜　鏑木清方氏筆」、『塔影』第9巻第2号、1933年2月
「献上屏風〈讃春〉　鏑木清方氏筆」、『塔影』第9巻第9号、1933年9月
神崎憲一「日本画に於ける四つの立場」、『塔影』第10巻第1号、1934年1月
豊田豊「六潮会の日本画」、『塔影』第10巻第3号、1934年3月
「鏑木清方氏の個展」、『アトリエ』第11巻第7号、1934年7月
神崎生(神崎憲一)「『銀砂子』を読む」、『塔影』第11巻第7号、1934年7月
斉田素州「鏑木清方氏作品第一回展」、『塔影』第10巻第7号、1934年7月
泉鏡花『築地川』序」『築地川』、1934年10月、叢7
神崎生(神崎憲一)「清方氏著『築地川』」、『塔影』第10巻第12号、1934年12月
一松・柏亭・楽之軒・修・白里「帝展評評話　『妓女像』鏑木清方」、『阿々土』第3号、1934年12月
藤森順三「鏑木さんの『築地川』」、『美術評論』第4巻第1号、1935年1月
横川毅一郎「現代作家人物論(15)　鏑木清方」、『アトリエ』第12巻第3号、1935年3月
広瀬熹六「清方と荘八」、『塔影』第11巻第3号、1935年3月
雄山亘「当今個展ばやり(深水・龍子・青邨・清方個展)」、『現代美術』第2巻第4号、1935年4月
「泉鏡花作　鏑木清方画　注文帳画譜」、『阿々土』別巻第2号、1935年4月
「清方風俗絵展」、『美之国』第11巻第4号、1935年4月
雄山亘「鏑木清方氏個展　明治風俗」、『美術街』第4巻第6号、1935年6月
山口玄珠「大通清方」、『阿々土』第4号(鏑木清方特集号)、1935年6月
「鏑木清方略歴・鏑木清方作画年表」、『阿々土』第4号(鏑木清方特集号)、1935年6月
吉井勇「画壇三秀」、『塔影』第11巻第6号、1935年6月
豊田豊「鏑木清方個展随想」、『塔影』第11巻第8号、1935年8月
豊田豊「鏑木清方舞台装置『たけくらべ』」、『塔影』第11巻第8号、1935年8月
藤森順三「清方第二回個展」、『美術評論』第4巻第6号、1935年8月
「鏑木清方作品第二回展観」、『阿々土』別巻第4号、1935年10月
外狩素心庵「美術時評(清方大人の言説)」、『アトリエ』第13巻第1号、1936年1月
山川秀峰「〈圓朝〉と〈慶喜恭順〉」、『絵画教習』第4巻第6号、1936年6月
今井繁三郎「鏑木清方氏個展」、『美之国』第12巻第7号、1936年7月
豊田豊「清方の個展と主題主義」、『塔影』第12巻第8号、1936年8月
古山順一「鏑木清方氏第三回個展」、『美術街』第3巻第8号、1936年8月
藤森順三「清方第三回個展」、『美術評論』第5巻第5号、1936年8月
金井紫雲「日本画展巡礼　鏑木清方氏個展」、『アトリエ』第13巻第8号、1936年8月
「鏑木清方個展」(美術界彙報　画壇情勢摘録)、『中央美術』復興第37号、1936年9月
山川秀峰「舞踊画に就て」、『塔影』第12巻第12号、1936年12月
泉鏡花『薄紅梅』(14)」『東京日日新聞』(1月20日)、1937年1月、叢7
今井繁三郎「人物風景　清方先生」、『美之国』第13巻第9号、1937年9月
神崎憲一「鏑木清方氏著『蘆の芽』」、『塔影』第14巻第10号、1938年10月
金原省吾「鏑木清方論」、『阿々土』第28号、1939年10月
高沢初風「青邨清方の舞台装置―菊五郎の続太閤記と高尾―」、『塔影』第16巻第7号、1940年7月
本間久雄『彩雨』と『一葉』―奉祝展鑑賞二題―」、『塔影』第16巻第12号、1940年12月
藤懸静也「肖像をかゝんの記」(ママ)、『造形芸術』第3巻第4号、1941年4月
高沢初風「清方ゑがく(清元)」、『塔影』第17巻第4号、1941年4月
高山道子「鏑木清方先生」(道子の画壇訪問〔2〕)、『美術と趣味』第6巻第5号、1941年5月、b7
村松梢風「鏑木清方のこと」、『中央公論』第56年第8号、1941年8月
木村荘八「鏑木さん、雑感」、『画論』第6号、1942年2月、tf

鈴木進「文人清方」、『画論』第6号、1942年2月
「鏑木清方写生帖」、『画論』第6号、1942年2月
藤本四八「鏑木清方氏　生活の周囲」、『画論』第6号、1942年2月
神崎憲一「布晒し」、『国画』第2巻第12号、1942年12月
北川桃雄「清方」、『三彩』第13号、1947年11月
久保田万太郎「清方先生」『苦楽』第3巻第9号(海外版)、1948年10月、叢24
久保田万太郎「かまくら雑記」、『久保田万太郎全集』第17巻、1949年6月
中田宗男「画家とふるさと―清方・恒友を中心に―」、『三彩』第33号、1949年8月
「日本画名作モデル告知板　鏑木清方(朝涼)」、『アサヒグラフ』第54巻第17号(10月25日)、1950年10月
「君は金屏の前」(結婚記念写真拝見)、『アサヒグラフ』第54巻第17号(10月25日)、1950年10月
鏑木照「日本画家鏑木清方の妻として五十年」、『婦人公論』第35巻第11号、1950年11月、ag(『鏑木清方: 市井に生きたまなざし (別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月再録)
河北倫明「鏑木清方の芸術」、『三彩』第48号、1950年12月
藤懸静也「清方画業五十年」、『アサヒグラフ』第54巻第23号(12月6日)、1950年12月
藤懸静也「鏑木清方先生筆の私の画像」、『三彩』第51号、1951年2月、b1g
河原義和「鏑木清方論」『現代の日本畫家』美術主義評論社、1951年7月
高橋誠一郎「鏑木清方」(〈人と作品・7〉)、『芸術新潮』第4巻第12号、1953年12月
伊東深水「肖像画雑感」、『萌春』第6号、1954年3月
伊東深水「清方先生の絵画について」、『萌春』第9号、1954年6月
鈴木進「清方先生」、『萌春』第9号、1954年6月
「文化勲章に輝く五氏　庶民感情一すじに」、『朝日新聞』(10月15日)、1954年10月
「清方芸術の世界―文化勲章受章に際して―」、『萌春』第15号、1954年12月
河北倫明「鏑木清方の芸術」、『文芸春秋』第33巻第7号、1955年4月
藤森淳三「続清方名作展によせて」、『美術案内』第9号、1956年4月
加藤一雄「清方私抄 〈作家小論10〉」、『三彩』第77号、1956年7月
加藤一雄「一葉女史の墓」、『三彩』第90号、1957年8月
木村荘八「『にごりえ』のたのしさ」、『萌春』第53号、1958年3月、b8
北川桃雄「雪の下閑日―清方画伯を訪ねて」、『三彩』第112号、1959年3月
北川桃雄「清方の下絵とスケッチについて」、『萌春』第72号、1959年10月
大河内信敬「セザンヌ断想(清方の線とセザンヌの線)」、『萌春』第七三号、1959年11月
北川桃雄「清方の下絵とスケッチ」、『三彩』第120号、1959年11月
関千代「烏合会について」、『美術研究』第209号、1960年3月
和田芳恵「ふたつの一葉像」、『萌春』第90号、1961年4月
森田たま「清方先生の『こしかたの記』」、『萌春』第91号、1961年5月
大佛次郎「初冬の花―鏑木清方自選展―」、『毎日新聞』(5月19日夕刊)、1962年5月
久富貢「鏑木清方自選展を見て」、『萌春』第102号、1962年6月
三木多聞「現代日本の名画を追って:鏑木清方筆〈三遊亭円朝像〉」、『萌春』第102号、1962年6月
野間清六「鏑木清方の芸術」(特集Ⅱ　鏑木清方)、『三彩』第151号、1962年6月
小糸源太郎・河北倫明(対談)「明治情緒と鏑木清方の芸術」(特集Ⅱ　鏑木清方)、『三彩』第151号、1962年6月
岩田藤七「『築地明石町』界隈―清方先生の名作に触れて―」、『絵と随筆 真珠』第15号、1962年9月
板垣鷹穂「生活を描く肖像―現代日本画の一業績―」、『国際文化』第108号、1963年
村松定孝「鏑木清方と泉鏡花」、『本の手帖』第5巻第1号、1965年2月
名取堯「庭の芭蕉 ―平福百穂、鏑木清方氏らのこと」『武蔵野美術』第54号、1965年3月
藤本韶三「書評　続こしかたの記」、『三彩』第221号、1967年11月
芝木好子「鏑木清方先生の絵」(特集Ⅰ　鏑木清方の今様絵詞)、『三彩』第249号、1969年10月
藤本韶三「鏑木清方の今様絵詞の会について」(特集Ⅰ　鏑木清方の今様絵詞)、『三彩』第249号、1969年10月
「市井の女 〈清方の描いた人たち〉」、『季刊銀花』第1号(春の号)、1970年4月
「にごりえ　清方挿絵抄」、『季刊銀花』第1号(春の号)、1970年4月
和田芳恵「鏑木清方の『にごりえ』をみて」、『季刊銀花』第1号(春の号)、1970年4月
藤本韶三「鏑木清方展が開かれる」、『三彩』第278号、1971年10月
河北倫明「美術史上の清方先生」、『画集　鏑木清方』、毎日新聞社、1971年10月
鈴木進「文人・清方」、『画集　鏑木清方』、毎日新聞社、1971年10月
河北倫明「鏑木清方の芸術」、『毎日新聞創刊百年記念　鏑木清方展』、毎日新聞社、1971年10月
鈴木進「雪の下　鏑木邸」、『毎日新聞創刊百年記念　鏑木清方展』、毎日新聞社、1971年10月
岩田藤七「清方先生」、『萌春』第208号、1972年3月
「亡き名画家を惜しむ:北駿にゆかり深い清方画伯　作品が家宝の池谷家」、『岳麓新聞』(3月4日)、1972年3月
小川正隆「鏑木清方さんを悼む」、『朝日新聞』(3月3日)、1972年3月、tb
岩田藤七「清方先生」、『萌春』第209号、1972年4月
鈴木進・藤本韶三「対談・鏑木清方先生を憶う〈追悼〉」、『三彩』第286号、1972年4月
山田肇「最晩年の鏑木清方」、『学鐙』第69巻第5号、1972年5月
中村真一郎「清方の死と生」、『中央公論』第87巻第5号、1972年5月
芝木好子「清方先生とのある日」、『海』、1972年9月
菊池芳一郎「町絵師魂を貫いた生涯―鏑木清方の死に思う―」、『美術グラフ』第21巻第4号、1972年12月
菊池芳一郎「4つの回顧展(2)　鏑木清方展」、『美術グラフ』第14巻第8号、1973年10月
井上るり子「鏑木清方(一)」、『萌春』第233号、1974年6月
井上るり子「鏑木清方(二)」、『萌春』第235号、1974年8月
井上るり子「鏑木清方(三)」、『萌春』第236号、1974年9月
高階秀爾・芳賀徹・越智治雄「清方芸術と明治の近代―〈一葉女史の墓〉をめぐって」、『淡交』第29巻第2号、1975年2月
井上るり子「鏑木清方(四)」、『萌春』第241号、1975年3月
里見弴「温容」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月、b8g・za
文:吉行淳之介「清方美人画帖」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
吉行淳之介「私にとっての美女」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
「明治下町暦」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
芝木好子「明治の面影」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月(『鏑木清方: 市井に生きたまなざし (別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月再録)
文:戸板康二「清方と明治の文人たち」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
戸板康二「さまざまな魂の懸け橋」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
小林忠「随筆特集　鏑木清方の卓上芸術」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
高橋邦太郎「随筆特集　〈築地明石町〉のモデル」(特集　鏑木清方　回想

の明治)、『太陽』第 164 号、1976 年 1 月
山田肇「随筆特集　岳父清方のこと」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第 164 号、1976 年 1 月
川口松太郎「特集小説　築地川の女」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第 164 号、1976 年 1 月
太田治子「特集ガイド　回想の明治　東京下町地図」(特集　鏑木清方　回想の明治)、『太陽』第 164 号、1976 年 1 月
瀬木慎一「芳年の思想的考察」(特集＝幕末の思想　近代日本の源流)、『現代思想』第 4 巻第 4 号、1976 年 4 月
笠松紫浪「わが師・鏑木清方と木版画」、『版画芸術』16 号、1977 年 1 月
馬場京子「愁いと苦渋の匂い　ためさるる日」(グラビア)、『婦人公論』第 62 巻第 2 号、1977 年 2 月
福富太郎「薄雪と私」、福富太郎編『美人画百年　わが家の美術館』(マイライフシリーズ)第 88 号、グラフ社、1977 年 7 月
馬場京子「可憐な下町娘　一葉女史の墓」(グラビア)、『婦人公論』第 62 巻第 12 号、1977 年 12 月
細野正信「目黒雅叙園コレクション(五)　清方と深水」、『萌春』第 273 号、1978 年 2 月
田中日佐夫「美人画家を助けた美人妻」、『文芸春秋』第 55 巻第 2 号、1978 年 2 月
藤浦富太郎「〈私と鏑木清方〉余談」、『江戸っ子』第 18 号、1978 年 4 月
野坂昭如「清方体験－〈俗っぽさ〉ということ―」、『芸術新潮』第 29 巻第 8 号、1978 年 8 月
宇野浩二「清方先生管見」、白鳳社編『鏑木清方文集　第五巻　名所古跡』月報 1 号、白鳳社、1979 年 2 月
鈴木進「女性美―美人画の系譜―」(特集　女性美―美人画・風俗画・肖像画)/「上村松園・鏑木清方・伊東深水　作品略年譜」、『三彩』第 378 号、1979 年 3 月
泉鏡花(鏡花小史)「『築地川』序」／泉鏡花「健ちゃん大出来！」、白鳳社編『鏑木清方文集　第四巻　春夏秋冬』月報 2 号、白鳳社、1979 年 3 月
安田靫彦「感じたまま」、白鳳社編『鏑木清方文集　第三巻　先人後人』月報 3 号、白鳳社、1979 年 5 月
芳賀徹・高階秀爾・小林忠・山田肇「討論　清方の文章(上)」／藤懸静也「鏑木清方先生筆の私の画像」、白鳳社編『鏑木清方文集　第一巻　制作餘談』月報 4 号、白鳳社、1979 年 8 月
「鏑木清方にみる明治の風俗」(グラビア　サンデー美術館)、『サンデー毎日』(10 月 7 日)、1979 年 10 月
芳賀徹・高階秀爾・小林忠・山田肇「討論　清方の文章(中)」、白鳳社編『鏑木清方文集　第二巻　明治追懐』月報五号、白鳳社、1979 年 11 月
斉藤信也「私と清方先生」(酔中TV)、『週間新潮』(11 月 8 日)、1979 年 11 月
芳賀徹・高階秀爾・小林忠・山田肇「討論　清方の文章(下)」、白鳳社編『鏑木清方文集　第六巻　時粧風俗』月報 6 号、白鳳社、1980 年 2 月
戸板康二「温容の達人」『名作挿絵全集　第一巻』、平凡社、1980 年 7 月
里見弴「温容」／大佛次郎「鏑木清方画伯」／久米正雄「更正文展を見る」／宇野浩二「更正文展〈書きのぞ記〉」／木村荘八「『にごりえ』のたのしさ」／奥村土牛「清方先生」、白鳳社編『鏑木清方文集　第八巻　随時随感』月報 8 号、白鳳社、1980 年 9 月
藤本韶三「鏑木清方先生Ⅰ～Ⅲ」(思い出の人々　その 13～15)、『三彩』第 339-401 号、1980 年 12 月、1981 年 1 月、2 月
三宅正太郎「鏑木清方の「高野聖」」『カラーグラフィック・学研版　明治の古典　高野聖　歌行燈』月報3、1981 年 10 月
塩川京子「春の女　美人画に描かれた春」、『太陽美人画シリーズⅠ　春の女』(太陽シリーズ)第 29 号、平凡社、1982 年 2 月
大原富枝「懐かしい昔の下町　私と鏑木清方」、『太陽美人画シリーズⅠ　春の女』(太陽シリーズ)第 29 号、平凡社、1982 年 2 月
岡畏三郎「鏑木清方・人と作品」、『太陽美人画シリーズⅠ　春の女』(太陽シリーズ)第 29 号、平凡社、1982 年 2 月
島田康寛「鏑木清方」、『美術グラフ』第 5 巻第 3 号、1984 年 3 月
芥川喜好「慶喜恭順　透明になっていく憂い」、『読売新聞』(日曜版・2 月 9 日)、1986 年 2 月
海野弘「鏑木清方」(東京風景史の人々　2 回)、『東京人』、1986 年 4 月
槌田満文「コンビの本(9)　泉鏡花と鏑木清方　小村雪岱」、『日本古書通信』通巻 722 号、日本古書通信社、1989 年 9 月
藤本韶三「鏑木清方先生追憶」(巻頭特集　鏑木清方)、『三彩』第 508 号、1990 年 1 月
細野正信「清方、人と芸術」(巻頭特集　鏑木清方)、『三彩』第 508 号、1990 年 1 月
大塚雄三「鏑木清方展によせて」(巻頭特集　鏑木清方)、『三彩』第 508 号、1990 年 1 月
中島理寿「鏑木清方年譜・清方理解のために」(巻頭特集　鏑木清方)、『三彩』第 508 号、1990 年 1 月
山田肇・鈴木進(対談)「美を語る　19　鏑木清方　開明思想による“清方肖像画”への栄達」、『アート・トップ』第 115 号、1990 年 3 月
野上飛雲「〈清方の松〉―鏑木清方」(連載　海辺の文学　52)、『かまくら春秋』第 244 号(8 月号)、1990 年 7 月
福富太郎「ART NEWS　鏑木清方　絵を読む愉しみ」、『芸術新潮』第 43 巻第 3 号、1992 年 3 月
福富太郎「福富太郎のアート・キャバレー2　号店(第一回)引き寄せて愉しむ―鏑木清方と小村雪岱二つの『註文帳』」、『芸術新潮』第 48 巻第 6 号、1997 年 6 月
岡田啓蔵「清方が見た牛込」、『ここは牛込、神楽坂』第 15 号、1999 年
坂崎重盛・佐藤三千彦・鶴賀伊勢太夫・たちかべまさこ「私と清方「鏑木清方展」に寄せて」、『ここは牛込、神楽坂』第 15 号、1999 年
夏目正衛「鏑木先生に女性の裾さばきのことを教えていただきました。」、『ここは牛込、神楽坂』第 15 号、1999 年
花柳比奈代「『築地明石町』と『酔月情話』」、『ここは牛込、神楽坂』第 15 号、1999 年
江木基彦・江木重男「祖母ませ子になぞらえて、鏑木清方先生は紫陽花を描いてくれました。」、『ここは牛込、神楽坂』第 15 号、1999 年
坂崎重盛「清方の随筆集を手にする悦び」、『ここは牛込、神楽坂』第 15 号、1999 年
「特集 鏑木清方が描き、語る 私の東京ものがたり」、『芸術新潮』第 50 巻第 4 号、1999 年 4 月
池内紀「鏡花と清方」、『ユリイカ』第 438 号、青土社、2000 年 10 月
高井有一「夢か現か(26)鎌倉に清方住めり」、『ちくま』第 414 号、2005 年 9 月
倉田公裕「画文人・鏑木清方 讃」、『別冊太陽　日本のこころ』第 152 号、2008 年 4 月
宮崎徹「こしかたの道」(「生粋の東京っ子　明治 11～23 年」／「挿絵画家からの出発　明治 24～33 年」／「烏合会結成　明治 34～39 年」／「画壇の花形作家へ　明治 40 年～大正 7 年」／「帝展での苦悩と関東大震災　大正 8～14 年」／「清方の画室―本郷龍岡町から牛込矢来町へ　大正 15 年～昭和 20 年」／「鎌倉に住まう　昭和 21～47 年」)、『別冊太陽　日本のこころ』第 152 号、2008 年 4 月
宮崎徹「清方画業の変遷」(「師・水野年方と清方初期の習作」／「新時代の風俗画を描く」／「文展時代の新境地」／「『清方芸術』への到達」／「『卓上芸術』の世界」／「心のふるさとへの思慕」)、『別冊太陽　日本のこころ』第 152 号、2008 年 4 月
山下裕二「江戸憧憬の美人画」、『別冊太陽　日本のこころ』第152号、2008年4月
塩川京子「芝居好きの絵心」、『別冊太陽　日本のこころ』第152号、2008年4月
家田奈穂「清方写生帖」、『別冊太陽　日本のこころ』第152号、2008年4月

吉田昌志「挿絵名画館」、『別冊太陽　日本のこころ』第 152 号、2008 年 4 月
坂崎重盛「清方随筆余滴」、『別冊太陽　日本のこころ』第 152 号、2008 年 4 月
青木玉「祖父の本の幻の口絵」、『別冊太陽　日本のこころ』第 152 号、2008 年 4 月
福富太郎「清方先生のお宅に通った日々」、『別冊太陽　日本のこころ』第 152 号、2008 年 4 月（『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月再録）
堀越友規子「お預かりした絵のこと」、『別冊太陽　日本のこころ』第 152 号、2008 年 4 月
宮崎徹「三遊亭圓朝との旅」／「樋口一葉への追慕」／「泉鏡花との交友」／「戦中の画業と疎開生活」／「鎌倉の画室について」、『別冊太陽　日本のこころ』第 152 号、2008 年 4 月
鎌倉市鏑木清方記念美術館「鏑木清方略年譜」、『別冊太陽　日本のこころ』第 152 号、2008 年 4 月
「鏑木清方」、『別冊太陽　日本のこころ』第 154 号、2008 年 8 月
「特集　鏑木清方」、阿部出版『版画芸術　見て・買って・作って・アートを楽しむ』第 148 号、2010 年 6 月
「泉鏡花『注文帳画譜』木版画になった名作挿絵」、『版画芸術』第 39 巻第 1 号（通号 148）、2010 年
「鏑木清方―口絵美人画の世界」、『版画芸術』第 39 巻第 1 号（通号 148）、2010 年
「『新小説』石版多色刷りの口絵美人画」、『版画芸術』第 39 巻第 1 号（通号 148）、2010 年
「『文芸倶楽部』木版多色摺りの口絵美人画」、『版画芸術』第 39 巻第 1 号（通号 148）、2010 年
「名作文学の口絵美人画―菊池幽芳『乳姉妹』/『百合子』/『秘中の秘』渡辺霞亭『渦巻』尾崎紅葉『金色夜叉』泉鏡花『田毎かがみ』/『無憂樹』/『神鑿』/『婦系図』/『薄紅梅』/『三枚続』/『風流線』」、『版画芸術』第 39 巻第 1 号（通号 148）、2010 年
宮崎徹「新しもの好きの清方」、『版画芸術』第 39 巻第 1 号（通号 148）、2010 年
三戸信惠「江戸/東京を愛した画家、鏑木清方」、『東京人』第 25 巻第 1 号（通号 276）、2010 年 1 月
「めぐるひとびと　水上瀧太郎/久保田万太郎　里見弴/鏑木清方　邦枝完二/木村荘八」、『芸術新潮』第 61 巻第 2 号（通号 722）、2010 年 2 月
「鏑木清方」、『別冊太陽　日本のこころ』第 167 号、2010 年 3 月
今西彩子「鏑木清方作《幽霊》明治 39 年（1906）三遊亭圓朝七回忌追福出品作　作品解説」『怪談皿屋敷のナゾ　姫路名物お菊さん』、姫路文学館、2018 年 4 月
閑万希子『墨の余滴』、三月書房、2019 年 1 月
根本章雄「孫から見た忘られぬ思い出」、『鏑木清方と金鈴社　吉川霊華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに』（鏑木清方記念美術館叢書 21）、2019 年 2 月
根本章雄「孫が語る　鏑木清方　その人、その姿」（インタビュー）、『美人画研究会誌　紫陽花』創刊号、2019 年 6 月
今西彩子「鏑木清方の御殿場疎開生活の足跡を辿る」、『美人画研究会誌紫陽花』創刊号、2019 年 6 月
根本章雄「孫が語る　鏑木清方　その人、その姿　第 2 回」（インタビュー）、『美人画研究会誌　紫陽花』第 2 号、2019 年 12 月
鬼頭美奈子「鏑木清方《露の干ぬ間》《町駕籠》修理報告」、『美人画研究会誌紫陽花』第 2 号、2019 年 12 月
角田拓朗「《築地明石町》観覧記」、『美人画研究会誌紫陽花』第 2 号、2019 年 12 月
今西彩子「鏑木清方の御殿場疎開生活の足跡を辿る　その 2」、『美人画研究会誌紫陽花』第 2 号、2019 年 12 月
今西彩子「鏑木清方の美人画　ー築地明石町を中心にー」、『芸術新潮』71 巻 3 月号、2020 年 2 月
根本章雄「孫が語る　鏑木清方　その人、その姿　第 3 回」（インタビュー）、『美人画研究会誌　紫陽花』第 3 号、2020 年 6 月
今西彩子「明治～昭和に生きた美人画家　西田青坡展報告　その 1」、『美人画研究会誌紫陽花』第 3 号、2020 年 6 月
齊藤陽介「鏑木清方《十一月の雨》の下絵試行錯誤の跡をみる」、『上原美術館通信』11 号、2020 年 9 月
根本章雄「孫が語る　鏑木清方　その人、その姿　第 4 回」（インタビュー）、『美人画研究会誌　紫陽花』第 4 号、2021 年 1 月
篠原聰「根本章雄氏と『紫陽花』インタビューを終えて」、『美人画研究会誌紫陽花』第 4 号、2021 年 1 月
今西彩子「明治～昭和に生きた美人画家　西田青坡展報告　その 2」、『美人画研究会誌紫陽花』第 4 号、2021 年 1 月
根本章雄「孫から見た忘られぬ思い出」、『鏑木清方と昭和の美人画 ―青衿会及び『婦人画報』関係作品所収―』（鏑木清方記念美術館叢書 22）鎌倉市鏑木清方記念美術館、2021 年 2 月
篠原聰「鏑木清方筆《色の港》作品解説」、『美人画研究会誌紫陽花』第 5 号、2021 年 8 月
今西彩子「岡鬼太郎と鏑木清方の仙台松島紀行」、『美人画研究会誌紫陽花』第 5 号、2021 年 8 月
土屋絵美「企画展　鏑木清方《築地川》の世界」、『上原美術館通信』15 号、2021 年 10 月
根本章雄「鏑木清方歿後 50 年を迎えるにあたって」、『美人画研究会誌紫陽花』第 6 号、2021 年 12 月
今西彩子「企画展「幽玄の美に誘われて」展報告～当館の新資料紹介と共に～　報告」、『泉鏡花研究会会報』第 37 号、2021 年 12 月
根本章雄「孫からみた清方」、『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022 年 3 月
今西彩子「作品解説」、『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022 年 3 月
鶴見香織「作品解説」、『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022 年 3 月
小倉実子「作品解説」、『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022 年 3 月
鬼頭美奈子「作品解説」、『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022 年 3 月
角田拓朗「作品解説」、『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022 年 3 月
荒井経「《築地明石町》に秘められた技」、『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022 年 3 月
渡辺保「鏑木清方　二つの世界」、『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022 年 3 月
長崎巌「鏑木清方作品にみる服飾描写」、『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022 年 3 月
篠原聰「鏑木清方とその弟子たち」、「作品解説」、『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022 年 3 月
根本章雄『清方と私』（私家版）、2022 年 3 月
根本章雄「歿後 50 年を迎えた清方との想い出」、『没後 50 年鏑木清方展』図録、2022 年 3 月
小倉実子「清方さんと京都」、「作品解説」、『没後 50 年鏑木清方展』図録、2022 年 3 月
山﨑菜未「清方の描く装い」、『没後 50 年鏑木清方展』図録、2022 年 3 月
小玉祥子「清方と娘道成寺」、『没後 50 年鏑木清方展』図録、2022 年 3 月
鶴見香織「小さくえがく」、「生活をえがく」、「作品解説」、『没後 50 年鏑木清方展』図録、2022 年 3 月
真室佳武「今も生きる清方の世界」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
根本章雄「清方の後半生を共に過ごした 30 年」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
鶴見香織「清方という画家、《築地明石町》から」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
鬼頭美奈子「五感で楽しむ清方美人」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし

（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
西山純子「浮世絵と清方」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
今西彩子「清方の理想郷 ～水辺に広がる生活と風景～」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
穴倉玉日「鏡花と清方」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
東雅夫「怪談と清方」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
加門七海「着物と清方」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
岩下尚史「近代演藝との縁の結ばり ―鏑木清方考」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
堀越友規子「お雛様の絵のこと」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
日野原健司「師・水野年方と清方」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
内藤正人「愛惜と、ためらい ―清方に宿る江戸浮世絵の遺伝子」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
篠原聰「鏑木清方の社会画」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
谷口榮「新江東と清方 ―隅田川と荒川放水路」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
出口智之「幻影のなかの樋口一葉」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
山下裕二「渡辺省亭 ―清方が心寄せた先達」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
角田拓朗「清方美人の工夫 ―《京鹿子娘道成寺》を踊ってみる」、『鏑木清方: 市井に生きたまなざし（別冊太陽 日本のこころ 298）』平凡社、2022 年 3 月
篠原聰「文芸的な、あまりに文芸的な美人画」、『芸術新潮』第 73 巻第 4 号、2022 年 4 月
坂本葵「明治・大正のカラーグラビア 口絵のなかのヒロインたち」、『芸術新潮』第 73 巻第 4 号、2022 年 4 月
角田拓朗「清方好みの美人」、『芸術新潮』第 73 巻第 4 号、2022 年 4 月
前橋重二「危うし、卓上芸術 再説『註文帳画譜』の謎」、『芸術新潮』第 73 巻第 4 号、2022 年 4 月
根本章雄・根本信子「孫が語る「新・こしかたの記」、『芸術新潮』第 73 巻第 4 号、2022 年 4 月
加門七海「清方の着物、着たくなる着物」、『芸術新潮』第 73 巻第 4 号、2022 年 4 月
今西彩子「羽ばたく弟子たち 師・清方から受け継いだもの」、『芸術新潮』第 73 巻第 4 号、2022 年 4 月
中川三千代・篠原聰・今西彩子「移ろいの美―鏑木清方筆「美人画三部作」」、『月刊視覚障害』410 号、2022 年 7 月
土屋絵美「まなざしにあらわれる乙女心 鏑木清方《みぞれ》」、『上原美術館通信』19 号、2022 年 9 月
大久保尚子「鏑木清方、装いを描く目」、『視る：京都国立近代美術館ニュース』第 520 号、2022 年 10 月
村田隆志「鏑木清方の底力ー昭和・平成・令和を越えてー」、『視る：京都国立近代美術館ニュース』第 521 号、2022 年
今西彩子「没後 50 年 鏑木清方展に寄せて」、『美人画研究会誌紫陽花』第 7 号、2022 年 12 月
吉井大門「とけあう美人象「鏑木清方展」」、『現代の眼』637 号、2023 年 3 月
篠原聰「鏑木清方、生活を描く」、『現代の眼』637 号、2023 年 3 月
土屋絵美「上原コレクション名品選 雨をたのしむ」「鏑木清方が描く蛇の目傘」、『上原美術館通信』21 号、2023 年 4 月
今西彩子「鏡花をめぐる人々 鏑木清方」、『泉鏡花生誕 150 年記念 鏡花の家』、平凡社、2023 年 10 月
今西彩子「特別展 清方×文学 ―紅葉への憧憬、鏡花との友情 報告」、『泉鏡花研究会会報』第 39 号 2023 年 12 月
今西彩子「作家解説・レファレンス 鏑木清方」ウェブサイト『日本のアーティスト事典』(https://artplatform.go.jp/ja/artists/A1255)、国立アートリサーチセンター、2024 年 3 月

（二）研究論文

木村荘八「鏑木清方雑感」、『近代挿絵考』、双雅房、1943 年 12 月
河原義和「鏑木清方論」、『現代の日本画家』、美術主義評論社、1951 年 7 月
鈴木進「鏑木清方 浮世絵の伝統を現代に生かした」、『日本近代絵画全集 第 21 巻 鏑木清方 平福百穂』、講談社、1962 年 10 月
柴木好子「鏑木清方 内面の美を求めて」、『日本の名画 10 鏑木清方』、中央公論社、1975 年 12 月
小林忠「評伝・作品解説」、『日本の名画 10 鏑木清方』、中央公論社、1975 年 12 月
福永重樹「美人画家としての鏑木清方」、『現代日本美人画全集 第 2 巻 鏑木清方』、集英社、1977 年 10 月
竹田道太郎「生涯を貫ぬく透徹した批判精神―清方芸術のバック・ボーン」、『愛蔵版日本の名画9 鏑木清方・上村松園・竹久夢二』、講談社、1977 年 8 月
鈴木進「鏑木清方の生涯と芸術」、『現代日本の美術 第 3 巻 鏑木清方/山口蓬春』、集英社、1976 年 5 月
小林忠「鏑木清方とその素描」、『日本画素描大観 三 鏑木清方』講談社、1983 年 2 月
細野正信「清方の清方―清方の言葉で綴る清方論―」、『鏑木清方展』図録、尾道市立美術館・中国新聞社・高知県立郷土文化会館、1986 年 3 月
加太こうじ「日本画人伝-8-鏑木清方・小出楢重 」、「思想の科学」編集委員会編『思想の科学 第七次』第 99 号、1988 年 2 月
小林忠「浮世絵末流『鏑木清方』」、山根有三先生古稀記念会編『日本絵画史の研究』、1989 年
小林忠「鏑木清方筆『抱一上人』について」、永青文庫編『季刊永青文庫』第 30 号、1989 年
「美人画の精髄」(ソフィア美術館)、『SOPHIA』、1989 年 8 月
鈴木進「鏑木清方展」、『鏑木清方展』図録、横浜美術館、1990 年 1 月
山田肇「清方の『風俗画論』」、『鏑木清方展』図録、横浜美術館、1990 年 1 月
大塚雄三「鏑木清方―献納作「蟹と童」をめぐって」、『鏑木清方展』図録、横浜美術館、1990 年 1 月
小林忠「浮世絵末流『鏑木清方』」、山根有三先生古稀記念会編『日本絵画史の研究』、1989 年
金沢規雄「岡鬼太郎と鏑木清方『東北新聞』時代」、東京大学国語国文学会編『国語と国文学』第 67 号、1990 年 12 月
倉田公裕「清方抄論―垣間見た清方の世界―」、『没後 20 年記念 鏑木清方展』図録、朝日新聞社、1992 年 1 月
大塚雄三「鏑木清方―『一葉女史の墓』序章―」、
倉田公裕「鏑木清方抄論―主情派の精神(こころ)―」、『鏑木清方展』図録、名都美術館・中日新聞社、1993 年 2 月
大塚雄三「鏑木清方―『深沙大王』とその周辺―」、『鏑木清方展』図録、名都美術館・中日新聞社、1993 年 2 月
平野重光「清方の芸術」、『鏑木清方展』図録、京都新聞社、1993 年 4 月
玉蟲玲子「流水のモティーフをとおしてみる鏑木清方の女性像」、『鏑木清方展』図録、京都新聞社、1993 年 4 月

福冨幸「江戸と東京のはざまに」、『鏑木清方展』図録、京都新聞社、1993 年 4 月
岩田由美子「鏑木清方の肖像画」、『鏑木清方展』図録、京都新聞社、1993 年 4 月
茂木博「鏑木清方と西洋美術―試論的仮説―」(特集 2 明治文化Ⅰ)、「造形学研究」編集委員会編『造形学研究 studies in art and design』第 12 号、東京造形大学専門第一部会、1993 年 7 月
平山郁夫(構成 米倉守)「画家の目／近代日本画の巨匠たち」、『巨匠の日本画[6]鏑木清方』新集社、1994 年 4 月
大塚雄三「鏑木清方―その画業の軌跡」、『巨匠の日本画[6]鏑木清方』、新集社、1994 年 4 月
横川公子「環境としての装い 主に鏑木清方をめぐって」、服飾美学会『服飾美学』23 号、1994 年
猪巻明「近代日本画家の作品に見られるラファエル前派の影響一 鏑木清方の作品を中心として」、秋田大学教育学部研修委員会編『秋田大学教育学部研究紀要』第 47 号、1995 年 1 月
中谷伸生「鏑木清方の評価をめぐって―大正期の実験模索から昭和へ」、関西大学文学会 編『関西大学文学論集』45 号、1996 年 3 月
横山泰子「鏑木清方と東京の芸能」、東京都江戸博物館都市歴史研究室編『東京都江戸東京博物館研究報告』第 2 号、1997 年 3 月
内藤正人「清方と春章―江戸浮世絵と近代美人画との交渉―」、出光美術館『出光美術館研究紀要』3 号、1997 年 9 月
倉田公裕「鏑木清方―その人と芸術―」、『鏑木清方画集』、ビジョン企画出版、1998 年 8 月
柏木智雄「《一葉女史の墓》試論」、『鏑木清方画集』、ビジョン企画出版、1998 年 8 月
倉田公裕「肖像画考―清方ゑがく肖像画への招待―」『特別展 清方ゑがく肖像画』図録、鎌倉市鏑木清方記念美術館、1998 年 10 月
神林淳子「鏑木清方作品の再評価:『築地明石町』をめぐって」、学習院大学『学習院大学人文科学論集』7 号、1998 年
市川政憲「鏑木清方:樹のごとく」、『鏑木清方展』図録、東京国立近代美術館、1999 年 3 月
尾崎正明「遥かなまなざし」、『鏑木清方展』図録、東京国立近代美術館、1999 年 3 月
紅野敏郎「逍遥・文学誌(95)「『随筆趣味』―鏑木清方・土師清二・丹羽文雄・宮川曼魚ら―」、学灯社編『国文学 : 解釈と教材の研究』第 44 巻第 6 号(通号 641)、1999 年 5 月
紅野敏郎「逍遥・文学誌(97)『読書感興』―岩本和三郎・丹羽文雄・真船豊・久保田万太郎・鏑木清方ら―」、学灯社編『国文学:解釈と教材の研究』第 44 巻第 8 号(通号 643)、1999 年 7 月
須貝正義「鏑木先生と雑誌『苦楽』」、『特別展 清方の描いた女性たち―雑誌『苦楽』の表紙にみる』図録、鎌倉市鏑木清方記念美術館、1999 年 9 月
竹山郁子「雑誌『苦楽』について」、『特別展 清方の描いた女性たち―雑誌『苦楽』の表紙にみる』図録、鎌倉市鏑木清方記念美術館、1999 年 9 月
大塚雄三「師の清方と深水・紫明」、『清方と深水・紫明展』図録、神戸新聞社、1999 年
根本由香「明治中期の生活文化と名人たち―鏑木清方『明治風俗十二ヶ月』の「盆灯籠」をよむ―」、服飾美学会『服飾美学』31 号、2000 年 9 月
小林忠「鏑木清方 近代美人画の第一人者」『特別展 四季の女性』図録、鎌倉市鏑木清方記念美術館、2000 年 9 月
鈴木進「雪ノ下 鏑木邸」『―所蔵作品による―開館記念 鏑木清方展』図録、鎌倉市鏑木清方記念美術館、2002 年 4 月(加筆再録)
島田康寛「鏑木清方の画業」、『上村松園 鏑木清方展』図録、北日本新聞社・北日本放送・富山県水墨美術館、2002 年 10 月
杲由美「清方ゑがく『薄紅梅』―〈泉さん〉の物語―」、『文学』第 5 巻第 4 号、2004 年 7 月
城戸崎雅崇「粋な美人とはどんな顔？」、『日本顔学会誌』第 4 巻第 1 号、2004 年 9 月
紅野敏郎「逍遥・文学誌(161)『新女苑』(昭和 16 年)―井伏・稲子・草平・林原耕三・鏑木清方・神崎清・里見弴ら―」、学灯社編『国文学:解釈と教材の研究』第 49 巻第 12 号(通号 717)、2004 年 11 月
宮﨑徹「東京人から鎌倉人へ―清方を偲んで―」、『鎌倉』第 99 号、2004 年 12 月、(『宮崎徹氏追悼文集』宮崎徹氏追悼文集刊行会、2017 年 8 月再録)
宮﨑徹「清方と挿絵」、『鏑木清方 挿絵図録―東北新聞編・講談雑誌編―』(鏑木清方記念美術館叢書 6)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2005 年 3 月
佐藤節子・増井真理子「鏑木清方の〈妖魚〉について」東京家政学院大学／東京家政学院短期大学編『東京家政学院大学紀要』第 45 号、2005 年
須田 勝仁「近現代絵画作品の真贋と鑑賞―個人所有作品から」、大谷女子大学短期大学部編『大谷女子大学短期大学部紀要 』第 49 号、2005 年
宮﨑徹「鏑木清方 ―泉鏡花との出会い―」、『鏑木清方 挿絵図録―泉鏡花編―』(鏑木清方記念美術館叢書 7)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2006 年 3 月、(『宮崎徹氏追悼文集』宮崎徹氏追悼文集刊行会、2017 年 8 月再録)
角田拓朗「鏑木清方の造形と文学」、明治美術学会編『近代画説』15 号、2006 年
宮﨑徹「『苦楽』と鏑木清方」、鎌倉文化研究会『鎌倉』第 102 号、2006 年 12 月、(『宮崎徹氏追悼文集』宮崎徹氏追悼文集刊行会、2017 年 8 月再録)
岩切信一郎「鏑木清方と春陽堂の『新小説』」、『鏑木清方 展覧会・挿絵図録―烏合会と『新小説』の時代―』(鏑木清方記念美術館叢書 8)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2006 年 12 月
宮﨑徹「鏑木清方 ―挿絵制作と烏合会活動―」、『鏑木清方 展覧会・挿絵図録―烏合会と『新小説』の時代―』(鏑木清方記念美術館叢書 8)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2006 年 12 月
篠原聰「『やまと新聞』と鏑木清方―明治期新聞小説挿絵の一断面―」、成城大学『成城美学美術史』第 13 号、2007 年 3 月
山﨑勝志「鏑木清方における美人画とモデルの綾―〈一葉女史の墓〉研究を元に」、京都教育大学学術情報リポジトリ http://hdl.handle.net/123456789/2132、2007 年 3 月
古田あき子「官展の流れと清方」、『鏑木清方 展覧会・挿絵図録―官展(文展・帝展・日展)への出品作―』(鏑木清方記念美術館叢書 9)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2007 年 10 月
宮﨑徹「鏑木清方と官展」、『鏑木清方 展覧会・挿絵図録―官展(文展・帝展・日展)への出品作―』(鏑木清方記念美術館叢書 9)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2007 年 10 月
角田拓朗「美人画から風俗画へ―鏑木清方の官展再生論―」、明治美術学会編『近代画説』16 号、2007 年
島田康寛「鏑木清方と伊東深水、寺島紫明―三人の師弟の芸術」、『美人画の三巨匠 清方・深水・紫明展』図録、2007 年 9 月
宮﨑徹「鏑木清方の好んだ画室」、『開館 10 周年記念誌 鎌倉市鏑木清方記念美術館活動の記録』、2008 年 3 月
吉田昌志「人魚の形象―泉鏡花と鏑木清方―」、「日本近代文学会」編集委員会編『日本近代文学』第 78 号、2008 年 5 月
倉田公裕「美の随想『絵を見る場』を巡って―鏑木清方の作品区分―」、紫明の会編『紫明』第 23 号、2008 年 9 月
倉田公裕「清方 余録」、『鏑木清方の系譜―師水野年方から清方の弟子たちへ―』(鏑木清方記念美術館叢書 10)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2008 年 12 月
宮﨑徹「鏑木清方の系譜 ―画学生と郷土会―」、『鏑木清方の系譜―師水野年方から清方の弟子たちへ―』(鏑木清方記念美術館叢書 10)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2008 年 12 月
三戸信恵「清方のノスタルジア 思い描いた時代 懐かしの光景 ―続きの地

平』『清方ノスタルジア 名品でたどる 鏑木清方の美の世界』2009 年 11 月
宮﨑徹「清方の絵に託された情意《春雪》に至る過程と後世代へのことづて」、『清方ノスタルジア 名品でたどる 鏑木清方の美の世界』2009 年 11 月
内藤正人「清方と春章 二人の美人画家をつなぐもの」、『清方ノスタルジア 名品でたどる 鏑木清方の美の世界』2009 年 11 月
池田芙美「清方画にみる江戸絵画の影響―西鶴、京伝、歌麿」、『清方ノスタルジア 名品でたどる 鏑木清方の美の世界』2009 年 11 月
倉田公裕『清方の話術』―その三要因―」、『鏑木清方と七絃会』(鏑木清方記念美術館叢書 11)、2009 年 12 月
宮﨑徹「鏑木清方と七絃会―激動時代の画壇で活躍した九人の日本画家―」、『鏑木清方と七絃会』(鏑木清方記念美術館叢書 11)、2009 年 12 月
矢頭英理子「鏑木清方筆《築地明石町》に関する考察」、『京都美学美術史学』第 8 号、2009 年
中谷伸生「鏑木清方の評価をめぐって―大正期の実験模索から昭和へ」、『大坂画壇はなぜ忘れられたのか : 岡倉天心から東アジア美術史の構想へ』、醍醐書房、2010 年 3 月
松山薫「鏑木清方と芝居絵 雑誌『歌舞伎』を中心に」、『鏑木清方の芝居絵』(鏑木清方記念美術館叢書 12)、2010 年 12 月
宮﨑徹「清方の芝居絵」、『鏑木清方の芝居絵』(鏑木清方記念美術館叢書 12)、2010 年 12 月
土井雅也「鏑木清方の画業―《妖魚》の解釈を通して」、藝叢編集委員会編『筑波大学芸術学研究誌 藝叢』第 26 号、2010 年
長崎巌「鏑木清方の美人画に見られる服飾表現」、『鏑木清方の美人画(鏑木清方記念美術館叢書 13)、2011 年 12 月
宮﨑徹「女性雑誌をとおして見る 鏑木清方の美人画」、『鏑木清方の美人画』(鏑木清方記念美術館叢書 13)、2011 年 12 月
篠原聰「鏑木清方と《曲亭馬琴》:第一回文部省美術展覧会の落選画に関する一考察」、明治美術学会編『近代画説』20 号、2011 年
宮﨑徹『情』を求めた画家・鏑木清方 ―その上村松園評をとおして―」、『市制 80 周年記念展 上村松園と鏑木清方』、平塚市美術館 2012 年 7 月
篠原聰「鏑木清方の「社會畫」をめぐって ―美人画家えがく麗しき文明批評」、『美術運動史』 130 号、美術運動史研究会、2012 年 9 月
小澤弘「鏑木清方の時代 ―江戸への憧憬と明治・大正の風俗と美術―」、『鏑木清方の随筆『こしかたの記』を読む その一』(鏑木清方記念美術館叢書 14)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2012 年 12 月
宮﨑徹「追懐から伝承へ ―鏑木清方が伝えた風流の一脈― 随筆『こしかたの記』から読む」、『鏑木清方の随筆『こしかたの記』を読む その一』(鏑木清方記念美術館叢書 14)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2012 年 12 月
宮﨑徹「鏑木清方の文化勲章への軌跡 ―新たに寄贈された作品や資料から見る―」、『開館 15 周年記念誌 鎌倉市鏑木清方記念美術館活動の記録』、2013 年 3 月
宮﨑徹「清方芸術にみるもののあはれ」、『「もののあはれ」と日本の美』、サントリー美術館、2013 年 4 月
田中励儀「鏑木清方と泉鏡花」、『鏑木清方と硯友社』(鏑木清方記念美術館叢書 15)、2013 年 12 月
倉田公裕「清方に於ける「いきの創造」 ―「築地明石町」を巡って」、『鏑木清方と硯友社』(鏑木清方記念美術館叢書 15)、2013 年 12 月
宮﨑徹「鏑木清方の卓上芸術」、『鏑木清方と硯友社』(鏑木清方記念美術館叢書 15)、2013 年 12 月
宮﨑徹「鏑木清方・挿絵画家から日本画家へ」、『追憶の美人 日本画家 鏑木清方』、佐野美術館、2014 年 4 月
宮﨑徹「鏑木清方の江戸趣味と明治趣味」、『鏑木清方と江戸の風情』、千葉市美術館、2014 年 9 月
鶴見香織「鏑木清方の初期作品と小坂象堂、无声会」、『鏑木清方の随筆『こしかたの記』を読む その二』(鏑木清方記念美術館叢書 17)、2015 年 1 月
宮﨑徹「鏑木清方 圓朝との八日間の旅」、『鏑木清方の随筆『こしかたの記』を読む その二』(鏑木清方記念美術館叢書 17)、2015 年 1 月
今橋理子「白鸚鵡と美少女(上) 鏑木清方《鸚鵡》と《嫁ぐ人》」『学習院女子大学紀要』、2015 年
上薗四郎「「時代を見る」に機敏であった鏑木清方、その緩やかな戦略 ―金鈴社から珊々会へ―」、『鏑木清方と珊々会』(鏑木清方記念美術館叢書 18)、2016 年 2 月
今西彩子「鏑木清方、東海・畿内への旅と制作」、『鏑木清方と珊々会』(鏑木清方記念美術館叢書 18)、2016 年 2 月
篠原聰「鏑木清方と郷土会の画家たち-浮世絵と社会画のはざまで-」、『美人画の諸相-浮世絵・団体・メディア-』、東海大学、2016 年 4 月
角田拓朗「明治後半の画壇状況における烏合会の位置付け-美人画、文学、洋画-」、『美人画の諸相-浮世絵・団体・メディア-』、東海大学、2016 年 4 月
佐藤美子「浮世絵研究雑誌における鏑木清方」、『美人画の諸相-浮世絵・団体・メディア-』、東海大学、2016 年 4 月
今西彩子「清方、奈良・京都における制作-新境地の風景画と美人画」、『美人画の諸相-浮世絵・団体・メディア-』、東海大学、2016 年 4 月
篠原聰「浮世絵末流の近代(その 1)」、『美術運動史』第 155 号、美術運動史研究会、2016 年 6 月
篠原聰「浮世絵末流の近代(その 2)」、『美術運動史』第 156 号、美術運動史研究会、2016 年 8 月
篠原聰「浮世絵末流の近代(その 3)」、『美術運動史』第 157 号、美術運動史研究会、2016 年 10 月
篠原聰「浮世絵末流の近代(その 4)」、『美術運動史』第 158 号、美術運動史研究会、2016 年 12 月
関礼子「『にごりえ』(画譜)の世界:一葉小説の絵画的受容」、『日本近代文学館年誌』、2016 年
横山秀樹「鏑木清方『續こしかたの記』にみる制作の動向」、『鏑木清方の随筆『續こしかたの記』を読むその一』(鏑木清方記念美術館叢書 19)、2017 年 2 月
今西彩子「鏑木清方の風景画趣向 ―大正期の画業における新南画と歌川広重の影響を巡って」、『鏑木清方の随筆『續こしかたの記』を読むその一』(鏑木清方記念美術館叢書 19)、2017 年 2 月
篠原聰「鏑木清方筆《刺青の女》をめぐって:烏合会と郷土会を繋ぐもの」、『成城美学美術史』、2017 年 3 月
篠原聰「浮世絵末流の近代(その 5)―「新浮世絵」断章―絵画の触覚性をめぐる冒険」、『美術運動史』、第 160 号、2017 年 4 月
内山淳子「和装から洋装へ ―鏑木清方のまなざし」、『ファッションとアート 麗しき東西交流』展図録、横浜美術館、2017 年 4 月
谷口榮「没後四十五年 都市観察者 明治から昭和の東京を生きて 鏑木清方 「下町」への視線」、『東京人』390 号、2017 年 11 月
谷口榮「没後四十五年 都市観察者 明治から昭和の東京を生きて 鏑木清方 失われた故郷」、『東京人』391 号、2017 年 12 月
谷口榮「没後四十五年 都市観察者 明治から昭和の東京を生きて 鏑木清方 「新江東」にふるさとを求めて」、『東京人』392 号、2018 年 1 月
篠原聰「触覚(haptic sense)鏑木清方の文学体験 ―新浮世絵断章 その 2」、『美術運動史』第 165 号、美術運動史研究会、2018 年 2 月
河田明久「清方の良心 ―昭和戦前期の日本画」、『鏑木清方の随筆『續こしかたの記』を読む その二』(鏑木清方記念美術館叢書 20)、2018 年 2 月
今西彩子「戦時下における清方の画業 ―美人画の位相を巡る一試論―」、『鏑木清方の随筆『續こしかたの記』を読む その二』(鏑木清方記念美術館叢書 20)、2018 年 2 月
勝山滋「近代日本画壇における結城素明の再評価と金鈴社について」、『鏑木清方と金鈴社 吉川霊華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに』(鏑木清方記念美術館叢書 21)、2019 年 2 月

今西彩子「金鈴社の成立と作画の特徴 ―鏑木清方を中心に―」、『鏑木清方と金鈴社 吉川霊華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに』(鏑木清方記念美術館叢書21)、2019年2月
荒井真理亜「菊池幽芳「百合子」の展開 ―小説・挿絵・芝居―」、『人文学研究』第4号、相愛大学人文学部人文学研究会、2019年3月
篠原聰「浮世絵末流の水脈」、『美人画研究会誌 紫陽花』創刊号、美人画研究会、2019年6月
篠原聰「美人画と浮世絵のはざまで 鏑木清方の「新浮世絵講義」をめぐって」、『美人画研究会誌 紫陽花』第3号、美人画研究会、2020年6月
鬼頭美奈子「美人画と食 ―清方の描く甘味―」、『美人画研究会誌 紫陽花』第3号、美人画研究会、2020年6月
今西彩子「伊東深水《対鏡》解説」、『國華』第1501号、2020年11月
篠原聰「日本近代における浮世絵受容に関する研究 ――系譜的研究を中心に――」、『鹿島美術研究』37号,鹿島美術財団,2020年11月
鬼頭美奈子「構図から探る美人画の変容 ―横画面に見る近代性―」『鏑木清方と昭和の美人画』(鏑木清方記念美術館叢書22)、2021年2月
今西彩子「昭和前期の清方と弟子たち ―清方の《築地明石町》から《妓女像》までと、弟子たちへ及ぼした影響について―」『鏑木清方と昭和の美人画』(鏑木清方記念美術館叢書22)、2021年2月
郝玉墨「近代日本画の美人画における胡粉を活かした賦彩表現 ―鏑木清方筆《妓女像》の想定復元模写を通して―」東京藝術大学大学院美術研究科 博士後期課程学位論文、2021年3月
段超「鏑木清方研究 ―日本画作品における線の表現を中心に―」京都芸術大学大学院芸術研究科 博士後期課程学位論文、2021年3月
今西彩子「柿内青葉のあゆみ ―師・鏑木清方との関わりに見る」『女子美術大学大学コレクション 柿内青葉展』、2021年3月
今西彩子「鏑木清方の画業と人生」『鏑木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
鶴見香織「鏑木清方《築地明石町》三部作をめぐる三章」、小学館、2022年3月
鶴見香織「鏑木清方 生活を描いた画家」、『没後50年鏑木清方展』図録、2022年3月
今西彩子「清方を巡る人々、出会いと制作」、『没後 50 年鏑木清方展』図録、2022年3月
岩切信一郎「『新声』初期(明治三十四年)挿絵考―金鈴社(百穂・素明・清方)の源流を求め―」『一寸』92号、2023年2月
遠藤純「少年少女雑誌における“挿絵” ～明治大正初期の雑誌と画の役割」『清方が描いた子どもの世界』(鏑木清方記念美術館叢書 23)、2023年3月
今西彩子「明治期の少女雑誌に描かれた＜少女＞像 ―『少女界』『少女世界』を中心に―」『清方が描いた子どもの世界』(鏑木清方記念美術館叢書23)、2023年3月
今西彩子「鏑木清方の芝居絵考察 ―劇界との関わりと舞台写生を中心に―」明治美術学会編『近代画説』32号、2023年12月
篠原聰「横顔の美人画 鏑木清方筆《朝涼》をめぐり」『美學美術史論集』23号(成城大学大学院文学研究科)、2024年3月
五十嵐小春「鏑木清方の多色摺木版口絵と美人画の展開 ―画業における『文芸倶楽部』口絵の位置付け―」『言語社会』第18号、2024年3月
五十嵐小春「『新小説』における口絵と表紙絵の掲載状況 ―日本画家と洋画家の変遷と鏑木清方作品に見える表象―」『言語社会』第 19 号、2025年3月
篠原聰「市井の暮らしと卓上芸術」『鏑木清方と卓上芸術』(鏑木清方記念美術館叢書24)、2025年3月
今西彩子「「卓上芸術」の試み ―意味と構図、提唱を巡って―」『鏑木清方と卓上芸術』(鏑木清方記念美術館叢書24)、2025年3月
今西彩子「鏑木清方と〈少女画〉 ―〈少女画〉の初期の表現・清方の口絵と本画の交差―」『紫陽花』8号 2025年3月
今西彩子「明治期の少女雑誌に描かれた〈少女〉像 ―『少女界』『少女世界』『少女の友』を中心に―」『児童文学研究』第57号 日本児童文学学会 2025年3月

(三)研究書等

塩川京子『市井の文人 鏑木清方』大日本絵画、1991年7月
八柳サエ『鏑木清方と金沢八景』(横浜美術館叢書6)有隣堂、2000年12月
『鏑木清方記念美術館 収蔵品図録―作品編―』(鏑木清方記念美術館叢書1)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2001年9月
『鏑木清方記念美術館 収蔵品図録―卓上芸術編(一)明治・大正期―』(鏑木清方記念美術館叢書2)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2002年7月
『鏑木清方記念美術館 収蔵品図録―卓上芸術編(二)昭和期―』(鏑木清方記念美術館叢書3)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2002年9月
福富太郎『描かれた女の謎 アート・キャバレー蒐集奇談』新潮社、2002年
『鏑木清方 挿絵図録―文藝倶楽部編(一)―』(鏑木清方記念美術館叢書4)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2003年9月
『鏑木清方 挿絵図録―文藝倶楽部編(二)―』(鏑木清方記念美術館叢書5)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2004年3月
『鏑木清方 挿絵図録―東北新聞編・講談雑誌編―』(鏑木清方記念美術館叢書6)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2005年3月
山田奈々子『木版口絵総覧 明治・大正期の文学作品を中心として』文生書院、2005年12月
『鏑木清方 挿絵図録―泉鏡花編―』(鏑木清方記念美術館叢書 7)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2006年3月
山田奈々子『口絵名作物語集』文生書院、2006年11月
『鏑木清方 展覧会・挿絵図録―烏合会と『新小説』の時代―』(鏑木清方記念美術館叢書8)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2006年12月
『鏑木清方 展覧会・挿絵図録―官展(文展・帝展・日展)への出品作―』(鏑木清方記念美術館叢書9)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2007年10月
山田奈々子『美人画口絵歳時記』文生書院、2008年3月
『鏑木清方の系譜―師水野年方から清方の弟子たちへ―』(鏑木清方記念美術館叢書10)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2008年12月
内田武夫・島田康寛監修『美人画の系譜 鏑木清方と東西の名作百選 福富太郎コレクション』青幻舎、2009年1月
『鏑木清方と七絃会 ―安田靫彦、小林古径、前田青邨、菊池契月、土田麦僊、平福百穂、速水御舟、西村五雲とともに―』(鏑木清方記念美術館叢書11)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2009年12月
『鏑木清方の芝居絵』(鏑木清方記念美術館叢書12)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2010年12月
『鏑木清方の美人画 ―樋口一葉著作関係及び『婦人世界』・『婦人公論』関係作品所収―』(鏑木清方記念美術館叢書 13)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2011年12月
内藤正人『勝川春章と天明期の浮世絵美人画』東京大学出版会、2012年4月
『鏑木清方の随筆『こしかたの記』を読む その一 ―『報知新聞』明治・大正初期関連作品所収―』(鏑木清方記念美術館叢書 14)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2012年12月
『鏑木清方と硯友社 ―尾崎紅葉・泉鏡花・山岸荷葉著作関連作品所収―』(鏑木清方記念美術館叢書15)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2013年12月
宮﨑徹監修・文『鏑木清方 江戸東京めぐり』求龍堂、2014年8月
宮﨑徹『鏑木清方 清く潔くうるはしく』東京美術、2014年9月
『鎌倉市鏑木清方記念美術館 収蔵品図録』(鏑木清方記念美術館叢書16)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2014年12月
『鏑木清方の随筆『こしかたの記』を読む その二―『報知新聞』大正期掲載挿絵及び関連口絵所収―』(鏑木清方記念美術館叢書 17)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2015年1月
『鏑木清方と珊々会 西山翠嶂、西村五雲、松岡映丘、菊池契月、結城素

明、上村松園、小杉放菴とともに ―『報知新聞』大正期掲載挿絵等所収―』(鏑木清方記念美術館叢書 18)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2016 年 2 月
山田奈々子『増補改訂　木版口絵総覧』文生書院、2016 年 12 月
『鏑木清方の随筆『續こしかたの記』を読む その一 ―『九州日報』掲載挿絵等所収―』(鏑木清方記念美術館叢書 19)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2017 年 2 月
『宮崎徹氏追悼文集』宮崎徹氏追悼文集刊行会、2017 年 8 月
『鏑木清方の随筆『續こしかたの記』を読む その二 ―『讀賣新聞』掲載挿絵等所収―』(鏑木清方記念美術館叢書 20)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2018 年 2 月
『鏑木清方と金鈴社 吉川霊華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに ―『中央美術』・『新浮世絵講義』関係資料所収―』(鏑木清方記念美術館叢書 21)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2019 年 2 月
『鏑木清方と昭和の美人画 ―青衿会及び『婦人画報』関係作品所収―』(鏑木清方記念美術館叢書 22)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2021 年 2 月
『清方が描いた子どもの世界 ―『少年世界』『少女世界』『少年界』『少女界』掲載口絵等所収―』(鏑木清方記念美術館叢書 23)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2023 年 3 月
『鏑木清方と卓上芸術 ―『苦楽』『文藝界』関係資料所収―』(鏑木清方記念美術館叢書 24)鎌倉市鏑木清方記念美術館、2025 年 3 月

(四)対談
根本章雄・倉田公裕「対談『祖父清方を語る』」、『特別展 四季の女性』図録、鎌倉市鏑木清方記念美術館、2000 年 9 月
福富太郎・山下裕二「生き証人・福富太郎に訊く清方」、『清方ノスタルジア 名品でたどる 鏑木清方の美の世界』2009 年 11 月

(五)海外文献(鏑木清方関連)
■展覧会図録
Lawrence SMITH, NIHONGA Traditional Japanese Painting 1900–1940, British Museum Press, 1991.
Timothy CLARK, Ukiyo-e Paintings in the British Museum, British Museum Press, 1992.
Ellen P. CONANT, NIHONGA Transcending the Past: Japanese-Style Painting, 1868–1968, The Saint Louis Art Museum/The Japan Foundation (Saint Louis & Tokyo), 1995.
Kendall H. BROWN, Hollis GOODALL-CRISTANTE, Shin-Hanga: New Prints in Modern Japan, Los Angeles County Museum of Art in association with University of Washington Press (Los Angeles), 1996.
Arte in Giappone 1868–1945, Roma, Galleria nazionale d'arte moderna, 2013.
Kuchi-e, Stampe japoneze din perioada Meiji, Arad, Muzeul de Artă Arad, 2016.
■論文
INOUE Mariko, Kiyokata's Asasuzu: The Emergence of the Jogakusei Image, Monumenta Nipponica, Vol.51–no.4, 1996 Winter.
■書籍
Miya Elise Mizuta Lippit : Aesthetic Life : Beauty and Art in Modern Japan, Harvard University Asia Center, 2019.

(六)随筆所載文献
西崎憲編『12 か月の本 4 月』国書刊行会、2025 年 3 月(「褪春記」所載)
西崎憲編『12 か月の本 5 月』国書刊行会、2025 年 3 月(「若葉」所載)
西崎憲編『12 か月の本 10 月』国書刊行会、2025 年 9 月(「町の鑑賞」所載)
西崎憲編『12 か月の本 1 月』国書刊行会、2025 年 12 月(「宝船」所載)
宮崎智之編『精選日本随筆選集 歓喜』筑摩書房、2026 年 2 月(「あさがお」所載)

Ⅴ　鏑木清方自筆文献単行書の所収内容

ag:紫陽花舎随筆
鏑木清方著・山田肇編『紫陽花舎随筆』六興出版、1978 年 1 月
＊所収図版:「御殿場・栢木」「栢木」「一色にて」「一色にて」「牡丹」「花菖蒲」「船住居」「隅田川往来の船」「照」「照」
＊所収文章:「老鶯」「涼味」「去年の元日」「年始歳暮」「鎌倉の夏」「日本髪」「朝富士」「胡瓜」「御会食の記」「白足袋」「張子の虎」「ラジオの功徳」「庶民の夏」「ゆかた」「二日月」「散歩」「あさがほ」「郷愁の色」「ひとりごと」「雁」「鎌倉の美術館」「正月の思ひ出」「かきぞめ」「探梅」「菓子の会」「尊氏と正成」「人相」「行儀」「芸術院の授賞式」「朝夕安居」「交番の焼打」「つゆあけ」「木犀」「三国同盟」「逆説忠臣蔵」「桜が池」「女芝居」「ある構図」「平和追求」「道しるべ」「菊」「引越ばなし」「子鴉」「銀座回顧」「回想の江東」「立姿」「M夫人」「『明石町』對面」「散歩」「江東の梅を思う」「青帛の仙女」「失はれた築地川」「御殿場高原」「忘られぬ俤」「上村松園論」「自作を語る」「市人の暮らし」「私の先生」「円朝と野州の旅をした話」「内職」「雑誌の絵について」「思ひ出の佃小橋」「五十年前」「わが家の歴史」「作品のゆくへ」「『明石町』をかいたころ」「金澤八景」「清長」「心のふるさと」「古跡」「弔辞」／鏑木照「妻として五十年」／北川桃雄・鏑木清方「清方閑談」／山田肇「あとがき」

as:蘆の芽
鏑木清方『蘆の芽』相模書房、1938 年 6 月
＊所収文章:はしがき―つのぐむ蘆―／「蘆の芽」「火を懐しむ」「身辺近事」「時の流れ」「春侘びし」「あるはずの瀧」「明治風俗十二ヶ月」「挿絵家の暮らし」「美人説」「幻の町」「娘のこのみ」「生活思ふまゝ」「溪仙詩情」「芸術院初会」「花鳥のはなし」「新江東図説」「常緑松園」「日本髪」「はやりかぜ」「一画一文」(「今井橋の富士」「堀切」「行徳の常夜燈」「濱名湖畔」)「松岡君とのつきあひ」(「金鈴社」「帝展」「改組、改組以後」)「地図を彩る」「香を偲ぶ」「婦系図その他」「しばゐばなし」「河合武雄」「劇評」(「岡崎と夢の市蔵」「快作『鶴八鶴次郎』」『吉野山』と『鎧櫃』」)「芝居見物今昔」

az:東なまり
鏑木清方『東なまり』『道中硯』(鏑木清方随筆選集　第 2 巻)(二冊一組)双雅房、1943 年 2 月
＊所収文章:『東なまり』・・「ともしび」「緑の雨」「あさがほ」「ジョリイ」「明治の東京語」「入浴」「河岸」「慶喜公謹慎の間―素材素描　上―」「女役者粂八―素材素描　下―」「月の絵」「日本髪」「はやりかぜ」「身辺近事」

b1:鏑木清方文集　一　制作餘談
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集　一　制作餘談』白鳳社、1979 年 8 月
＊所収図版:「晴れゆく村雨」(小下絵部分)「築地明石町の文」「崔承喜」「十一月の雨」「たけくらべ」(肉筆回覧誌『研究画林』)「女役者粂八」
＊所収文章:「私の経歴」「年賀の端書に就て」「私の生活」「画家のユートピア」「秋窓冗語」「人事素描」「緑蔭絵事を語る」「我が好む画人」「職業の殻」「精神生活の欠乏」「そぞろごと」「紫陽花舎閑話」「挿画家の暮らし」「挿絵閑話」「花鳥のはなし」「昔の人」「三つのすがた」「そぞろごと」「連翹」「肖像画」「凡人凡語」「日記抄」「画室の反抗｜あの頃のこと｜」「市人の暮らし」「自作を語る」「美登利の思ひ出」

「『曲亭馬琴』の思ひ出」「出世作」「『黒髪』」「最も深い興味を以て画いた作品」「予が最近の試み」「作品のゆくへ」「M夫人」「『明石町』対面」「『明石町』をかいたころ」「嘗て見た慶喜を」「素材素描」「『一葉』」「藤掛博士の肖像」「写像後記」「小説『にごりえ』を画にして」「画帖『朝顔日記』について」「鏡花本の装釘」「『朝夕安居』」「個展論」「芝居と絵画」「明治風俗十二ヶ月」「墨水十趣」「三つのながめ」「作者のことば」「作者のことば」「今様絵詞の会」「ことば」「形と心」「画房雑稿」「材料の話断片」「技法の話」／山田肇「あとがき」

b2:鏑木清方文集　二　明治追懐

鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集　二　明治追懐』白鳳社、1979年11月

＊所収図版:「朝夕安居」「明石町(「築地川」の内)「作者」(「築地川」の内)「結婚の年、照宛賀状」「結婚前・後の照写生」「大橋」「大川端花火の夜」「寺小屋画帖」

＊所収文章:「五十年前」「心のふるさと」「わが家の歴史」「引越ばなし」「草雙紙」「上野の戦争」「山の手と下町」「母」「新富座」「築地界隈」「築地川」「築地明石町」「銀座」「俤草」「初めの志望」「私の先生」「年方先生に学んだ頃」「恩師のこと」「絵灯籠」「狂言」「新花町の家」「内職」「円朝と野州の旅をした話」「夜蕾亭昔話」「ともだちの話」「木挽町裏住居」「注文帳のぬきがき」「濱町河岸回顧」「濱町にゐたころ」「牛込夜話」「横寺町の先生」「思ひ出今昔」「挿画家生活」「明治の挿絵」「挿絵の興起」「雑誌の絵について」「挿絵今昔談」「兎と萬年青」「兎後談」「花見」「明治以来東京の名物」「名物無名物」「芝居昔ばなし」「明治の東京語」「明治の生活美術寸言」「廣重と安治」「明治の作品展示を観て」／山田肇「あとがき」

b3:鏑木清方文集　三　先人後人

鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集　三　先人後人』白鳳社、1979年5月

＊所収図版:「西光」(水野年方筆)「浅みどり」「上村松園書簡」「神戸埠頭にて」「舞妓素描」(土田麥僊)「佃島の秋」

＊所収文章:「先師遺蹟解説」「渡辺省亭先生の画」「武内桂舟先生」「梶田半古先生」「半古先生のこと」「邦画壇の三元老―大観・栖鳳・玉堂―」「今日この時の川合先生」「下村さんと其作品」「下村氏の業績」「上村松園氏」「常緑松園」「松園女史に寄せる」「上村松園論」「青帛の仙女」「松園さんを想ふ」「士大夫の書画」「士大夫の業」「小感」「追憶断片」「平福君を悼む」「自然児百穂」「芝居の背景を描いた話」「回想」「春寒」「友縁有情」「『室君』」「遺業追懐」「金鈴社と松岡君」「結城素明君を偲ぶ」「麦仙氏の芸術」「精進の一生」「麦仙君回想」「しのぶぐさ」「麦仙君の芸術」「研究室」「研究の一生」「かけがへのない人」「速水御舟のえらさ」「渓仙詩情」「平野の詩人―森田恒友―」「『平野雑筆』の著者」「嘆き―西村五雲さんのこと―」「秋雨抄」「情緒の写生」「新鮮味」「思ひ出の一端」「契月氏の二つの道」「菊池契月さんのこと」「こころのとも」「石崎光瑤氏」「東京と京都」「半古門下の二秀才―古径・青邨―」「影を捉ふ―山口蓬春君―」「深水の一面」「をしへ子深水」「山本丘人さん」「『挿絵節用』序」「組皿」「草の露」「『雪岱集』序」「『たけくらべ絵巻』」「『近代挿絵考』序」「思ひ出の佃小橋」／山田肇「あとがき」

b4:鏑木清方文集　四　春夏秋冬

鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集　四　春夏秋冬』白鳳社、1979年3月

＊所収図版:「年賀状」「宝船」「宝珠」「金の井の李月夜」「隣家の山桜」「あさがほ」「胡瓜」「茄子、蛸」「栗」「初茸」「山茶花」

＊所収文章:「年始歳暮」「正月の思ひ出」「吉例」「宝船」「かきぞめ」「初春の画題」「春詫びし」「二月の言葉」「如月小品」「如月日記」「大橋の白魚」「讃讃桜」「春への連想」「褪春記」「きいろい花」「若葉」「菖蒲湯」「緑の雨」「梅雨」「つゆあけ」「涼床語」「夏は水こそ」「あさがほ」「あさがほ」「涼味」「ともしび」「団扇と浴衣」「ゆかた」「ゆかた」「土用前後」「庶民の夏」「郷愁の色」「胡瓜」「秋まだ浅き日の記」「月の絵」「二日月」「こほろぎ」「木犀」「秋」「障子」「東籬小話」「菊」「雁」「冬がまへ」「火を懐しむ」「からかぜ」「冬に向ふ」「雪」／山田肇「あとがき」

b5:鏑木清方文集　五　名所古跡

鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集　五　名所古跡』白鳳社、1979年2月

＊所収図版:「大原寂光院」「駿河阿部川橋」「唐招提寺南大門前」「落柿舎」「橋場の渡し」「柳圃虫声」「篠崎の蓮根」「江戸川」「葛西橋放水路河口」「葛西二の江」「新川口」「善養寺、星降り松、影向松」

＊所収文章:「東海道を下る」「上方見物」「桜ヶ池」「姫街道」「道しるべ」「旅と自動車」「初旅」「東郊の思ひ出」「探梅」「江東の梅を思ふ」「回想の江東」「隅田川東岸」「歴史のある顔」「古跡」「蘆の芽」「新江東図説」「一画一文」「地図を彩る」「隅田川西岸」「小本」「寮住居」「銀杏返し」「堀尾老人」「馬道の師匠」「銀座回想」「失はれた築地川」「川越道」「あるはずの瀧」「塔の澤浴泉記」「大文字」「筆捨松」「金澤八景」「朝富士」「御殿場高原」／山田肇「あとがき」

b6:鏑木清方文集　六　時粧風俗

鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集　六　時粧風俗』白鳳社、1980年2月

＊所収図版:「『一葉』部分―銀杏返し」「立姿」「大淀」「堀切小高園」「歌妓三態一」「歌妓三態二」「歌妓三態三」「夜会結び再興」「中年の夫人」「ポーラ・ネグリのカルメン」「出のなり」「『目黒の栢莚』(部分)」「鏡山故郷錦」

＊所収文章:「時の流れ」「美と贅澤」「前垂」「伝統」「立姿」「えりもと」「娘のこのみ」「露」「夏衣」「花菖蒲と銀杏返し」「歌妓三態」「夜会結び再興」「中年の夫人」「日本髪」「美人説」「美女物語」「銀幕の美女」「映画追憶」「パール・ホワイトの死」「トオキイになつてから」「千恵蔵映画を褒む」「映画、制作、芝居―記者X氏との対話」「絵と映画」「映画と挿絵の関係」「汐風」「しばゐばなし」「芝居見物今昔」「日本髪」「芝居は無学の学問なりといふこと」「芝居だんぎ」「芝居一家言」「聾さじき」「歌舞伎の味」「芝居の色彩と豊国」「濡衣」「女形」「女芝居」「装置今昔」「目黒の栢莚」「形としての団十郎」「団十郎と影法師」「五世菊五郎を偲ぶ」「菊五郎片影」「香を偲ぶ」「梅薫る」「栄三郎を悼む」「梨園の長者」「河合武雄」「清忠さんのこと」／山田肇「あとがき」

b7:鏑木清方文集　七　畫壇時事

鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集　七　画壇時事』白鳳社、1980年6月

＊所収図版:「水仙鶉図」(傳徽宗皇帝)

＊所収文章:「郷土会の今日まで」「千種さんを譽む」「山川君が美人画の会を催すに就て」「邦画に志す青年に」「帝展はやりやまひ」「日本画の進路」「美術の社会に対へる一面」「ロシヤ絵の初印象」「今年の美術界回顧」「川崎君の『オフイリヤ』」「送夏迎秋」「日本画壇の動き」「時事小感」「帝展中心の雑話」「さしあたつての望み」「寸言」「近代美術館について美術人でない読者へ」「会場のはなし」「現代人物画の傾向」「歴史画の更正」「帝国美術院は民間団体の強化を計れ」「新帝院よ、展覧会に重点を置くな」「批評家の立場、作家の立場」「帝展問題その他―時局問題一問一答―」「思ひよること」「話題二つ」「卓上語」「前田、島崎」「美術と官權」「戦時に開かれる新文展」「身勝手ならぬ身勝手」「安田靱彦」「芸術院と松園さん」「絵の働き」「寺島紫明君」「〈三彩〉の創刊」「文展第八回・作家と批評家」「文展第九回・人物画」「文展第十回・人物画」「文展第十一回・人物画」「文展第十二回・人物画」「帝展第一回・力強い表現を望む」「帝展第一回・鑑査の意義とその主張」「帝展第三回・鑑査に就て」

「帝展第五回・風俗と品のこと」「帝展第六回・鑑査難」「帝展第七回・人物風俗画」「帝展第八回・日本画」「帝展第九回・新人及び好きな作家」「帝展第十回・偶感」「帝展第十回・『罌粟』」「帝展第十一回・邦画評」「帝展第十一回・任務を了へて」「帝展第十二回・日本画」「帝展第十三回・雑感」「帝展第十三回・今のこゝろもち」「帝展第十四回・感覚に乏しき日本画」「帝展第十四回・人物画を語る」「帝展第十四回・若き作家達」「帝展第十五回・鑑賞記」「帝展第十五回・日本画を観る」「新帝展第一回・審査員の一人として」「新帝展第一回・鑑審査を終りて」「新帝展第一回・第一部評」「新帝展第一回・技術を観る」「新帝展第一回・二三の覚書」「新帝展第一回・鑑査後記」「新文展第一回・審査所感―思ひよるまゝ―」「新文展第一回・私の報告」「奉祝展と文展の性格」「新文展第四回・評を望まれて」「新文展第四回・官展と審査」「国展・有意義な存在」「院展を観て」:(「院展大観」「異常か平明か」「今の心持」「院展の人物画」「院展の絵」「『居覚泉』その他」「〈道成寺〉画題の逸品」「院展評」「婦女図」「『杉橋検校』の作者」)「青龍展を観て」「春陽会を見る」「帝展第十五回・洋画第三室をめぐりて」「六潮会に就いて思ふ」／山田肇「あとがき」

b8:鏑木清方文集　八　隨時隨感

鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方文集　八　隨時隨感』白鳳社、1980年9月

＊所収図版:「三遊亭圓朝像」(下絵)「筑波山」「明石町追懐」「築地橋」(「築地川」十面の九)「端午」「夏の女」「野風呂」「如意輪観音」「『薄紅梅』挿絵」「鰯」「臥龍梅」「亀井戸の瓦焼き」「春雪」

＊所収文章:「文展作品と美術院作品と」「日本画家にも生活難がある」「雑感」「此の頃の私の絵」「文展の後に」「郷土会展覧会の前に」「文展雑感」「日記帳より」「写實と装飾の二方面」「自然から受けた印象」「審査員の任命を受けて」「根本的誤謬一つ」「私の印象せる作品」「美人画の修業法」「流行らせたい団扇の絵」「風致保安林」「絵画劇といふもの」「行潦社のあつまり」「絵画劇に就て」「朝日影」「年頭偶感」「名人を憶ふ」「京の夢」「筑波が見える」「故郷のスケッチ」「捕物」「制作の節約を励行すべし」「展覧会の会場」「畜犬三日の記」「近き思ひ出」「むぎ湯」「作家言」「自誡」「画室」「二つの話題」「涼」「甘いものゝ話」「家」「淀の月かげ」「年頭感」「遊心庵漫筆」「かをり」「ジヨリイ」「絵かき商売」「身辺雑事」「雨の箱根」「ことしから不義理をする」「会場のはなし」「端午」「用意の周到さ」「夏の女」「野風呂」「女人夏景」「一陽来復」「入浴」「河岸」「春庭」「並木」「町の鑑賞」「幻の町」「『薄紅梅』に絵を作りて」「生活思ふまゝ」「芸術院初会」「身辺近事」「花鳥私語」「鰯」「はやりかぜ」「花形から馬の脚へ」「築地の河岸」「江東美術園」「内濠外濠」「不二見西行」「新春二題」「雨声」「阿部さんのこと」「思ひ出一つ」「玉堂の人と芸術」「小村さんの追想」「世間ばなし」「庭樹」「藤懸博士寿像の制作」「日記」「松園さんの研究」「左様なら『都』」「岡田さんのこと」「躾」「老鶯」「汽車に乗る」「去年の元日」「鎌倉の夏」「御会食の記」「靴の音」「白足袋」「張子の虎」「ラジオの功徳」「鎌倉の美術館」「散歩」「ひとりごと」「菓子の会」「尊氏と正成」「人相」「行儀」「芸術院の授賞式」「交番の焼打」「三国同盟」「逆説忠臣蔵」「ある構図」「平和追求」「子鴉」「散歩」「遠望した岡倉先生」「忘られぬ俤」「弔辞」「雪」「『銀砂子』序」「『築地川』後記」「『褄春記』序」「『蘆の芽』序つのぐむ蘆」「『連翹』後記」「『清方随筆選集』附記」／山田肇「あとがき」

eg:繪具筥

鏑木清方『絵具筥』(鏑木清方随筆選集　第3巻)双雅房、1944年4月

＊所収文章:「年方先生に学んだ頃　上中下」「出世作」「絵かき商売」「そぞろごと」「邦画壇の三元老―大観・栖鳳・玉堂―」「常緑有情―上村松園―」「友縁有情―松岡映丘―」(「金鈴社」「帝展」「改組、又改組以後」)「溪仙詩情―富田溪仙―」「精進の一生―土田麦仙―」「平野の詩人―森田恒友―」「自然児百穂―平福百穂―」「士大夫の業―吉川霊華―」「恩師のこと―水野年方―」「花鳥のはなし」「『しばらく』の絵」「明治の挿絵」「挿絵今昔談」

ds:道中硯

鏑木清方『東なまり』『道中硯』(鏑木清方随筆選集　第2巻)(二冊一組)双雅房、1943年2月

＊所収文章:『道中硯』・・「東海道を下る」「上方見物」「初旅」「塔の澤浴泉記」「隅田川西岸」(「浅茅ヶ原」「化地蔵」「妙亀塚」)「蘆の芽」「新江東図説」「地図を彩る」「筆捨松」

gb:廣瀬操吉編『畫房隨筆』

廣瀬操吉編『畫房随筆』錦城出版社、昭和17年

＊所収文章:「初旅」

gg:鏑木清方繪入本　御濠端

鏑木清方『鏑木清方繪入本　御濠端』双雅房、昭和13年7月

＊所収文章:「濠端風景」(「半藏門」「柳の井」「大手町附近」「千鳥ヶ淵近傍」「紀尾井町」「辨慶橋」)「歌妓三態」

gk:菊池寛編『現代文章軌範』

菊池寛編『現代文章軌範』非凡閣、昭和14年9月

＊所収文章:「燈火」

gs:銀砂子

鏑木清方『銀砂子』岡倉書房、1934年5月

＊所収文章:「序」／「からかぜ」「筆捨松」「家」「東海道を下る」「緑の雨」「団扇と浴衣」「美女物語」「初旅」「讃讃桜」「筑波が見える」「浜町河岸回顧」「出世作」「秋窓冗語」「東郊の思ひ出」「銀幕の美女」「団十郎と影法師」「芝居行脚」(「五郎から」「佐倉義民伝」「国定忠次」「美男ぞろひ」「古典の金看板」)「人事素描」「新花町の家」「遊心庵漫筆」「挿絵今昔談」「平野の詩人」「水野年方先生」「平福君を憶ふ」「緑蔭絵事を語る」「塔の澤浴泉記」「牛込夜話」

gz:群像　日本の作家　5　泉鏡花

鏑木清方『群像　日本の作家　5　泉鏡花』小学館、1992年1月

＊所収文章:「思ひ出今昔」

k1:こしかたの記

鏑木清方『こしかたの記』中央公論美術出版、1961年4月

＊所収文章:「發端」「鈴木学校」「やまと新聞と芳年」「少年時に見た芝居」「大根河岸の三周」「柴田是真とその一門」「神田の学校」「鷺流の狂言」「年方先生に入門」「圓朝と野州に旅をした話」「湯島の住居」「傘谷から京橋へ」「挿絵画家となりて」「『読売』在勤」「梶田半古」「横寺町の先生」「口絵華やかなりし頃(一)」「口絵華やかなりし頃(二)」「鳥合会」「戦争の前後」「文展開設(一)」「文展開設(二)」

k2:續こしかたの記

鏑木清方『續こしかたの記』中央公論美術出版、1967年9月

＊所収文章:「大正のあゆみ(一)」「大正のあゆみ(二)」「金鈴社前記」「金鈴社(一)」「金鈴社(二)」「文展終期」「帝展發足」「金澤八景」「遊心庵」「大正の震災」「山の手の住居」「羅馬開催日本美術展覧会」「東海畿内の旅(一)」「東海畿内の旅(二)」「郷土会」「夜蕾亭雑記(一)」「夜蕾亭雑記(二)」「夜蕾亭雑記(三)」「夜蕾亭雑記(四)」「夜蕾亭雑記(五)」「疎開以前のこと」「疎開日記抄(一)」「疎開日記抄(二)」「雪の下にて」「慶喜公謹慎の間」「画室の反抗―あの頃のこと―」「老鶯」

kg:鏡花全集　月報

鏑木清方、『鏡花全集　月報』(非売品)岩波書店、1986年12月

＊所収文章:「思ひ出今昔」

k4g:鏡花全集　四　月報

k28:鏡花全集　28巻

泉鏡太郎『鏡花全集　巻二十八』岩波書店、昭和17年11月

＊所収文章:泉鏡花「健ちゃん大出来！」

kt:巨匠との対話

河北倫明『巨匠との対話』春秋社、1984年4月
＊所収文章:鏑木清方・安田靱彦、司会:河北倫明「明治・大正の美術界」

kz:新装―きもの随筆
『新装―きもの随筆』双雅房、1938年
＊所収文章:「木綿」「ゆかた」

nk:文学に見る日本の川
高見順編『文学に見る日本の川―隅田川―』日本週報社、1960年8月
＊所収文章:「隅田川西岸」(浅茅ヶ原・化地蔵・妙亀塚・蘆の芽・新江東図説)

n32:日本美術院百年史　三巻下(資料編)
日本美術院百年史編集委員会編『日本美術院百年史　三巻　下〔資料編〕』、日本美術院、1992年9月
＊所収文章:「ある友へ、龍岡町から」、「金鈴社以前」、川合玉堂・鏑木清方・村雲大樸子・藤森順三「玉堂・清方閑談会」、出席者:鏑木清方・坂崎坦・安田靱彦・結城素明・松林桂月・溝口禎次郎「明治時代の日本画界を語る(座談会)」、鏑木清方・安田靱彦、司会:河北倫明「明治・大正の美術界」、鏑木清方、北川桃雄・藤本韶三(ききて)「むかしがたり　一　鏑木清方氏」、坂井犀水「新時代の作家(8)　鏑木清方氏」、安田靱彦「感じたまま」(鏑木清方氏を語る)

rs:連翹
鏑木清方『連翹』大雅堂、1943年7月
＊所収文章:「雨声」「昔の人」「連翹」「藤懸博士の肖像」「写像後記」「兎と萬年青」「兎後談」(「附記」)「武内桂舟先生」「凡人凡語」「一葉」「歴史のある顔」「松園女史に寄せる」「築地の河岸」「寮住居」「草の露」「清忠さんのこと」「三つのすがた」「日記」「江東美術園」「秋雨抄」「美と贅沢」「職業の殻」「世間ばなし」「廣重と安治」「隅田川東岸」「毛谷村」「女形」「雪」(「上　薄雪」「中　深雪」「下　雪晴」)／「後記」

rt:靈華追悼畫集
関如来編集『靈華追悼画集』(芸術雑誌『関』創刊記念)、会心居、1929年5月
＊所収文章「追憶断片」

sk:四季しのぶ草
鏑木清方『こしかたの記』『四季しのぶ草』(鏑木清方随筆選集　第1巻)(二冊一組)双雅房、1941年11月
＊所収文章:「四季しのぶ草」‥「春怱びし」「大橋の白魚」「きいろい花」「褪春記」「菖蒲湯」「団扇と浴衣」「土用前後」「涼床語」「秋」「秋まだ浅き日の記」「からかぜ」「雪」

ss:清方随筆選集
鏑木清方『清方随筆選集』双雅房、1944年9月
＊所収文章:「こしかたの記」‥「山の手と下町」「築地界隈」「銀座」「絵灯籠」「狂言」「新花町の家」「木挽町裏住居」「濱町にゐたころ」「牛込夜話」「芝居昔ばなし」「築地川」／「四季しのぶ草」:「春怱びし」「大橋の白魚」「きいろい花」「褪春記」「菖蒲湯」「団扇と浴衣」「土用前後」「涼床語」「秋」「秋まだ浅き日の記」「からかぜ」「雪」／「東なまり」‥「ともしび」「緑の雨」「あさがほ」「ジョリイ」「明治の東京語」「入浴」「河岸」「慶喜公謹慎の間―素材素描　上―」「女役者粂八―素材素描　下―」「月の絵」「日本髪」「はやりかぜ」「身辺近事」／「道中硯」‥「東海道を下る」「上方見物」「初旅」「塔の澤浴泉記」「隅田川西岸」(「浅茅ヶ原」「化地蔵」「妙亀塚」)「蘆の芽」「新江東図説」「地図を彩る」「筆捨松」／「絵具筥」‥「年方先生に学んだ頃　上中下」「出世作」「絵かき商売」「そぞろごと」「邦画壇の三元老―大観・栖鳳・玉堂―」「常緑有情―上村松園―」「友縁有情―松岡映丘―」(「金鈴社」「帝展」「改組、又改組以後」)「溪仙詩情―富田溪仙―」「精進の一生―土田麦仙―」「平野の詩人―森田恒友―」「自然児百穂―平福百穂―」「士大夫の業―吉川霊華―」「恩師のこと―水野年方―」「花鳥のはなし」「『しばらく』の絵」「明治の挿絵」「挿絵今昔談」／「附記」

tb:昭和・物故の美術家たち　追悼文集
中島理寿編『昭和・物故の美術家たち　追悼文集』大日本絵画、1990年9月
＊所収文章:「先師遺蹟解説」、「嘆き」、「小村さん追想」、「菊池さんのこと」、「金鈴社以前」、小川正隆「鏑木清方さんを悼む」

tf:木村荘八『東京の風俗』
木村荘八『東京の風俗』毎日新聞社、1949年2月
＊所収文章:木村荘八「鏑木さん、雑感」

tg:築地川
鏑木清方『築地川』書物展望社、1934年10月
＊所収文章:泉鏡花「序」／「築地川」「土用前後」「絵かき商売」「菖蒲湯」「ジョリイ」「濡衣」「きいろい花」「如月日記」「目黒の栢莚」「淀の月かげ」「上方見物」「畜犬三日の記」「燈火」「芝居昔ばなし」「大橋の白魚」「年方先生に学んだ頃」「こしかたの記」(一「築地」「木挽町」、二「銀座」「絵燈籠」「狂言」)「邦画壇の三元老―大観・栖鳳・玉堂を語る―」「吉川君を憶ふ」「画房雑稿」「『しばらく』の絵」／「後記」

ts:褪春記
鏑木清方『褪春記』双雅房、1937年2月
＊所収文章:「序」／「あさがほ」「大文字」「秋」「注文帳のぬきがき」「歌舞伎の味」「五世菊五郎を偲ぶ」「そぞろごと」「濱町にゐたころ」「えりもと」「涼床語」「ゆかた」「明治の東京語」「雪」「入浴」「河岸」「上野の戦争」「褪春記」「素材素描」(「慶喜公謹慎の間」「女役者粂八」)「草雙紙」「麦仙を悼む」「映画と挿絵の関係」「装置今昔」「月の絵」「秋まだ浅き日の記」「並木」「町の鑑賞」「隅田川西岸」(「浅茅ヶ原」「化地蔵」「妙亀塚」)「美登利の思ひ出」「續こしかたの記」「劇評(一)」(「作者五郎に望む」「吉右衛門の清正」『親』を讃ふ」「水谷見物」「青年競伎」「斬られの仙太」)「劇評(二)」(「新国劇と芸術座」「通し狂言忠臣蔵」「熊本城の清正」「河合・喜多村・花柳」「青年歌舞伎」)「劇評(三)」(「井上と八重子」「三代目歌右衛門記念興行」「新国劇の現代物」「河内屋と澤潟屋」「試験室有楽座」「意義ある競演」)

yg:安田靱彦『画想』
安田靱彦『画想』中央公論美術出版、1982年9月
＊所収文章:安田靱彦「感じたまま」(鏑木清方氏を語る)

yk:柳小紋
鏑木清方『柳小紋』畝傍書房、1943年9月
＊所収文章:「庭樹」「前垂」「川越道」「若葉」「小本」「如月小品」「こほろぎ」「母」「冬がまへ」「躾」「露」「鏡花本の装釘」「岡田さんのこと」「阿部さんのこと」「組皿」「雪岱集序」「障子」「東籬小話」「姫街道」「左様なら『都』」「聾さじき」「芝居一家言」「宝船」「夜蕾亭昔話」「志のぶかご」【(一)銀杏返し(二)堀尾老人(三)馬道の師匠】

zm:随筆集・明治の東京
鏑木清方著・山田肇編『随筆集・明治の東京』(岩波文庫)岩波書店、1989年
＊所収文章:「五十年前」「心のふるさと」「わが家の歴史」「引越ばなし」「前垂」「伝統」「白足袋」「草双紙」「上野の戦争」「兎と万年青」「兎後談」「山の手と下町」「母」「新富座」「築地界隈」「築地川」「失われた築地川」「築地明石町」「築地の河岸」「銀座」「銀座回想」「初めの志望」「狂言」「新花町の家」「内職」「圓朝と野州の旅をした話」「初旅」「江東の梅を思う」「不二見西行」「歴史のある顔」「交番の焼打」「濱町にいたころ」「濱町河岸回顧」「明治の生活美術寸言」「廣重と安治」「芝居昔ばなし」「明治の東京語」「明治以来東京の名物」「名物無名物」「甘いものの話」／山田肇「後記」

zt:鏑木清方随筆集―東京の四季―
鏑木清方著・山田肇編『鏑木清方随筆集―東京の四季―』(岩波文

庫)岩波書店、1987 年 8 月

＊所収図版:「築地明石町」

＊所収文章:「春」‥「一陽来復」「年始歳暮」「正月の思い出」「かきぞめ」「宝船」「春侘びし」「探梅」「如月小品」「庭樹」「雨声」「大橋の白魚」「花見」「褪春記」「きいろい花」、「夏」‥「落葉」「菖蒲湯」「端午」「緑の雨」「梅雨」「内濠外濠」「紫陽花舎閑話」「つゆあけ」「涼床語」「『朝夕安居』」「むぎ湯」「夏の女」「女人夏景」「涼」「野風呂」「あさがお(一)」　「あさがお(二)」「涼味」「ともしび」「団扇と浴衣」「ゆかた(一)」「ゆかた(二)」「土用前後」「庶民の夏」「郷愁の色」、「秋」‥「秋まだ浅き日の記」「月の絵(一)」「月の絵(二)」「身辺近事」「こおろぎ」「木犀」「秋」「障子」「町の鑑賞」「並木」「東籬小話」「菊」、「冬」‥「雁」「火を懐しむ」「冬かまえ」「冬に向う」「からかぜ」「筑波が見える」「入浴」「雪」／山田肇「後記」

za:随筆集・紫陽花舎随筆

鏑木清方著・山田肇選『紫陽花舎随筆』(講談社文芸文庫)講談社、2018 年 7 月

＊所収図版:「築地明石町」「あぢさゐ」「朝涼」

＊所収文章:ag 紫陽花舎随筆と同じ

(今西彩子、鏑木祐子)